



會報

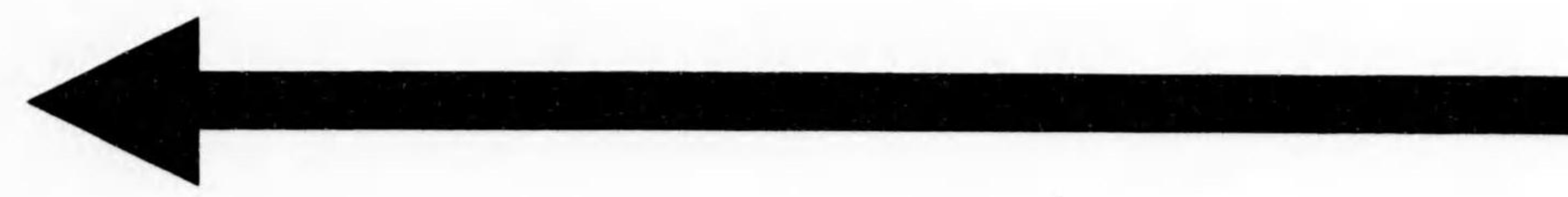
第四卷

特209
242

新蜀縣溫泉協會



始



特209
242

温



好日興趣

大空に伸びかたむける冬木かな

下り立ちて真上に日あり溪紅葉

北向の大玄關や花八つ手

(虚)

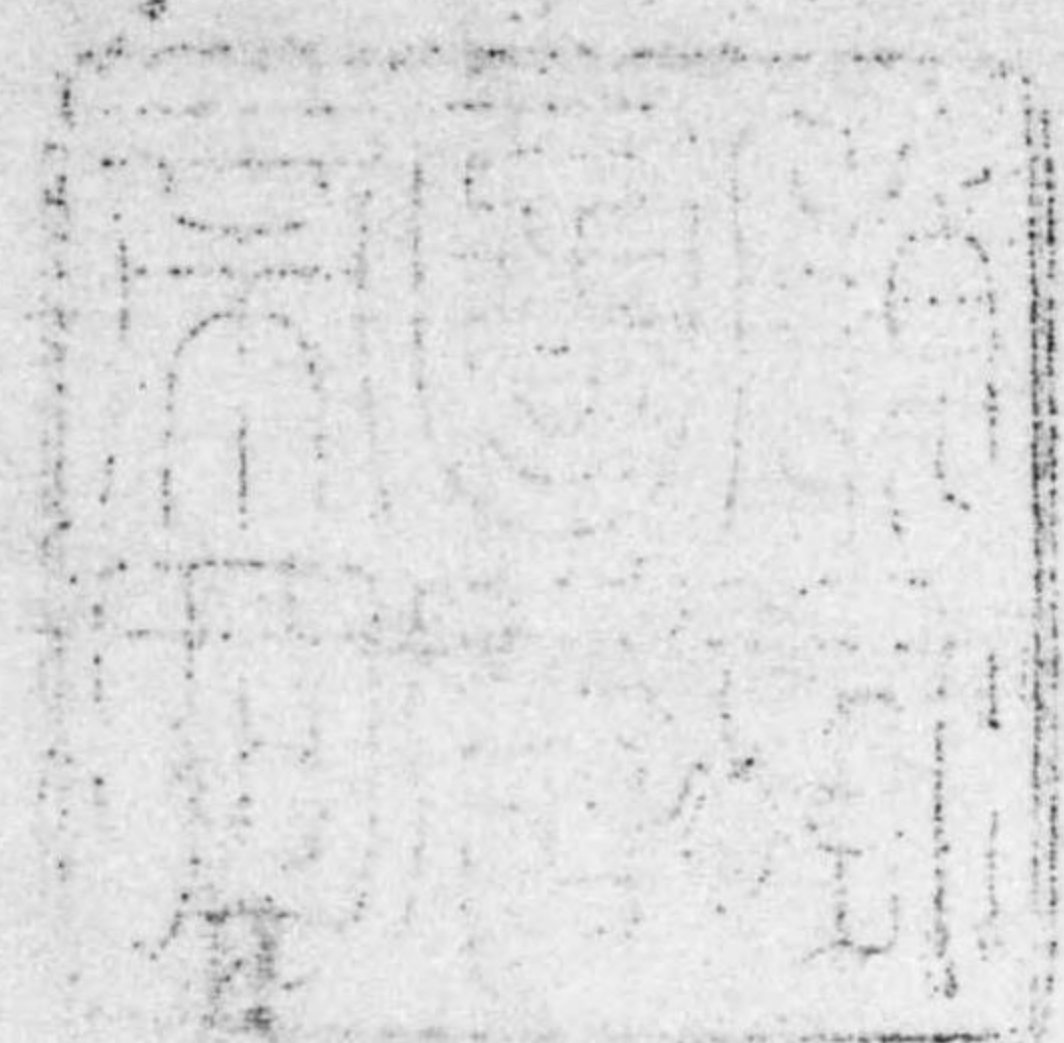
(野風呂)

(鬼城)

發行所寄贈本



泉





會 報

新潟縣溫泉協會第四回總會記錄	三
新潟縣溫泉協會昭和十年度收支決算書	五
新潟縣溫泉協會昭和十一年度歲入歲出豫算書	五
溫泉旅館従業員のサービス講習會	六
赤倉溫泉に於ける講習要項	六
妙高溫泉に於ける講習要項	六
瀨波溫泉に於ける禮儀作法講習要項	六
高瀨溫泉に於ける禮儀作法講習要項	六
赤倉を中心とする名香山村紹介	六
妙高々々原地帶概観	六
南魚沼郡の沿革の概要	一〇三
上越國境附近略圖	折込
瀨波溫泉と附近の名所舊蹟に就て	一〇八
栃木縣方面溫泉視察報告	一一三
新潟縣溫泉協會々々則	一一七
新潟縣溫泉協會役員名簿	一二九
新潟縣溫泉協會々々員名簿	一三三



越 後 の 温 泉

目 次

瀨波溫泉	一	寺泊溫泉	一八
關谷郷の三湯	三	鯨波鑛泉	一九
湯澤溫泉	三	湯谷鑛泉	二〇
高瀨溫泉	四	栃尾又溫泉	二〇
鷹の巢溫泉	五	大湯溫泉	二二
月岡溫泉	六	小出溫泉	二三
赤谷溫泉	七	湯澤溫泉	二四
村杉溫泉	八	石打鑛泉	二五
出湯溫泉	九	河原澤鑛泉	二六
金割鑛泉	一〇	松之山溫泉	二六
三川溫泉	一一	兎口溫泉	二六
麒麟山溫泉	一二	妙高々原の五湯	二九
緒立鑛泉	一二	赤倉溫泉	二九
湯の越溫泉	一三	妙高溫泉	三三
岩室鑛泉	一四	池の平溫泉	三三
田上鑛泉	一五	關 温 泉	三三
成願寺鑛泉	一六	燕 温 泉	三三
湯澤鑛泉	一七	向橋鑛泉	三五
荷頃鑛泉	一七		



泉

泉 場 一 場 温 ス キ 妙 高 際 國

春はツ、チ、夏は避暑
秋は紅葉、冬はスキー

一省團協會
ビュロー協
道、師旅行
スト、旅協
ツ、二縣
鐵、岡島
鐵、第靜廣

御 指 定 御 指 定 御 指 定
テ ル ホ 高 妙

電話 2 番 (新潟關川)

信越線田口驛より五丁
直江津、長野より一時間

春は ツ、チ、

夏は 避暑

秋は 紅葉

冬は スキーと

場 一 キ ス 際 國

館 旅 屋 嶋 加

番 3 川 關 話 電

泉 温 高 妙 口 田 線 越 信

泉 温 三 の 郷 關



四季の仙境

鷹の巢温泉

鐵道省指定景勝地

高瀬温泉

一名雲母の湯

溪谷の仙境

湯澤温泉

米坂線越後下關驛下車
乗合自動車ノ便アリ

春夏秋冬の歡樂郷

涼風はさつと吹込む香風館

前の妙高庭の築山

秋雨に洗い流せし妙高も

旭昇りて紅の色とり

香風館

信越線田口驛より五丁左側
電話 關川 四十六番

諸官省指定旅館

土木建築請負業
旅人宿營業

信越線田口驛下車

赤倉

廣島久松

電話 赤倉 五番

妙高高原

花に避暑に

スキーに紅葉

トウキョウスクツク社指定
ツアーリスト、ビュロー指定
全國同盟旅館協會加盟

信越線唯一の赤倉温泉

國際キス場

トウキョウスクツク社指定・定指一ローユビトスリーツ・定指社クツクスウヤクト



越後赤倉温泉

赤倉ホテル
電話 赤倉 二二番
信越線田口驛前
支店 電話 三十五番

春は花
夏は涼みに秋もみぢ
冬はスキーの越の赤倉

春は花、夏は涼みに秋もみぢ、冬はスキーの越の赤倉

赤倉温泉

ツリーリスト、ビューロー
クーボン加盟

内湯
旅館

香

嶽

樓

電話 赤倉 三番

田口驛前同支店

電話 關川 二五番

舞台付大廣間新築落成

信越線田口驛下車

赤倉温泉 (内湯旅館)

東京温泉會指定旅館

茶代
全廢

高田屋本店

電話 (赤倉十番)

驛前案内所

櫻

屋

電話 關川 三十一番

△本館は

文化十二年高田藩主柳原政令公の當温泉開湯と共に經營せし赤倉最古の温宿であり舊御本陣の光榮を有して居ります。

△宿泊料は

一般御客様の御随意御便宜御取計ひ申します。

たしなみり参が代時の資投地土

世界的温泉保健郷

國際スキ一場(鐵道省指定)

新赤倉温泉場

土地分譲及貨地開始

置 信越線田口驛ヨリ國道十町ノ高原地帯赤倉

温 泉 温泉ノ接續地

引湯工事完成シ温度高ク湯量豊富ニシテ無

色透明ノ炭酸泉

飲料 水 清冽多量ノ飲料水ハ天下一品

敷地内縦横ニ區劃道路ヲ施工シ中央道路ハ

敷地 廣サ貳拾萬坪餘

分譲價格 第一回分譲地ニ限リ壹坪當リ金五圓ヨリ金

拾圓迄

貸地料 第一回貸地料金ニ限リ壹坪當リ壹ヶ月金五

錢ヨリ金八錢迄

住むにも
貯蓄にも
金儲にも

安全なる投資

壹坪貳拾圓以上もして居る天下の赤倉と同等以上の好條件の下にある新温泉が壹坪只の五圓位にて分譲すると云ふのは近來にない快舉ではありませんか。故に東京、大阪、京都、神戸、名古屋等より申込日増加しつゝあり従つて日ならず價格の暴騰するは明かであります。時節柄最も安全の投資物として御推奨致します。案内記御申込次第御送り致します。

△分譲地面積ニ限リアリ

△分譲希望者ニ限リナシ

△土地ハ年々高價ニナルバカリ

△良イ場所ト安イ處ハ早イ者ガチ

信越線田口驛下車 赤倉新温泉

土地分譲
申込所

赤倉新温泉土地分譲事務所

電話 赤倉 一〇番
茂原 一太郎



瀬波温泉

(岩船郡瀬波町瀬新田)

温泉は丘の中腹から攝氏一〇五度の熱湯となつて晝夜間断なく二七米(九十尺)の高さに濼々たる湯煙をあげつゝ盛んに噴出してゐる。

温泉場の左右一帯は幾百年を経た老松さては翠彌若き小松姫松が繁茂する丘陵であり東方一帯は耕地で遙かに朝日岳の連山を望む。

松林の中を西方に約四〇〇米(三、四町)行くと海岸に出る濱は一面美しい砂地で長汀曲浦の窮りを知らず其の白砂青松の間にも旅館が建つてゐる。

その邊から日本海の汪洋を眺めると粟生島や佐渡が波の上

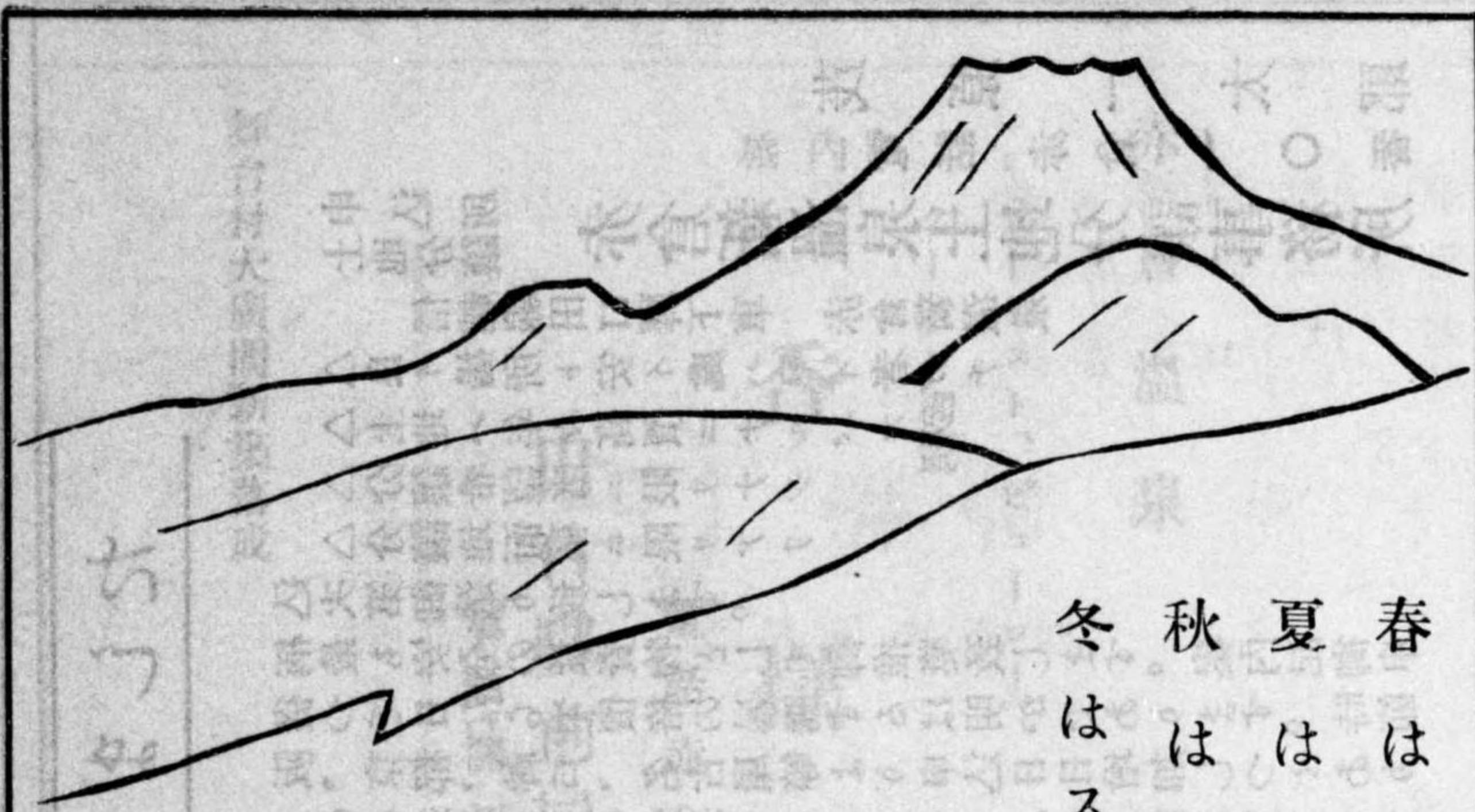
【温泉だより】

越後の温泉



に一抹の青螺となつて浮び日輪に迫つて落日の雄大なる景觀は、團々たる大きな火の玉が水平の彼方に釣瓶落ちる熱銅の金光、乾坤此時に燦然として森羅万象盡く淨化するの此偉觀は太平洋海岸の人では到底想像することが出来ないであらう。

鮭の孵化場で有名な三面川や瀬波の不動瀧、磐船の柵趾、饒速日の命を奉祀せる石船神社等の曳杖地があり、又岩船町境の山間には白鷺の巢くふ周圍約四軒(約一里)の鈴木ヶ池がある等天恵の別天地で春は花、海濱の曳網、青山の蕨狩り、夏は海水浴、釣魚、秋は観月、松茸狩、三面川の鮭漁、冬は狩獵等全く飽くことを知らない。



春は躑躅
夏は避暑
秋は紅葉
冬はスキー

妙高々原

赤倉温泉

香雲閣

電話 赤倉六番
信越線田口驛下車一里餘



海のものにも山の物にも何一つとして缺くことがなく潑刺たる魚介、新鮮なる野菜がいつも食膳を賑はしてくる。頼三郎が、

「海山の美を云はんか我之を奥の松島に觀たり、海山の奇を云はんか我之を羽の男鹿に見たり、而してこの美と奇を合するもの今越の海府笹川の流に觀る。」と激賞した。北陸第一の奇勝笹川の流は浴客の是非一度は清遊を試むべき地である。

峰の峽霧がさら／＼小雨、濡れて

濡れて瀨波に立つは浮名か、湯のけむり

瀨波 小唄

交通

羽越線村上驛から約二、四料(二十二町) 乗合自動車がある。

乗合自動車賃 片道拾五錢 往復貳拾錢
貸切自動車賃 五拾錢
泉 質(温度攝氏一〇五度)

無色清澄で異臭なく微に鹹味あり、弱食鹽泉に屬す。

効能

慢性消化器病(弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘) 慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病(糖尿病、脂肪病、痛風、貧血、腺病)

禁忌

興奮性神經病、胃酸過多症、消化器痙攣症、腎臟炎

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痙攣質斯、慢性濕疹、官能性神經病(ヒステリー及神經衰弱) 軽度の脊髄病、中樞及末梢性痲痺(經久性半身不隨、小兒痲痺) 婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

旅館

萩野屋、三島屋、大和屋、養眞亭、吉田屋、臨海ホテル
五泉屋、松月亭、東屋、見晴屋、ますや等何れも内湯がある。

關谷郷の三湯

飯豊、朝日の二大山に源を發し、羽前小國谷の溪流を合せ越後山脈の諸嶺を横斷して關谷に入り更に數方、秆の水を呑んで奔放一二秆(約三里)にして海に入る荒川の流域には湯澤、高瀬、鷹の巢の三温泉場がある。何れも風光明媚な避暑に絶好の地であり、河畔の爛漫たる櫻花、山々の新緑、荒川の川狩、連山の紅葉、茸狩り、狩獵、沼山、長峰、丸山のスキー等四季夫れ／＼の行樂がある。

湯澤温泉 (岩船郡女川村湯澤)

今から約六百年前に津野元太夫といふ志摩の國の人が熊が浴してゐるのを見て發見したもので當時女川中東に住んでゐた鎌倉の落人須貝行武が開湯したものと傳へられる。

温泉場は荒川の温泉橋から左へ約六〇〇米(五、六町)山の裾にある。

旅館の間に伍して松嶽寺と云ふ古刹があり情景頗る素朴の

感ある温泉場である。

湯は荒川支流の峽谷に湧出して背面一帯は翠色滴る山々の連亘前面は遠く飯豊の英姿が碧落の上に秀で荒川の清流は帯の如く其の前面を索つて左右の森や丘の間には榎曳く炊煙が夢の溶けたやうに立ち迷ふてゐる。

交通

米坂線、越後下關驛から約二秆(約十八町)
羽越線、坂町驛から 約一三秆(三里餘)
何れも乗合自動車がある。

乗合自動車賃

越後下關驛から 拾錢
坂町驛から 參拾錢

泉 質(温度攝氏五〇度)

無色澄明で鹹味あり、芒硝及石膏含有弱食鹽泉に屬す

効能

内用

慢性消化器病(弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘) 慢性喉

頭及氣管支加管兒、新陳代謝病及全身病(糖尿病、脂肪病、痛風、貧血、腺病)

禁忌

興奮性神經病、胃酸過多症、消化器癱瘓症、腎臟炎

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節癱瘓質斯、慢性濕疹、官能性神經病(ヒステリー及神經衰弱)軽度の脊髄病、中樞及末梢性痲痺(經久性半身不隨、小兒痲痺)婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

旅館

高橋館、桂屋、かじ屋、酒屋、高砂屋、仲屋、米澤屋等
内湯がある。

高瀬温泉

(岩船郡女川村湯澤高瀬)

荒川邊りの廣潤な地であり背面一帯は青檜翠綠の連山で飯豊の峰巒を遠く平野の涯に望むこゝは雲母の湯とも云はれ發

見年代は詳かでないが附近の舊家には湯治道具と稱へる漆塗の盥手桶なごが藏されてゐるのを見ても昔から餘程賑つた湯場であるらしい。浴場は各旅館の中央にある。
名所としては藥師堂、澤の阿彌陀如來、蒙羅淵、丸山公園なごがある。

後舟羽前の國を後にして此處は越後の關の里

音も高瀬にかじとめてのこる想は湯のかほり (民謠)

交通

米坂線、越後下關驛から約二軒(十八町)

羽越線、坂町驛から 約一三軒(三里餘)

何れも乗合自動車がある。

乗合自動車賃

越後下關驛から 拾錢

坂上驛から 參拾錢

泉質(温良攝氏七三度)

無色澄明で鹹味を有す、弱食鹽泉に屬す。

鷹の巢温泉

(岩船郡女川村湯澤貝の脇)

効能

慢性消化器病(弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘)慢性喉頭及氣管支加管兒、新陳代謝病及全身病(糖尿病、脂肪病、痛風、貧血、腺病)

禁忌

興奮性神經病、胃酸過多症、消化器癱瘓症、腎臟炎

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節癱瘓質斯、慢性濕疹、官能性神經病(ヒステリー及神經衰弱)軽度の脊髄病、中樞及末梢性痲痺(經久性半身不隨、小兒痲痺)婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

旅館

柏尾屋、金澤屋、米澤屋、大黒屋、ますや、松前屋、るびす屋等

米澤街道から釣橋を渡るとすぐ温泉場である。
見事な峽谷となつた荒川の清流に臨む海拔三〇〇米(一千尺)の地で山容水態の美に富み閑雅幽靜の雰圍氣に恵まれた處で、前面鷹の巢山の老松鬱蒼たる巖上には鷹が巢ふと云ふ開湯は約百四十年前以前の文政二年と傳へられてゐる。

荒川は温泉場前で大きなカーブをなし廣々とした河原を作り、漫々として深淵の淀をなす水が清いから鮭、鱒、鮎、鯉、なごが、水底に游泳しつゝあるのがあり／＼と見える。此附近は目下禁漁區になつてゐるので魚族の繁殖は驚くべく、餌を投げると群り來つて黒い塊りのやうになる。好釣家は正に垂涎三尺むす／＼するであらう。

こゝから荒川に沿つて米澤街道を約二〇軒(約五里)遡ると山形縣の小國に出る。此の間の山峽は未だ多く世に知られてゐないが風景絶佳の峽谷で有名な傳説の残つてゐる折峠や、戊申の役の古戰場 櫻峠、阿部の貞任が八幡太郎義家に

敗れ寶物を隠したと傳へられる八ッ口權現、育兒の神として
崇敬される小安大宮神社、飯豊川が荒川の本流に合する附近
の奇景なご名所舊蹟が頗る多い。

交通

米坂線、越後下關驛から約五 軒 (約一里十町)

羽越線、坂町驛から約一六 軒 (約四里)

何れも乗合自動車がある。

乗合自動車賃

越後下關驛から 十五 錢

坂町驛から 三十五 錢

泉 質 (温度攝氏六五、五度)

無色清澄で僅に鹹味を有す、芒硝含有弱食鹽泉に屬す

効能

内用

慢性消化器病 (弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘) 慢性喉
頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病 (糖尿病、脂肪
病、痛風、貧血、腺病)

禁忌

興奮性神経病、胃酸過多症、消化器痙攣症、腎臓炎

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痙攣質新、慢性濕疹、官能
性神経病 (ヒステリー及神經衰弱) 軽度の春髓病、中樞
及末梢性痙攣 (經久性半身不隨、小兒痙攣) 婦人生殖器
の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

旅館

鷹之集館 (内湯) 一軒で本館二棟、離座敷四棟がある。

月岡温泉 (北蒲原郡)

温泉場は東南一帯に山を控へた田圃の中の平坦地にある。
附近は有名な油田で大正五年から大正八年頃迄は相當の石油
を産したものであつた。大正六年に偶々油量の減じた一井の
堀下げ作業中深度二一八米 (一一〇間) の處から俄然噴出
したのが此温泉である。

今日では四つの湧出地があり、旅館の數も二十五戸となつ

旅館

月岡館、朝日館、廣川屋、廣瀬屋、浪花屋、熊堂屋、桃
の家、青木屋、角屋、みよし屋、あけぼの館、菅名館、
新松館、松葉館、赤松館、よしの屋、榮館、高橋館、
新潟館、湯本館、藤屋、齋藤旅館、和泉屋等 (内湯旅館
もある。

赤谷温泉 (北蒲原郡赤谷村上赤谷)

温泉場は比較的交通便利な飯豊の登山口に當る溪谷に沿
ふた幽邃閑雅な地にある。避暑にスキーに絶好の處で附近に
は遠く日本海を望む第一展望臺、第二展望臺や、村營スキー
場、戊申の役の古戰場、中山藥師なごがある。

溪流に沿ふた舊赤谷鐵山の鐵路約六 軒 (約一里半) は
四季の變化に富む散步道でありドライブの適地でもある。
蕨狩や、秋の紅葉にも有名な處で鮎、やまめ、いわな等が
多く産し釣魚に興することも出来る。

交通

て縣内屈指の温泉場として益々繁榮の道を辿つてゐる。

曳杖地としては躑躅の名所である本田山、眺望の良い山の
神社、折居權現、舟遊、釣魚、鴨獵の好適地たる福島潟な
ぎがあり、附近の山々は松茸の産地として有名である。

交通

羽越線、天王新田驛から約三、三 軒 (約三十町)

乗合自動車がある。賃金二十五 錢

冬季間は馬橋がある。賃金四十 錢

泉 質 (温度攝氏五〇度)

無色澄明で硫化水素臭を放ち少しく鹹味あり、食鹽含有
硫化水素泉に屬す。

効能

浴用

慢性皮膚病 (慢性、癢痒性) 慢性痙攣質新、痛風、腺病
慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の痙攣、慢性
鼻咽喉及氣管支加答兒 (喘息及肺氣腫に繼發せるもの)
經久梅毒、鉛及水銀中毒症

赤谷嶺、赤谷驛から約三 軒 (二十七町)
乗合自動車、馬橋等がある。
乗合自動車賃

赤谷驛から 十銭

新發田町から 四十銭

貸切自動車賃

赤谷驛から 一圓

馬 橋

赤谷驛から 二十五銭

泉 質 (泉源の温度攝氏八二度)

無色澄明で弱アルカリ泉に屬す。

効 能

内 用

腸胃諸病、肝臟疾患、慢性咽喉及氣管支加答兒、腎盂炎
及膀胱加答兒、軽度の血管硬化症、糖尿病、脂肪病、痛
風、貧血
浴 用

慢性癩癩質斯、各種神經痛、慢性婦人生殖器病(皮膚病)
外傷性諸障害、腺病質、官能性神經病(ヒステリー)及神
經衰弱)

旅 館

赤谷温泉ホテル (内湯、家族風呂もある)

村 杉 温 泉 (北蒲原郡笹岡)

足利氏の武將名護屋尾張守の家臣荒木正高が後醍醐天皇の
建武二年に四月朔日から七日間連続して薬師如來の靈夢を感
じ遂に發見したと傳へられる温泉である。

菱ヶ岳の山麓に位し鬱蒼たる老杉古松の森々たる中にある
湯場で背面一帯には秀峯峻嶺連疊として翠を損め一種森嚴の
氣の漲るるところである。

各所に湧き出る飛泉は涓々として酷暑三伏の候も暑さを忘
れ山容水態四時趣きを異にする閑寂な仙境である。

薬師堂、須賀神社、穴居の跡、城山、親鸞上人の舊跡とい
ふ三度栗、魚骨岩等の曳杖地があり、雲雀、秋草、紅葉、茸

の名所として有名な大日ヶ原や桔梗平、薬師平などの曠原に
も程近い。

老杉のむら立つかけの湯の宿の

ねざめすがしき水の音かも

相馬 御 風

交 通

羽越線水原驛から約二 軒 (二里二十七町) 乗合自

動車がある。

新潟市から乗合自動車で行くことも出来る。

乗合自動車賃

水原驛から 三十銭

新潟市から 七十銭

貸切自動車賃

水原驛から 一圓五十銭

泉 質

透明清澄無色無味無臭、單純放射能作泉に屬す。

効 能

内用及浴用
病後衰弱、神經痛、慢性癩癩質斯、痛風、皮膚病(一般
に瘙痒あるもの)

旅 館

石原舎、環翠樓、鈴木屋、六兵、**旅館**、**旅館**、長生
館、角屋、材木屋、本川上屋、荒清旅館、豆腐屋、**旅**
館、川上鎌刃等

出 湯 温 泉 (北蒲原郡笹岡)

平城天皇の御宇大同四年に弘法大師が五頭山に登り秘密加
持の法力に依つて湧出せしめたと傳へる温泉である。五頭山
麓に位し三面は森林鬱蒼たる山を貫ひ西方法華山の丘陵を隔
て、蒲原の平原に連る閑雅幽邃脱俗の別天地で四季共に絶好
の行樂地であるが秋の紅葉は特に有名である。

昭和三年に新湯を掘り當てたる後は益々發展の道を辿つて
ゐる。

附近には洞春觀世音菩薩、薬師堂、弘法大師の花立坂、賽

の河原の地藏尊、華報寺、優婆尊、杉原常陸介の古墳、出湯八景など名所舊蹟が頗る多い。

羽越線 水原驛から約九 軒 (二里十二町) 乗合自動車がある。

新潟市から乗合自動車で行くことも出来る。

乗合自動車賃
水原驛から 三十錢
新潟市から 七十錢

貨切自動車賃
水原驛から 一圓五十錢

泉 質 (温度攝氏三九、五度)
無色澄明で單純温泉に屬す。

効能
浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質新、慢性濕疹、官能性神經病 (ヒステリー及神經衰弱) 輕度の脊髓病、中樞

及末梢性痲痺 (經久性半身不隨、小兒痲痺) 婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

大石屋、角屋、兼清、珍生館、洞春館、清水屋、唐澤屋、白根屋、みなもとや、川上イト、中喜屋、荒木屋、石水亭等

金割鑛泉 (中蒲原郡大蒲原村高松)

高松の人家から約五五〇米 (約五町) 丸山西麓の田園から湧出する鑛泉である。

明治十四年から開湯してゐるが旅館の設備はない。

蒲原鐵道高松停留所から約三三〇米 (約三町)

泉 質
無色澄明、單純泉に屬す。

効能 浴用
外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質新、諸病恢復期、腺

三川温泉 (東蒲原郡三川村内川)

三川村の中央、内川の山方で數十ヘクタールに亘る耕地を見晴らし、遠山の眺めは殊によい。

白崎驛からこの温泉に至る間には日本百景の一たる阿賀野川や、新谷川の溪谷など、天下の勝景があり、其の洗練された風光美は浴客の眼を樂しませるに餘がある。

附近には論曲紅葉狩で名高い餘吾將軍の遺跡を始め名所舊蹟が頗る多い。

スキー場としても恵まれてゐる。

磐越線白崎驛から約四 軒 (約一里) 乗合自動車がある。賃金二十錢

貨切自動車賃 一圓
泉 質 (温度攝氏五三、五度)

無色澄明で微に鹹味を具へ食鹽及石膏含有芒硝性苦味

泉に屬す。

効能 浴用
脂肪病、常習便秘 (消化器弛緩症) 逆上、月經閉止期障害、輕度血管硬化症、下腹部臓器の充血、痔疾

浴用
慢性痲痺質新、神經痛、官能性神經疾患、皮膚病 (殊に乾性、癢痒性)

名所舊蹟
餘吾將軍の跡、餘吾將軍の墓、將軍杉、藥師堂、御前が淵、山の神様の前駐地烏帽子岩

旅館
伊勢屋、高橋館、湯本館、三越ホテル等

麒麟山温泉 (東蒲原郡兩鹿瀬村湯の浦)

麒麟山麓に湧出する温泉である。日本百景阿賀野川を控へ山川の風光極めてよく避暑、觀楓の好適地であるから開湯日

尙淺いにも拘はらず相當の發展を見てゐる。

交通

磐越線津川驛、或は鹿瀬驛から何れも約一、七杆(約十六町)河舟の便がある。

泉 質(温度攝氏四八度)

無色澄明で苦味性弱、食鹽泉に屬す。

効能

内用

慢性消化器病(弛緩症、食物停滯) 脂肪病、常習便秘、慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病(糖尿病痛風、貧血、腺病) 逆上、月經閉止期障害、輕度血管硬化症、下腹部臓器の充血、痔疾

浴用

興奮性神経病、胃酸過多症、消化器痙攣症、腎臓炎、外傷性諸障害、慢性筋及關節痙攣症、皮膚病、官能性神経病(ヒステリー及神經衰弱) 輕度の脊髄病、中樞及

末梢性痙攣、婦人生殖器の慢性諸病、腺病質

旅館 松仙閣等

緒立鑛泉 (西蒲原郡黒埼村黒島)

廣い田圃の中にある野趣横隘の地で元治元年の開湯と傳へられる。鑛泉は緒立八幡の境内から湧出してゐる。

附近には沼地多く狩獵地、或は釣魚地として好適である。各旅館には釣魚用の小舟が準備されてゐる。

交通

越後線寺尾驛から

約四杆(約一里)

新潟市から

約八杆(約二里)

越後大野驛から

約四杆(約一里)

新潟彌彦間の乗合自動車を利用すれば鑛泉場から約二、二杆(約二十町)離れた坂井輪村船員迄行くことが出来る

乗合自動車賃

新潟から船員迄二十錢

貸切自動車賃

寺尾驛から一圓、越後大野驛から八十錢

泉質

淡褐色微濁鹹味を有し食鹽泉に屬す。

効能

浴用

慢性痙攣痙攣、諸種の痙攣(經久性半身不遂、小兒痙攣の類) 痛風、慢性生殖器及泌尿器諸病(慢性子宮周圍炎子宮筋炎等) 貧血、萎黃病、腺病質、虛弱小兒、輕度の血管硬化症、諸病恢復期(濕疹)

逆上の傾向

旅館

大黒屋、立花屋等

湯の越温泉 (西蒲原郡角田村越前濱)

角田山麓の高地に在る温泉場に至つて閑靜な處、鬱蒼たる

樹林を背後に前面遙かに松野尾瀨を望む形勝の地である。

附近には岸、岩、波の三題目の眞筆、惡龍教化的靈蹟として傳はる日蓮宗の名刹妙光寺や稻島薬師、角田の岩窟、銀明竹林等の曳杖地があり、角田濱、越前濱の海水浴場にも程近い。

避暑地、狩獵地或は春秋の行樂地として好適である。

交通 越後線越後赤塚驛から約六杆(一里十八町)

新潟彌彦間の乗合自動車は温泉場から約三杆(二十八町)前の松野尾村松山を通つてゐる。

卷、角田濱間の乗合自動車を利用すれば温泉場の約八七〇米(約八町)前迄行くことが出来る。

泉 質(温度攝氏二八度)

微黄色澄明で硫化水素泉に屬す。

効能

浴用

慢性皮膚病(濕性、癢痒性) 慢性痙攣痙攣、痛風、腺病

慢性婦人生殖器病、月経閉止期障害、諸種の痲痺、慢性鼻咽喉及氣管支加答兒（喘息及肺氣腫に繼發せるもの）
經久梅毒、鉛及水銀中毒症

旅館

旅館の設備はないが自炊客のあるときは二十坪の座敷を貸してゐる。

岩室鑛泉

（西蒲原郡 岩室村岩室）

一名靈雁泉とも云はれて居る。

傳ふる所に據ると正徳三年元旦の夜岩室に住む高島庄右衛門といふ人の夢枕に白髪の老翁が立つて「是より東北に當る老松の下、岩石の間に靈泉あり、之れに浴すれば諸病平癒せざることをなし、汝開發して衆生を救濟せよ」と告ぐ。然かも同じ夢を見ること三度、餘りの不思議さに教へられた場所に於て見ると一羽の雁が泉に浸つてゐるのを發見した。之れこそ靈泉であろうと江戸に上り評定所に願出ること數回漸く官許を得て藥湯とすることが出来たものだといふ。爾來二百

無色澄明で硫化水素の臭を放ち弱鹹味を有す。土類含有硫化水素泉に屬す。

効能

慢性皮膚病（濕性、癬痒性）慢性癩癧質斯、痛風、腺病慢性婦人生殖器病、月経閉止期障害、諸種の痲痺、慢性鼻咽喉及氣管支加答兒（喘息及肺氣腫に繼發せるもの）
經久梅毒、鉛及水銀中毒症

郷土藝術

岩室拳、岩室萬句、岩室小唄、岩室手踊等昔から有名なものがある。

新湯、元湯、松葉屋、大橋屋、藤屋、綿屋等

田上鑛泉

（南蒲原郡 田上村田上）

護摩堂山麓の高地に在り、元文三年の開湯と傳へてゐる。東南方一帯には山林を控へ西北には蒲原平野を一眸に集める

年、毎年一萬人に近い入浴者がある。この村は昔から名高い遊樂郷で全村僅かに百餘戸乍ら料理屋を業とするもの九戸、晝夜絃歌の絶ゆることがない賑さだ。

近くには曹洞宗の名刹國內四道場の一と稱へられる種月寺源三位頼政の室菖蒲の前の墓、頼政の一代繪卷、菖蒲の前の書幅其の他菖蒲塚から得た素焼の甕、經筒、曲玉、管玉、鏡面等を寺寶とする金仙寺、松ヶ山、高城趾、天神山城趾、小丸山、田中山の一本松、一盃清水、間瀬の海水浴場等の名所舊蹟がある。

交通

越後線巻驛から約六軒（一里十九町）乗合自動車がある
新湯、彌彦等からも乗合自動車がある。

乗合自動車賃

巻驛から 二十錢
新湯から 五十五錢
彌彦から 十五錢

風光明媚な所で、附近には護摩堂山城趾や、田上の繁ぎ樞、手取ヶ淵、不動岩、團九郎穴などの名勝がある。

羽生田の地蔵様で知られる曹洞宗定福寺も程近く春秋の行樂に適してゐる。定福寺には堀川院の御詠歌百首の御眞筆や蓮如、顯如兩上人の眞蹟、護摩堂周防守の護身佛などの寶物が所藏されてゐる。

交通

信越線羽生田驛から約四軒（約一里）乗合自動車がある。

乗合自動車賃 十錢

貸切自動車賃 一圓

無色澄明で微に鹹味があり、單純泉に屬す。

効能

外傷性諸障害、慢性筋及關節癩癧質斯、諸病恢復期、腺病質

旅 館

助七、權四郎、麴屋等

成願寺鑛泉 (古志郡栖吉)

長岡市郊外悠久山公園から約二、二杆(約二十町)森立山の麓にある鑛泉場である。遊園地として有名な所で花に、月に、紅葉に、茸狩に四季夫れくの行樂の外活動人形、木馬館、鐵道すべり、魚すくひ、舟遊び、お猿のお家なご子供等の喜ぶ設備がある。殊に珍らしいのは鑛泉池に光る珍植物光り藻であらう。

水の光り藻瀬に鳴く河鹿

更けて湯にきくほととぎす

瀧のどろろき川瀬のしぶき

暑さしらない山のお湯

成願寺小唄

交通

信越線長岡驛から六杆(約一里半)

乗合自動車賃 二十錢

貸切自動車賃 一圓五十錢

(積雪の多き時は通じない)

栃尾鐵道悠久山驛から二、二杆(約二十町)

泉 質

無色澄明で微に硫化水素の臭氣があり、單純硫化水素泉に屬す。

効 能

浴 用

慢性皮膚病(濕性、癢痒性)慢性癩癧質斯、痛風、腺病慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の癩痺、慢性鼻咽喉及氣管支加答兒、喘息及肺氣腫に繼發せるもの、經久梅毒、鉛及水銀中毒症

旅 館

養壽館(内湯)

湯 澤 鑛 泉 (古志郡上)

古志郡片平山の麓湯澤に在り、鑛泉は戰國時代の發見と傳へてゐる。

附近には鷲之巢定正院、二の宮神社なごの曳杖地がある。

交通

信越線宮内驛から約二、二杆(約二十町)

乗合自動車賃 十錢

貸切自動車賃 八十錢

泉 質

無色で硫化水素泉に屬す。

効 能

浴 用

慢性皮膚病(濕性、癢痒性)慢性癩癧質斯、痛風、腺病慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の癩痺、諸病恢復期

旅 館

篠原旅館(内湯)

荷 頃 鑛 泉 (古志郡荷頃)

古志の荷頃には二つの湯場がある。何れも四面山に圍繞せられた閑雅な境地で、川の邊にあるのを壽の湯、峽隘な平地にあるのを長生の湯と稱へてゐる。こゝを流れる西谷川の沿岸は紅葉の名所として知られ近くには中崎山スキー場、鶴城山、堂安寺等がある。

秋葉東に 西城山の

合の谷川 大布川の

かじか鳴く音に 寄せ來る便り

荷頃湯の村 戀の里

荷頃小唄

交通

栃尾鐵道、栃尾驛から壽の湯迄約三、五杆(約三十町)長生の湯迄約二、五杆(約二十三町)積雪時以外は乗合自動車がある。

乗合自動車賃

十五銭

貸切自動車賃

一圓

寺泊温泉 (三島郡寺泊町)

温泉場は寺泊町南端の高燥な風光絶佳の地に在り、新潟縣新八景の一と唱えてゐる。直ぐ下は海水浴場で北には彌彦國上の二山が澎湃たる日本海に臨んで峙ち南には出雲崎、椎谷の觀音岬から柏崎番神鼻、遠くは能登半島まで烟波の間に隠顯し前面西の空には佐渡ヶ島根が一抹の黛の如く水天髣髴の間に横はつてゐる。温泉の湧出口は浴場から約一、六杆(約十五町)の山林にある。温泉は三十三度で微温だが湯と共に天然瓦斯が盛んに噴出してゐるから之れで加熱して浴用に供する設備にしてある。此處、寺泊の町は歴史上有名な地丈けに順徳天皇の御遺蹟を初めとし名所舊跡が極めて多い漁港であり、鮮魚の集散地であるから食膳に上る魚類の新鮮であるのはいふ迄もない。

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質新、諸病恢復期、腺病質

病質

長生の湯

僅に白濁無臭で鹹味を有し、食鹽泉に屬す。

浴用

慢性痲痺質新、腺病質、慢性泌尿器及生殖器病(皮膚病) 諸病恢復期

諸病恢復期

旅館

高壽館、長生館(内湯)

温泉場は寺泊町南端の高燥な風光絶佳の地に在り、新潟縣新八景の一と唱えてゐる。直ぐ下は海水浴場で北には彌彦國上の二山が澎湃たる日本海に臨んで峙ち南には出雲崎、椎谷の觀音岬から柏崎番神鼻、遠くは能登半島まで烟波の間に隠顯し前面西の空には佐渡ヶ島根が一抹の黛の如く水天髣髴の間に横はつてゐる。温泉の湧出口は浴場から約一、六杆(約十五町)の山林にある。温泉は三十三度で微温だが湯と共に天然瓦斯が盛んに噴出してゐるから之れで加熱して浴用に供する設備にしてある。此處、寺泊の町は歴史上有名な地丈けに順徳天皇の御遺蹟を初めとし名所舊跡が極めて多い漁港であり、鮮魚の集散地であるから食膳に上る魚類の新鮮であるのはいふ迄もない。

長岡鐵道、寺泊温泉停留所下車

乗合自動車

信越線、東三條驛から 五十銭

彌彦線、彌彦驛から 四十銭

越後線、地藏堂驛、大河津驛から 二十銭

汽船

佐渡赤泊港から 一圓四十銭

泉質

無色澄明で黄褐色の沈澱を有し鹹味を具へ土類含有アルカリ性食鹽泉に屬す。

効能

内用

慢性胃腸障害、慢性咽喉及氣管支加答兒

浴用

慢性痲痺質新、諸種の痲痺(經久性半身不隨、小兒痲痺の類)痛風、慢性生殖器及泌尿器諸病(慢性子宮周圍炎、子宮筋炎等)貧血萎黃病、腺病質、虛弱小兒、輕度の血管硬化症、諸病恢復期(濕疹) 禁忌 逆上の傾向

鯨波鑛泉 (刈羽郡鯨波村)

鯨波驛のすぐ後海岸の小丘にある鑛泉場である。翠濃き老松の間大海原を見下ろして遙かに佐渡ヶ島と相對し春後に秀麗なる米山を控へる眺望絶佳の地で附近一帯には名所舊跡頗る多く、海水浴場としても北陸有数の處である。鑛泉は大正十二年の開湯で一名靈夢泉と名づけてゐる。

交通 信越線鯨波驛 下車

泉質

殆んど無色澄明、食鹽泉に屬す。

効能

慢性癱瘓質斯、諸種の癱痺（經久性半身不隨、小兒癱痺の類）痛風、慢性生殖器及泌尿器諸病（慢性子宮周圍炎、子宮筋炎、貧血、萎黃病、腺病質、虛弱小兒、輕度の血管硬化症、諸病恢復期

名所舊跡

番神堂、番神ヶ鼻、祇園社、ねまり地藏、立地藏、御野立公園、鬼穴、柱城趾、福浦の奇勝、玉屋々敷の跡

旅館 蒼海ホテル（内湯）

湯谷鑛泉（刈羽郡中）

油田の人家から離れること約六五〇米（約六町）妙法寺峠麓に在り眺望のよい高燥な地である。

交通

越後線、西山驛から約六、二軒（約一里二十町）徒歩

泉質

無色澄明、單純泉に屬す。

効能

外傷性諸障害、慢性筋及關節癱瘓質斯、諸病恢復期、腺病質

旅館

神林旅館

栃尾又温泉（北魚沼郡湯之谷村上折立）

佐梨川の支流湯ノ澤川の溪流に沿ふ翠色滴る幽邃閑雅な地に在り、口碑によると養老二年行基菩薩の發見といふ。内匠の作と傳へる御堂の中に僧行基作の本尊を安置した薬師堂がある。

山の湯の情調豊かに懐しい氣持のする所だ。昔から子供の出来る湯として聞えた温泉で薬師堂の境内には子持杉といふのがある。同じ根元から二本の杉の木が天を摩して生ひ茂つてゐる。夜半にこの二本の杉の間を跨ぐと子供が出来るとい

効能

無色澄明で異臭味なく單純放射能泉に屬す。

内用

病後衰弱、神経痛、慢性癱瘓質斯、痛風、皮膚病（一般に癩に瘡痒あるもの）

浴用

外傷性諸障害、慢性癱瘓質斯、痛風、皮膚病（一般に癩痒あるもの、慢性濕疹）官能性神経病（ヒステリー及神經衰弱）神經痛、輕度の脊髓病、中樞及末梢性癱痺（經久性半身不隨、小兒癱痺）婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、病後衰弱、諸病恢復期、腺病質

旅館

自在館、神風館、寶巖堂

大湯温泉（北魚沼郡湯之谷村大湯）

栃尾又から佐梨川に沿ふて約八七〇米（約八町）下ると大湯温泉に達する。

ふ。子持杉の側には夫婦樺といふ大木がある。人に見られないやうに、そつと其樺を抱いて來ると懐妊すると云はれてゐる。温泉の湧く處は旅館から石段を踏んで下ること約五十米（約二八間）溪崖に窮した處で男女兩浴槽の他に沸湯の用意がしてある。ラヂウムエマナチオンの含有量が多くラヂウム温泉として我國第三位にある。湯が微温いので長湯の習慣があつて浴客は腰にタオルを巻いて浴槽の椽を枕に數時間靜かに入浴してゐる。

佐梨川の峽谷には清女瀧、見返瀧、仙境一の瀧があり、天然の風景、行樂に四季夫れ／＼の趣きがあつて浴客を飽かしめることがない。

交通

上越線小出驛から約一四軒（約三里半）乗合自動車がある（十二月中旬から四月初旬迄積雪の爲運轉せず）乗合自動車賃片道六十五錢、往復一圓二十錢 貸切自動車賃 三圓五十錢 泉質（温度、攝氏三九度）

こくも枋尾又と同じく養老二年僧行基の發見と傳へられ明曆二年には高田の領主松平光長が湯治に來たとの記録がある泉量が豊富だから降雪時には雪が積らぬやうに道に湯を流すといふ贅澤振りだ。

溪に面した崖には湯瀧がかゝつてゐる。この大湯に滞在してゐる浴客は枋尾又へ板尾又の客は大湯へと日に一度づゝ入りに行くのを合せ湯と呼びさうすると一層効能があるといつて佐梨川にかゝつた合湯橋を渡り往來してゐる。

越後三岳と稱せられる八海山、中の岳、駒ヶ嶽はこゝから登山が出来る。

尙興味のある山の旅は枝折峠、銀山平、尾瀬沼を経て奥日光に出る日光國立公園へのコースである。

交通

上越線小出驛から約一二杆餘(約三里餘)

乗合自動車がある。(十二月中旬から四月初旬迄積雪の爲運轉せず)

乗合自動車賃片道六十錢、往復一圓十錢

貸切自動車賃 三圓

泉 質(温度攝氏五六度)

無色澄明で單純温泉に屬す。

効能

浴用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質斯、慢性濕疹、官能性神經病(ヒステリー及神經衰弱)軽度の脊髄病中樞及末梢性痲痺(經久性半身不隨、小兒痲痺)婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

旅館

東榮館、湯元館、村上屋

小出温泉 (中魚沼郡倉俣村小出)

中魚沼の一隅清津川の西岸にある温泉で四方翠巒に圍まれた海拔三〇〇米(約一千尺)の幽邃境である。

奇巖雲に聳え聳蒼たる樹林渾然として兩岸を圍繞する清津の狭谷に近く土地高燥空氣新鮮夏は殊に涼しく避暑地に好適

一日禁を犯して網をうつつたので龍の怒に觸れ病を得て遂に死し龍亦彈丸をうけて斃れたとの傳説があつて今も探遊者の惡戯を戒しめてある。

交通

飯山鐵道越後田澤驛から約一〇杆(約二里二十町)田澤村津澤迄約八杆(約二里)は自動車を通すことが出来る

(冬季は不能)自動車賃三圓

上越線石打驛から約一二杆(三里餘)徒歩

泉 質(温度攝氏四二度)

微に濁濁し僅に硫化水素の臭を放ち稍々鹹味を帯び單純硫化水素泉に屬す。

効能

浴用

慢性皮膚病、慢性痲痺質斯、痛風、腺病、慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の痲痺、慢性鼻咽喉及氣管支加答兒(喘息及肺氣腫に繼發せるもの)經久梅毒、諸病恢復期

であるのは云ふ迄もないが秋の行樂にも絶好の處、嘉永六年の開湯と傳へてゐる。

温泉場から約八杆(約二里)の中深見村田代には名勝七ツ釜の瀧である。

約一五米(約五丈)の懸崖を落下し瀧壺に入る狀は宛ら銚子の口を覆したやうなので銚子口不動瀧ともいふ。激流一段を下るごとに底深く瀧壺に藍を沸かして濁き流れる凄絶壯絶の狀は峨々たる天然の石廊と榎材たる古木老樹の景を配して觀るものをして儼然たらしむるものがある。

昔は七瀧七壺と云つたが今では溢水の爲崩壞して僅かに三つの瀧壺を止むるのみとなつた一杆餘(十町餘)の間は悉く立武岩から成り、左岸に鑽り立つ縦に高さ數十米の石柱を其の儘に右岸は横に積まれてその厚さ十五六種の横断面を露出せる狀は恰も伊勢大神宮の太々神樂の御號に似てゐるので元は縦御號の稱があつた。

飛沫散つて霧となる瀧壺には龍が棲息すると傳へられ網を投することを禁じてあつたが馬場村の太田新右工門といふ男

旅 館
清津館、藤ノ木旅館

湯 澤 温 泉 (中魚沼郡 湯澤村)

湯澤の村落から程近い自然に隆起せる丘陵にある温泉場で七百五十年前の開湯と傳へられ、三國三宿の一つと云はれた昔は三國峠が冬季大雪の際は滞留するもの數百人に達したと云ふ。旅館の縁側の藤椅子に寄つて遙かに上越國境の清水峠や、茂倉、谷川、仙の倉、萬太郎、大源太等の連山を眺め、魚野川の流域を瞰下する邊りまるで繪を見てゐるやうだ。誰やらが「山又山……白く糸引ける魚野川の彼方に煙りぬ旅せし昔の人幾夜宿り重ねて越えぬらし、黙々として譚らぬ、大自然の神秘なが胸に秘めし千古の語ひや如何に」と口吟んだがまつたく好く云ひ現はした言葉だ。若葉蒸る春に炎熱灼くが如き盛夏避暑或ひは登山に紅葉黄葉錦織りなす秋に絶好の保養地たるは云ふ迄もないが、白雪皚々たる不夜城の銀世界にスキーを驅るの快味は他に比類がないであろう。東洋一の

清水トンネルを通過して東京から僅か四時間で達することの出来るやうになつてからは各旅館の設備待遇の改善と相俟つて其の發展振りはすばらしい。週末を利用してのスキー客はいつも旅館に溢れるばかりである。

交 通

上越線越後湯澤驛から約一、六 軒 (十五町)

乗合自動車賃十錢、貸切自動車賃五十錢

泉 質 (温度攝氏四一、五度乃至七二度)

無色澄明で單純温泉弱食鹽泉の二種あり。

効 能

浴 用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痠痛質斯、慢性濕疹、官能性神經病 (ヒステリー及神經衰弱) 軽度の脊髄病、中樞及末梢性癱瘓 (經久性半身不隨、小兒癱瘓) 婦人生殖器の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質

内 用 (弱食鹽泉のみに適應す)

石 打 鑛 泉 (南魚沼郡石打村)

天明年間の發見と傳へられる鑛泉で、南魚沼と中魚沼の郡界十二峠の麓に位し魚野川の支流なる小黒川の溪谷に面してゐる風光明媚の地で新緑に避暑に紅葉に四季折々の趣きがある。奥の湯、中の湯、古湯の三つの浴場があり何れも所謂湯治客を以て相當に賑つてゐる。

交 通

上越線石打驛下車、奥の湯迄約一、三 軒 (約十二町)

中の湯迄約一軒 (約十町) 古湯迄約八七〇米 (約八町)

徒 歩

貸切自動車賃 六十錢

泉 質

無色澄明で微に硫化水素臭を有し單純硫化水素泉に屬す

効 能

浴 用

病後衰弱、神經痛、慢性癱瘓質斯、痛風、皮膚病 (一般に癢痒あるもの) 腺病、慢性婦人生殖器病、月經閉止期

旅 館

高半、湯澤ホテル、中屋、西仁旅館、富士屋、稻本等

慢性消化器病 (弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘) 慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病 (糖尿病、脂肝病、痛風、貧血、腺病)

禁 忌

興奮性神經病、胃酸過多症、消化器痙攣症、腎臟炎

名所舊跡と運動施設

大源太、七ツ小屋、茂倉、萬太郎、谷川等の連峰は一日の登山に適してゐる。

新耶馬溪

紅葉の名所

清水隧道口附近三俣、二居、淺貝約二〇軒 (五里) の間。

藥師堂、諏訪神社、不動瀧、寶珠庵、瑞祥庵等は曳杖地

として適してゐる。スキー場には布場、岩原がある。

其の他飯士の山麓には魚野川の溪流に東電會社が堰堤を

作つた爲出來た自然の大プールがあり、水泳を爲すこと

が出来る。

障害、諸種の痲痺、慢性鼻咽喉及氣管支加答兒（喘息及肺氣腫に繼發せるもの）經久性梅毒、鉛及水銀中毒症
名所舊跡及運動施設

關興庵、男瀧、女瀧、南方山スキー場
旅 館

奥ノ湯、中ノ湯、古湯

河原澤鑛泉

（南魚沼郡大卷村）
五日町河原澤

上越線五日町驛に近い高燥な土地にある鑛泉場で天明年間の發見である。

西北約四 軒（約一里）の處には名木澤の古墳がある。

關東管領上杉顯定の墓といふ管領塚は東南約四軒（約一里）長森原古戰場にある。永正の昔上杉勢と長尾勢の戦に顯定の戦死した處であると傳へらる。

交 通

上越線五日町驛から約二、一軒（約十八町）徒歩

泉 質

微に黄褐色を呈し單純泉に屬す。

効 能、浴 用

外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質斯、諸病恢復期、腺病質

旅 館

紫峰館一軒である。

松之山温泉

（東頸城郡松之山村湯本）

今から六百年の昔後村上天皇の御代に一羽の鷹が葦の叢に毎日舞ひ下りて蹲まるのを樵人が見つけ不審に思つて儉べると其處には温泉が沸々と湧いてゐたので鷹の湯と名付けて浴槽を設けたと云ふのが此の温泉の始まりであると傳へられる昔から越後三名湯の一つに數へられる温泉で天水連峰の北麓海拔三八〇米（一二五〇尺）の地に位し前面は雁ヶ峰の山脈に圍まれ一二三川の溪川を帶ぶ、鬱蒼たる老樹天日を覆ふ幽邃閑寂の境地たる天恵の勝地に加ふるに人工を以てし春は萌出る深緑、櫻花、百合、野草が妍を競ひ夏は清流に河鹿の

銀鈴、公園の綠蔭、飛瀑に暑さを忘れ更に釣魚の快を味ひ、秋は満山錦繡の美の中に茸は人々の來るを待つてゐる。公園のブランコ、滑臺、テニスコートには常に浴客の喜々として戯れるを見る。

諸曲松山鏡や百人一首

かさよぎの渡せる橋におく霜の

白きを見れば夜ぞふけにける

で有名な中納言家持卿の遺跡其の他多くの曳杖地がある。

河鹿鳴く音につひさそわれて

袖を濡らす上瀧しぶき

民 謡

交 通

飯山鐵道越後外丸驛から約一二軒（三里）乗合自動車賃

七十錢

十日町線十日町驛から約三六軒（九里）乗合自動車賃一

圓二十錢

頸城鐵道浦川原驛から約三二軒（八里）乗合自動車賃一

圓五十錢

信越線安田驛から約三六軒（九里）乗合自動車賃二圓

毎年十二月中旬から翌年五月上旬迄は積雪の爲自動車の運轉不能

泉 質（温度攝氏六十度乃至六十三度）
殆んご清澄無色で味鹹く瀟味を帶び鹽化土類含有食鹽泉に屬す。

効 能

浴 用

慢性痲痺質斯、諸種の痲痺（經久性半身不隨、小兒痲痺の類）痛風、慢性生殖器及泌尿器諸病（慢性子宮筋炎等）貧血、萎黃病、腺病質、虛弱小兒、輕度の血管硬化症、諸病恢復期「濕疹」
禁 忌 逆上の傾向

名所舊跡

鏡ヶ池（中納言家持卿の遺跡）管領塚、天然記念物湯山大榎、岩見堂、觀音寺池、藥師堂、不動の瀧

旅 館

千歳館、和泉屋、米屋、野本屋等 (内湯あり)

兎口温泉

(東頸城郡松之山 村浦田口兎口)

松之山温泉から北方約四軒(約一里) 土地高燥眺望豊かに 頗る風光美に富む温泉場で庚申温泉とも呼ばれてゐる。雲海 に浮ぶ突兀たる米峰、黒姫を吾が庭の一部といふ感じを酒を 杓み温泉に浸ることが出来る、遠く外丸驛の汽笛が聞える程 至つて閑静な處である。

明治四十年に巴石油株式會社が石油掘鑿の際掘り當てたも ので附近には天然瓦斯が豊富に噴出するから之れを利用して 燃料燈火に使用してゐる。

西南約一、六軒(十五町)にある大松山は、スキーの好ス ロープとして知られ頂上には神武天皇を奉祀せる祠がある。

此處からは遙かに直江津港の汽船の煙を望むことが出来る。

飯山鐵道越後外丸驛、十日町線十日町驛、頸城鐵道浦川

原驛、信越線安田驛の四方から行くことが出来る。何れ も乗合自動車は温泉場の約一、四軒(十三町) 下の浦田口 迄通ずる。

貸切自動車は温泉場迄上ることが出来る(料金五十錢)

乗合自動車賃十日町驛から一圓、越後外丸驛から九十錢

毎年十二月中旬から翌年五月上旬迄は積雪の爲自動車の 運轉不能

泉 質 (温度攝氏三七度)

蛋白石濁、鹹味を有し食鹽泉に屬す。

効能

浴用

慢性癩癩質斯、諸種の癩痺(經久性半身不隨、小兒癩痺

の類) 官能性神經疾患、痛風、慢性生殖器及泌尿器諸病

貧血、萎黃病、腺病質、虛弱小兒、軽度の血管硬化症、

諸病恢復期(濕疹)

禁忌

逆上の傾向

名所舊跡及行樂地

松之山温泉と共通してゐる。

旅 館

植木屋 (内湯)

妙高々原の五湯

富士火山帯妙高山群の主峰たる妙高山又の名越後富士更に 妙香の文字を以てする靈峰の莊嚴なる眺め遙かに之を仰ぐ に胸宇忽ち朗かにして神氣旺んに至り翫として身を忘れ世を 遺るゝの思ひあらしむるは天地秀靈の氣の凝り來りて人間を 壓倒するからである。

此の山は熄火山で高きこと二、四五三米餘(約八、一〇〇尺) 頂上には小さい阿彌陀堂がある。之を圍繞する長き山脈は赤 倉山、神奈山、前山、裏山の名を以て呼ばれてゐる。裏山を 越して東南遙かに雲表を凌ぐものは淺間及富士、南には黒姫 小黒姫の二峰碧落に秀で其の間より飯綱の山頂を望むのだ。 南々西には劍の峰、西北西には焼山が山骨を露出する。北は

即ち頸城平野を瀟望し遠く日本海の果には佐渡が島が雲のや

うに浮ぶのを見る。眺望雄大曠豁なるは迎も筆舌の及ぶ處で

はない。南部景衡の妙高を望むの詩に、

快く觀る天邊の第一峰。 巖巖百丈芙蓉を削る。

絶頭應に神仙の窟有るべし。 雲氣時に五色の龍を成す。

と賦したるものは妙高の崇靈に觸れたものである。

温泉は山麓妙高々原にあつて赤倉、妙高、池の平、關、燕

の五つに別れてゐる。それを妙高々原五湯と呼ぶ。

名所舊跡

親鸞上人袈裟掛松、鬼小島彌太郎の遺跡、縣社關山神社

妙高里宮、苗名瀧、野尻湖、大瀧、總瀧、明治天皇御舊

蹟、二俣の孤城、郷戸景雄の據つた鬼ヶ城の城趾、薬師

如來、關所跡、毛祝坂、蛇ヶ池、百瀧、一茶の墓、十二

社の標、二ノ瀧等。

赤倉温泉

(中頸城郡名 香山村赤倉)

妙高の雄姿が眉宇を壓して頭上に峙つ海拔七六〇米(約

二五〇〇尺)の温泉場である。

往昔親鸞上人越後國府の濱から戸隠山に參籠の御關川の沿道を徂徠して妙高山に靈泉のあるのを知り里人に告げたと傳へられるが、湧出する處を發見したのは文化年間で同十二年に高田藩主榊原遠江守高顯公が湯元を視察して地の利を考へ字一本木(今の赤倉)に浴舎を設け靈泉を導いて温泉場を開いたのである。二三十年前迄は世に知られない温泉場であつたがスキーの發祥に依つて今日ではスキーと云へば直に赤倉を思ひ出し赤倉と云へばスキーかと思ふ位深い關係を持つやうになり、知り過ぎる程世に知られ、宮家の御別邸や諸名士の別荘もあると云ふ發展ぶりである。

越後赤倉夏でも寒い

山は湯霧の重着だ

民 謠

交通

信越線田口驛(上野田口間急行七時間半、普通九時間餘
新潟田口間普通六時間)から約五 軒(一里七町)
五月から十一月迄は自動車運轉してゐる。

乗合自動車賃五十錢、貸切自動車賃二圓五十錢、橋三圓
馬橋六十錢、人夫男六十錢、同女五十錢
泉 質(温度攝氏五四、四度乃至六三度)

元湯は五つある。無色澄明又は殆んど無色澄明で單純温
泉、單純硫化水素泉、弱食鹽泉、弱苦味泉等あり。

効能

浴 用(單純硫化水素泉)

慢性皮膚病(濕性、癢痒性) 慢性癩癧質斯、痛風、腺病
慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の癩瘡、慢性
鼻咽喉及氣管支加答兒(喘息及肺氣腫に繼發せるもの)
經久梅毒、鉛及水銀中毒症
浴 用(弱食鹽泉、單純温泉)
外傷性諸障害、慢性筋及關節癱瘓質斯、慢性濕疹、官能
性神經病(ヒステリー及神經衰弱) 輕度の脊髓病、中樞
及末梢性癱瘓(經久性半身不隨、小兒癱瘓) 婦人生殖器
の慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質
内 用(弱食鹽泉)

妙 高 温 泉

(中頸城郡名 香山村關川)

妙高山麓關川の奔湍に沿ふ清幽境に設けられた温泉で、明治四十三年に始めて妙高山北地獄谷から疏湯したのである。此の計畫たる實に大事業で源泉の温度を甚だしく冷却することなしに雲際から山麓に下すのは並大抵の苦心ではなかつたであらう。目下は南地獄谷の熱泉を疏いてゐる。(此の間約六、五軒(一里二十四町)蓋し山水の美に加へて温泉があつたならどいふ望蜀の念から多大の犠牲を拂つたのだが今は夫に

旅 館

香岳樓、香雲閣、赤倉ホテル、高田屋、和泉屋、豆腐屋、廣島屋等

慢性消化器病(弛緩症、食物停滯、弛緩性便秘) 慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病(糖尿病、脂肪病、痛風、貧血、腺病)
禁 忌(弱食鹽泉)
興奮性神經病、胃酸過多症、消化器癱瘓症、腎臟炎

交通

信越線田口驛から約一 軒(約十町) 五月から十一月迄は自動車運轉してゐる。

乗合自動車賃十錢、貸切自動車賃五十錢、橋六十錢、馬橋五十錢、人夫男二十錢、同女二十錢

泉 質

無色澄明で單純硫化水素泉に屬す。

効能

浴 用

慢性皮膚病(濕性、癢痒性) 慢性癩癧質斯、痛風、腺病
慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の癩瘡、慢性
鼻咽喉及氣管支加答兒(喘息及肺氣腫に繼發せるもの)

經久梅毒、鉛及水銀中毒症

旅館

妙高ホテル、若尾館、加島屋、かねた館、小林屋、香風館等(内湯)

池の平温泉

(中頸城郡名香山 村通稱草刈場)

妙高温泉から茫々たる妙高の裾野を上り、白樺の林が長く続く道を、左顧右眄して登つて行くと其の東南麓海拔九一〇米(約三〇〇尺)自然の池のある一大高原に在るのが池の平温泉である。大正十二年に開設せられたもので風光明媚眺望の雄大なることは云ふ迄もない。

温泉は妙高山南地獄谷から疏湯し更にこの温泉を経て妙高温泉に流れて居るのだから泉質効能は妙高と同じである。

此の温泉附近は妙高温泉附近より積雪更に深く最もスキーに適してゐる。妙高の大斜面、茅場、一本松、三ツ澤等のスキー場にも程近い。

池の平の秋草原で

見たよ涼しい夏の雲 民 謡

交通

信越線田口驛から約三、三、三(三十町)五月から十一月迄は自動車運轉してゐる。

乗合自動車賃 三十五錢

貸切自動車賃 一圓八十錢

橋 二圓三十錢

人夫男五十錢、同女四十五錢

泉質効能

妙高温泉と同じ。

旅館

加島屋、妙高閣等

關 温 泉

(中頸城郡關山 山村關山)

人皇五十一代平城天皇の御宇弘法大師が越後巡釋の際關山大権現の神教に依つて發見したる妙高山四十八湯の一だと傳へられてゐる。享保十二年關川の住人豊田五太夫が湧出する

つてゐる。

こゝろ關の湯スキーで來れば

胸もすつきり湯のぬくみ 民 謡

交通

信越線關山驛から約六、四、四(一里二十二町)

五月から十一月迄は自動車が運轉してゐる。

乗合自動車賃 上り六十錢、下り四十錢

橋 四圓

泉 質

微に潮濁し食鹽含有炭酸鐵泉に屬す。

効 能

内用各種貧血、萎黃病

浴 用

官能性神經疾患(ヒステリー及神經衰弱)殊に神經性心臟病、慢性婦人及男子生殖器諸病(月經異常、慢性子宮筋炎、流産の傾向、不妊症、遺精、精液漏、陰萎等)慢性筋及關節痲痺質斯、諸病恢復期、腺病質、外傷性諸障害

處を發見し告ぐるに及んで其の領主關山神社別當實藏院一泰が道路を開き浴舎を設けたのが温泉場の起りである。

赤倉温泉から西北約四軒(約一里)妙高山麓前山にあつて關山驛から途中の風景頗る雄大、太田切川の碧流滔々として走り颯々たる清風と相和して清爽骨に徹る。

赤倉、妙高の文化的なるに比べ頗る醇朴な山の温泉であるやと傾斜したる土地に縦二列に並んで旅舎その旅舎の中央に共同浴場があつて宿々の客は手拭を下げて其處へ通ふのだ、赤倉に比べると土地が一五〇米も高く従つて眺望一層雄大である。

朝夕は深い霧で羽織や襦袢を着ても夏尙涼し過ぎるほどで蚊帳などは全く其の必要がない、濛氣の中を泳ぐやうにして浴場へ行くへ行會つた人達が『今晚は』と優しい聲をかけ、湯から上つて木戸口を出ようとすると、又知らない人が『おやすみ』と云ふ、山の湯の浴客達は恚うして親しみ合ふのが如何にも懐かしい。スキーの好適地として益々發展する温泉で妙高前山、神奈山の峻線滑走は頗る痛快で共に呼物にな

旅 館
初音屋、富山屋、中村屋、柳屋、越前屋、朝日屋、笹屋等

燕 温 泉 (中頸城郡關山村關山)

關温泉と同じく弘法大師發見の妙高山四十八湯の一である。妙高登山の行者先達が岩燕群り飛ぶ谿間に靈泉の湧出するを見るに傳へて難病に苦しむものが食糧を携へて岩間に雨露を凌ぎ湯治を爲したるに始まる。之れ燕温泉の名のある所以である。明治四年に至つて關山村岡本勝左工門が僅かに茅屋を結び岩窟の邊りに石をならべ浴槽としたのが温泉場の起りである。

關温泉から曲りくねつた坂道を登つて行くこと約二軒(半里)やがて湯川の溪に出る、そこから燕温泉を振仰ぐと恰も削り落したやうな斷崖の上に危く建つてゐる。三層樓の旅舎が見えるまるで南畵そのまゝの景色である。幽邃な温泉場で夏なき急峻な坂を登つて來る浴客が玉のやうな汗を流しながら

ら宿の縁に腰を下すと此處の男衆が忙はしく崖下の谷間へ行つて綺麗な雪を掬つて持つて來る此の温泉場は海拔約一二〇〇米(四千尺)の高地だから夏は行けるが冬は連も行けなものをとしてゐるが、今はスキーに精進の若人が却つて冬空をめぐけて押寄せてゐる。

冬の燕と自慢のスキー

疲れ休めは赤倉で

民 謡

交 通

關山驛から約八、五 軒 (二里十町) 五月から十一月迄は自動車運轉してゐる。

乗合自動車賃 上り七十錢、下り五十錢

橋 四圓

泉 質 (温度攝氏四五、五度)

無色澄明で硫化水素の臭氣を有し單純硫化水素泉に屬す

効 能

慢性皮膚病 (濕性、癢痒性) 慢性癩癧質斯、痛風、腺病

浴 用

無色澄明で單純硫化水素泉に屬す。

効 能

慢性皮膚病 (濕性、癢痒性) 慢性癩癧質斯、痛風、腺病
慢性婦人生殖器病、月經閉止期障害、諸種の癩癧、慢性
鼻咽喉及氣管支加答兒 (喘息及肺氣腫に繼發せるもの)
經久梅毒、鉛及水銀中毒症

旅 館

向橋館

向 橋 鑛 泉 (中頸城郡金谷村向橋)

高田市の郊外李澤山麓に在る鑛泉場で寶曆年間の發見であると傳へられてゐる。

附近には虚空藏菩薩堂、金谷山、藥師堂等の曳杖地があり茸狩、紅葉狩等にも適してゐる。

交 通

信越線高田驛から約三、三 軒 (約三十町) 鑛泉場の約

二〇〇米 (二町) 前迄自動車を乗入れることが出来る

自動車賃 一圓五十錢

泉 質



○副會長 外に御祝辭はありませんか。
 本日の出席は評議員三十二名中十四名であります、委任
 状が五通ありますから過半数になります。
 議事録署名員は村杉の荒木義雄さんと赤倉の村越さんに御
 願ひ致します。
 之れより事業報告を致します。

○高野囑託

一、額縁入寫真調製

温泉協會加入温泉地の額縁入寫真を調製、縣觀光協會聯
 合會を経て縣外各地に宣傳す。

二、博覽會出品

昨年五月長岡市に開催せられたる全國旅行博覽會に額縁
 寫真其の他を出品す。

三、昨年七月中讀賣新聞の新潟縣紹介號に温泉協會加入温
 泉を登載紹介宣傳に努む。

四、サービス講習の開催

昨年十一月、十二月中赤倉、妙高(池の平)、湯澤(上越)
 (石打)、瀬波、高瀬(鷹之巢、湯澤)に於て鐵道官吏、
 女學校作法擔當教諭、小學校長、縣衛生技術員を講師と
 して女中、番頭に對しサービス講習を開催し、日本旅行
 協會より購入したる旅館のサービスなる印刷物を出席者
 に頒布す。

五、縣外温泉地視察

昨年十二月中縣外温泉地那須、鹽原、鬼怒川各温泉地へ
 會員を派遣し視察を爲す。

六、温泉泉質現地調査研究の開始

温泉協會加入温泉の温泉泉質現地調査を開始せり。
 以上の通りであります。

○副會長 御手元に配布致しました印刷物を朗讀致しました
 が、印刷の誤りや判りにくい處もありますから簡単に説明
 致します。

第一の額縁入寫真調製は寫真を額縁入りにして交通、泉質
 効能、名所、舊跡等を附記したものを調製したのでありま
 すが、之れは縣の觀光協會聯合會の方で宣傳の用に供した
 いと云ふ希望もあつたので斯様なものを調製したのであり
 ますが、要するに觀光協會聯合會を通じて各地で開かれる
 博覽會に出品したり、或は温泉協會單獨で出品することも
 ありませうが斯様な目的で調製したのであります。

第二の博覽會出品であります、之れは先に申上りました額
 縁入寫真がまだ出來てゐなかつたので前から在つたものを
 出品致しました。

第三は其の通りであります。

第五は會員を派遣しと云ふ派遣の遣の字が遣と誤つて印刷
 されて居ます。之れは時期が悪かつたせい初めに決定し

た日には差支が出來て行けないことになり、十二月に入つ
 てから行つたのでありますが三名ばかり申込があつたもの
 が色々な事故の爲結局大湯の櫻井氏一人でありました。
 ○赤倉 十一年度の事業の中に入れるのでありませうが、
 此の間行はれました温泉祭に付ても簡単に報告して頂けま
 せんか。

○副會長 夫れでは十年度の事業ではないのでありますが、
 温泉祭のことを簡単に申上ります。

今年の三月國際觀光局から縣觀光協會聯合會に觀光祭をや
 つてくれないかと云ふ注文があつたので縣觀光協會聯合會
 では各地の觀光協會や、温泉協會等要するに各觀光協會の
 集りを開いて其の話を致したのであります。其の際には色
 々の話があつたのですが、觀光事業を盛んにして國民の
 保健に寄與し、又外國から觀光客を誘致する目的でやるこ
 とに成つたのでしたが確か四月二十六日を最後として全國
 一齊に觀光祭をやる様にこの注文でありましたが、本縣は
 雪國でもあり殊に今年は寒いので其の時期にはやれないの
 で五月一日頃から各地でやること云ふ話に成つたのでありま
 す。温泉協會は八日に藥師様のお祭りがありますから其の
 日から一週間温泉祭をやることに理事會で話が纏り八日か
 ら十四日迄の一週間温泉祭を致したのであります。温泉協
 會の本部と致しましてはポスターを作成致しまして各地に

掲載して宣傳したのであります。大きなポスターは三百枚
 作成して仙臺鐵道局に交渉して主なる驛に掲載して貰ふつ
 もりでしたが承知してくれませんでした。中々嚴格なもの
 です、個人のものではなく温泉協會の事業であります、
 仙臺鐵道局の文字を入れてもお受け出来ませんと斷はられ
 たので已むなく最寄りの温泉地の方々の御折衝を願ひ縣
 外に迄進出して適當なる場所に掲載致したのであります。
 之等の方々の御努力には感謝致して居ります、小さなビラ
 即ち温泉祭と印刷したものは三千枚作成して各温泉地に頒
 布し、提灯の下や其の他適當な場所にさげて貰ひました。
 尙マークを三千個作り各温泉地へ配給し御客にも差上げ度
 いと云ふ希望者には實費で配布致しました。之等は皆温泉
 協會の費用でやつたのであります、其の他各温泉地では
 種々計畫がありました。煙火を打上げたり、山車を出した
 り、アーチを作つたり、國旗を掲げたり色々な催しをして
 相當効果が在つたと承知致して居ります。未だ報告が全部
 纏らないから判りませんが温泉祭の事に就ては後で話し合
 つて参考に致し度いと思ひます。

簡單であります、付加へまして報告致します。

○副會長 何にか温泉祭のことでも宜いが御質問はありませんか。

○赤倉 第六の温泉々質現地調査研究の開始と云ふのはさ
 んな風に成るのですか。

○副會長 之れ迄は衛生試験所其の他で壘に詰めて送つて來た鑛泉に就て分析した成績書を添へて願ひ出したものに對して縣で更に分析して夫れと同一であるか否かを調べて許可して置つたのですが、古い時代の分析が多いのであります。成分等は大體から云へばそう變化はないでせうが、壘に詰めて送つたものを分析したものでありますから本當ではありませぬ。眞の泉質が判らないと効果がはつきりしないのであります。

温泉の研究は獨逸當りでも盛んにやつて居ます。我國で一番初めに研究に着手したのは九州帝大であります。北海道帝大でも始めましたし、東京帝大でも熱海や箱根に研究所を設けて研究してゐます。京都帝大でも始めたと言ひましたが兎に角研究が盛んに成りました。然し温泉協會と云ふ様な處ではあまり手を付けて居ませぬ、外の温泉協會等ではやつてゐない様であります。新潟縣温泉協會では昨年秋以來手を付け始めまして其の爲に之れに要する機械器具を新に買つたり、今迄あるものを修理致しましたので十年度の支出に掲げました様に相當の費用を要したのであります。湯を湧出口から探酌して其の場で計らんければ、例へばラヂウムの如きものは其の場で計らんごんな具合に成つてゐるのか判らないのですが、今迄は研究が出来てゐませぬ、本當に調べないと色々の誤りがあると思ひます。温

泉誌に出てゐるものは矢張り壘に入れて來たものに就て分析したものですから眞の成績ではありませぬ。兎に角大學等では研究して居るかも知れないが地方に於ける温泉協會等では如斯き事はやつてゐませぬ、夫れを一つやろうぢやないかと云ふことに成つたのであります。温泉の効果が眞實に判る様になれば温泉協會ばかりでなく國民健康の爲にも成ることですから現場調査を開始して居ります。

遠距離では經費が澤山入るから先づ近くから、又同じ仕事をやるにしても成分の多い處からやらうと云ふので或る温泉に手を付けて居ます。勿論全部に涉つて順次やつて見やうと思つて居ます。詳しくやることに成れば際限がありませんが、眞實に効果あらしむるには例へば遊離炭酸の様なものでも湧出口にはなくて、浴槽へ行くと空氣中から吸収して出て來ると云ふ様なこともあるのでそう云ふ事をはつきり調べて置かんと本當のことが判らないのであります。此の仕事は地味であります。中々六ヶ敷い仕事であります。赤倉 今手を付けて居られるのは一ヶ所だけでありますか。

○鷹之巢 何年位で一巡できる豫定ですか。
やる限りは徹底的にやつて頂き度と思ひます。
○副會長 今手を付けてゐるのは一ヶ所ですが全部や

るつもりです。

○鷹之巢 結構です、今迄は基礎調査がないのですから。

○副會長 大學ではやつてゐるでせうが各府縣では手を付けたのを聞いて居ませぬ。

只専門の技術者を雇へば仕事も進みますが、専門の技術者を雇ふには經費がないから出來ませぬ。縣外温泉地視察の報告は詳しいことは會報に登載しますが實際行つた方から時間があれば話をして頂き度と思ひます。

縣外温泉地視察には時期が遅れた爲もありませうが、申込んだ人は三人計りあつたのですが差支へが出來て結局一人だけお出でになつたのです。

サービス講習は先程の署長さんの御話の様に効果が在つたやうであります。豫算にも組んでありますから今年も繼續致します。

サービス講習に就て何にかこう云ふ點をこう云ふ様にして呉れど云ふ様な御意見でもありましたら御聞せ下さい。

○鷹之巢 サービス講習は大變結構ですが番頭、女中計りでなく主人も入れてやつて頂き度と思ひます。

○副會長 皆さんを講習することは講師の方で遠慮するでせう。女中や番頭と違ふのですから皆さん方は縣外温泉地視察の方が宜いのでせうが。

○瀨波(八子) 去年の講習には私共では藝者も皆出しました

泉誌に出てゐるものは矢張り壘に入れて來たものに就て分析したものですから眞の成績ではありませぬ。

兎に角大學等では研究して居るかも知れないが地方に於ける温泉協會等では如斯き事はやつてゐませぬ、夫れを一つやろうぢやないかと云ふことに成つたのであります。

温泉の効果が眞實に判る様になれば温泉協會ばかりでなく國民健康の爲にも成ることですから現場調査を開始して居ります。

遠距離では經費が澤山入るから先づ近くから、又同じ仕事をやるにしても成分の多い處からやらうと云ふので或る温泉に手を付けて居ます。勿論全部に涉つて順次やつて見やうと思つて居ます。詳しくやることに成れば際限がありませんが、眞實に効果あらしむるには例へば遊離炭酸の様なものでも湧出口にはなくて、浴槽へ行くと空氣中から吸収して出て來ると云ふ様なこともあるのでそう云ふ事をはつきり調べて置かんと本當のことが判らないのであります。此の仕事は地味であります。中々六ヶ敷い仕事であります。赤倉 今手を付けて居られるのは一ヶ所だけでありますか。

○鷹之巢 何年位で一巡できる豫定ですか。
やる限りは徹底的にやつて頂き度と思ひます。
○副會長 今手を付けてゐるのは一ヶ所ですが全部や

○鷹之巢 私共も藝者を出しましたが利口になりました。

○月岡(諸橋) サービス講習と云ふのは温泉座談會と違ふのですか。

○副會長 座談會とは違つて禮儀作法や郷土の歴史、地理、温泉の効能、其の他お客の取扱方等を女中、番頭に講習致すのであります。

○月岡(諸橋) 私の方ではなかつた様ですね。

○副會長 十一年度には月岡當りもやります。之れも御希望があれば十一月、十二月に限つたことはありません。縣の都合もありますから御希望通りにならんかも知れませんが赤倉 サービス講習の開催地は大體縣でお決めになるんですか。

○副會長 昨年は上越、中越、下越を通じて適當にやつて見たのです。一部に偏しては悪いから普遍的にやり度と思つて居ます。御希望があれば注文して下さい。

同一温泉地で二度は全部が終る迄はやりませぬ。

○湯澤(上越) 經費が許るせば毎年やつて頂ければ宜いのですが、女中も年々替りますから。

○副會長 去年は數多くやれませんでした。せいぜい勉強してやります。仕事に追はれて忘れがちですから新潟へお出の時は衛生課も覗いて下さい、やるにしても講師の選定、依頼等に一苦勞です、各方面と打合せなければならぬの

で出来るだけ数多くやり度いと思つてゐます。之れ迄は二日間位でやつて來ましたが三日間位にしたら長すぎますか

○赤倉 昨年は三日間でした。

○湯澤(上越高橋仁太郎) サービス講習は真に良いことで私は喜んでゐますが三日でも日数が足らぬと思ひます。私共の方では商賣柄ら女中、番頭の全部を出すのが出来ないで半数宛出しますから聞く人と聞かん人が出來ます。日数を増してやることを希望致します。

○鷹之巢 今年は何に合ひませんが時期に間に合すやうに春やつて頂くのが宜いと思ひます。

○副會長 夫れもよいでせう。

○鷹之巢、湯澤 三日間位が最も適當でせう。

○副會長 まだ一度もやらん處は何月頃が宜いか希望を申出て下さい。都合を見てやつて見ますから。

○赤倉 一度やつた處でも費用を出した時にはやつて下さいませ、表面は縣温泉協會の主催として費用は温泉組合で負擔することにして、

○副會長 縣温泉協會では一度もやらん處をやつて行く様にし、一度やつた處は皆さんの方で交渉してやつて頂き度いですが、夫れ迄やることに成るとやり切れません。

○赤倉 縣から交渉して頂いた方がつとり早いので御願ひするのですが。

(異議なし)

次は支出であります。

諸給で六拾參圓七拾錢減に成つてゐますが之れは役員會の開催回数が少なかつた爲であります。

需用費に於きましては印刷費が増加してゐますが之れは座談會の記録や、縣外温泉地視察報告の掲載に依つて會報のページ數が増した爲であります。

事業費が壹千四百貳拾七圓八拾八錢減になつてゐますが、之れは寄附金がないから仕事をしてない爲ではありません。紹介宣傳費は壹千圓でしたが之れも參百七拾圓に減してゐます。第一年度には温泉誌を作り、第二年度には寫真帖を作成しましたので昨年度には先程事業報告の處で申上しました様に寫真を引き延ばして一尺七、八寸の大きさのものとし立派な額縁入としたものを作つたのであります。新聞に宣傳した費用も此處に含まれてゐます。

講習會費はサービス講習の講師の御禮であります。第二目も五百七拾八圓〇五錢の減ですが、温泉調査費は參拾壹圓九拾五錢の増に成つてゐます。之れは温泉調査に要する機械器具の新調、修理の爲に増加致しました。縣外温泉地視察費は貳拾圓だけ支出致しました。縣の方の分は他の用事もありませんから縣で拂つてあります。改良指導費は此の道の大家から指導して貰らうつもりで豫

○副會長 縣で交渉しても宜いが、まあ御引受けは出來ませぬ。

○鷹之巢 サービス講習には課長さんも御出席して頂き度いですが、

○副會長 行つて見たいと思つてゐたのでした。が縣會の時期で出席出來ませんでした。悪しからず

事業報告には別に御異議もない様ですから御承認を得たことに致して宜敷いですが、(異議なし)

夫れでは今度は昭和十年年度の收支決算を議題に供します。最初に申上ります。

○村杉、出湯(荒木義雄) 決算書には總計がないが之れで宜いのですか。

○副會長 費目が第一款だけしかありませんから總計は掲げませんでした。

豫算高に比し決算高が著しく減してゐますが之れは豫算に計上してある壹千圓の寄附金が入らないのと會費の未納が多分にある爲こんな都合になるのであります。之れは一つ御迷惑でも是非御盡力を願つて未納金費の完納だけでも御心配して下さい。實際千八百圓位の金では十分な仕事は出來ません。此の位の金は分析の出來る様な技術者を雇へば俸給だけおえてしまいます。御質問がなければ御承認を得たことに致して宜敷いですが

算に計上したのでした。が御出の方もないので積極的にはやりませんでした。雜費は貳拾圓だけ支出致しました。會費は總會を縣廳に開催しないからさうしても増加しますが、之れは會が盛んになればなる程増して來ます。

豫備費の方から五拾圓支出してゐますが、之れは縣觀光協會聯合會の會費を此處から出して置いたのであります。夫れで餘つた金が本年度の繰越金に成るのであります。なぞ其の年度の金を其の年度中に全部費はないかと申しますと會費が段々遅れるのと縣の改良指導費が年度に入ると直ぐ來るものでもない。其の間に博覽會があつても金がないから出品が出來ないと云ふ様なことに成つても困るので残してあります。

十一年度の豫算には壹千圓の寄附金を壹圓にして豫算と決算に差の出ないやうにして置きました。

事實金は残つてゐませんが、十年年度の豫算は寄附金を豫想して作つてゐるのでから支出に就て質問がありましたら、

○赤倉 別に疑義もありません。

○鷹之巢 講習會も費用が八拾壹圓位ならもう少し餘計にやつて下さい。

○副會長 皆さんから御希望を申出て下さい、普遍的にやつて行き度いと思つて居ます。温泉が近い處に點々としてある様な處では箆でも引いて開

催場所を決めることにして一緒にやつて貰ひ度いですね。
○瀬波(八子) 縣外温泉地視察は貳拾圓費と汽車賃位はあ
る様ですね。

○副會長 確か希望者が澤山あると支給額を減することに成
つてゐた筈です。例へば汽車賃と宿泊料で五拾圓要すると
しても五人あれば貳百五拾圓要することに成りますから希
望者の多いときには三分の一乃至四分の一にする筈です。

○瀬波(八子) 數を三名乃至五名と決めたらさうです。一人
と云ふのはさうも、支給額は二分の一にしたら如何です。

○副會長 一人と致したのではありません、三人あつたので
したが差支が出来たり何んかして一人になつてしまつたの
です。澤山希望を申出て下されば三人乃至五人を一組とし
て行くことにしても宜敷いです。第一年度は方面を第一、
第二、第三と分けた様でした。之れは十一年度の歳出豫算
の時に御話願ひます、同じ場所は會報に載るから止めて新
らしい處へ行くことにすれば宜敷いでせう。

○瀬波(八子) 希望者が澤山あつたら豫算を増額しても宜敷
いではないでせうか、之れは私の考へだけを申上げた迄で
すが。

○副會長 十一年度では寄附金は豫算に入れてないから豫算
は少ないですね。

○瀬波(八子) 夫れはやうござす。

○副會長 皆さん會費だけでも滞りなく御納め下さる様御盡
力して下さい、支出に就て御異議ありませんか。

(異議なし)

夫れでは決算は御承認を得て置きます。

次は昭和十一年度歳入歳出豫算を議題に供します。

先づ歳入の方でありますが前年度豫算とは寄附金を壹圓と
したのが變つてゐる位のものであります。

繰越金は五百參拾圓八拾七錢に成つてゐます。

會員納付金が壹千百九拾九圓〇五錢になつてゐますが、之
れは本年度會費と未納會費が本年度中に全部納まるものと
して計上したもので六百貳拾壹圓四拾錢が本年度納付金で
五百七拾七圓六拾五錢が十年度迄の未納金となつてゐます
締切後に納めたものもあり、本日お持ちになつた方もあり
ますから現在では未納の累計はもつと減じてゐるでせう。
交附金が年々際々削られるのが心外だと思はれるかも知れ
ませんが、

○村杉、出湯(荒木義雄) 毎年百圓宛減つてゐますね。

○副會長 減るものと思つて下さい。

縣觀光協會聯合會が五百圓しか補助がないので、あべこべ
だと云ふので減らされても致方がないのです。

○赤 倉 事業をさし／＼やらなければならぬのに縣の交

附金が減るのは心細ひから何にか恒久財源を考へては如何
です。

○副會長 客一人に就き壹錢宛でも積立てたらさうです、貳
錢、參錢と積立てることが出来れば尙更宜敷いでせう。

○赤 倉 結構ですが零碎なものでは手數で致方がありませ
んから何にか適當なものを考へたら如何です。

○副會長 適當のものがあれば宜いですが。

○赤 倉 温泉協會で廣告塔でも拵へたらさうです、毎年貳
百圓か參百圓位もよれば宜いと思ひますが、
新潟當りに廣告塔を建て、各方面から廣告を取れば宜敷い
でせう、實に目に付きますがね。

○瀬波(八子) 他のものでなく温泉の廣告だけでも宜いの
でせう。

○赤 倉 一年中のことで傷むからコンクリートにでもして
○副會長 委員でもあげて宿題にしたら如何です。

恒久的のものとするれば千圓や貳千圓は掛るでせう。

一つの方法ですが宿題にして調査研究の上何にか案を作つ
て送つて下さい。三十分や四十分で決めて失敗したら大變
ですから。

○赤 倉 財源を作る爲に申上たので之れは一例であります

○副會長 他に何にかありませんか。

○瀬波(八子) 會報は會員だけに頒布するのですか。

○副會長 原則としてはさうですが、圖書館や色々の會合の
あつた様な場合其の幹部の人々にもやる様にしてゐます。

○赤 倉 温泉で入用なものを賣る人達に交渉して廣告さし
たら如何ですか。

○副會長 部數が三百位ですからね。

○赤 倉 夫れは發表を大きくして。

○副會長 そんないんちきは出来ませんよ。

○瀬波(八子) 三百も五百も印刷費は大して違ひません。大
きな商店に云へば廣告を出しますよ、之れは各温泉業者で
やれば宜いのではないですか。

○月岡(諸橋) 寄附金に就ても心當りはありますが私のみが
行つても甘く行きません。自分が行つても即座に纏りにく
いから何にかの用件で御出張の時でも縣の方から行つて貰
へば纏る見込があります。

○副會長 縣の誰れかが私の名刺でも持つて行つて話すこと
に致しても宜敷いが、貳拾圓や、參拾圓では温泉協會の顔
にかゝりますからね。

縣の方から行く方が宜いと云ふ様な場合には申出て下さい
参りますから。

會報は三百部で百五拾圓ですから五百部刷つても貳百圓位
で上がれば温泉一覽や呉服屋のでも、皆さんのでも取れる
だけの廣告を登載する様にすれば宜いですね。皆さん方の

知合ひから廣告を取ることにして部数も三百を五百、千と多くし圖書館や澤山人の集る處へやれば廣告になります。

○鷹之巢 恒久財源を作るには日本温泉協會の様に俱樂部員を作つて年額壹圓か壹圓五拾錢位の會費を出して貰つたら如何です。

○副會長 會員を作るのが大變です。

○鷹之巢 夫れは業者がやります。

○副會長 そう云ふことを書いた参考書でもありません。送つて下さい。

○赤 倉 日本温泉協會では温泉地で會合を開いたり、温泉へ行く場合便宜を計つたり、スポーツの指導等をしてゐます。上野、新宿等でもよく會合してゐますね。會合もしない、會報もないではきんなものですかね。

○副會長 會報の数を増して廣告を取ることに致し度いと思ひますが理事者に一任しますか。

○瀨波(八子) 會報の名前も替へなければならぬでせう。

○鷹之巢 夫れでは本末顛倒します。

○副會長 會報は會報として嚴として存するが、其の上に温泉誌を登載する様にすれば見る人もあります。圖書館當りでも読んで呉れます。

○赤 倉 時間も掛りますから恒久財源に就ては委員を指名

して頂いて其の委員から報告を出し之れを理事者の方で取捨選擇する様に適宜にやつて呉れれば宜いと思ひます。時間も掛りますから委員を御指名願ひます。委員は献策することにして良いものは此の次の總會に附議して實行すれば宜いのでせう。

○副會長 正式の議題でもないから委員の指名もさうかと思ひます。恒久財源に就ては結局思ひ付いた人が皆申出て下さい。會報は會報として嚴として存するが先程申した様に温泉誌や廣告をも掲載してやつて見ませう。之れはやることに申し合ませう。

○月岡(諸橋) 斯様なことは委員に上げられても趣味がないと困る。

○赤 倉 委員がないと誰かしさうなもんだがと云ふことに成つてしまいます。夫れでは困るから指名して頂き度いのでせう。さうすれば責任と義務が生じて来るから。

○月岡(今井) 出席者が皆委員さ。

○村杉、出湯(荒木義雄) 交附金が年々減ることに成ると何にかやらなければ駄目ですね。

○赤 倉 何にかやらなければ會員の負擔ばかり多くなりま

から。

○副會長 會報の増刷りをして見ます。理事者に一任して下さい。委員々々と云つても熱心な方々ばかりでもないのだから廣告塔は宿題として置きます。

○村杉、出湯(荒木義雄) 一つの案ですね。

○月岡(諸橋) 會費の未納があるのに尙其の上に壹錢、貳錢と積立てることはとても今のやうな事情では不可能と思ひます。

○副會長 寄附金を貰ふよりも壹錢、貳錢と積立てる方が造作ないでせうか。

○月岡(諸橋) 會員全體でやることになるかと六ヶ敷です。

○赤 倉 理想的ですが業者全體に其の觀念を注入することはさうしたら宜いのでせうか。

○副會長 何んでも會長、副會長に任せると云ふのは間違つてゐます。素人に任せよりは御互の爲だから進んでやるやうでなければならぬと思ひます。

○赤 倉 感化する迄の力や努力が足りないせいか我々にはありません。

○副會長 温泉協會は交附金が減りさうだから色々財源を考へてゐるが、會費を増すことは困ると云ふなら客一人に付壹錢宛積立てる様に實行しやうじやないかと會員諸君に話

して見たら纏まるでせうが、之れもある温泉だけが實行するのでは困るから一時其の積立てた金を會費として納めることにして全部の温泉がさうなつたときに寄附する様にすれば宜いのでせう。斯の様な氣運を作つたらさうです。

○赤 倉 さう云ふ話になると何時も温泉撤廢の話が出るので消されてしまいます。

○副會長 温泉税の撤廢と云ふ様なことは總會の議題として決議の上温泉協會として陳情なり請願すべきではないです。

○瀨波(八子) 總ての會合に此の税の問題が頭にあります。

○副會長 撤廢の理由があれば宜いかなければ駄目です、斯様なことは合法的にやらなければならぬ。

○村杉、出湯(荒木義雄) 會費の未納がなければ剩餘金の積立ても出来るのでせうか。

○瀨波(八子) 壹錢、貳錢と積立てることは等級を付けて各温泉で實行したら如何です。

○村杉 豫算を決めたら如何です。

○副會長 壹錢、貳錢と積立てることは各温泉で決めて下さい。(異議なし)

○副會長 夫れでは歳出に移ります。

備品費は額縁寫眞の容れ物を作製するので五拾圓計上致しました。

印刷費は會報の増刷をやれば之れより増加するかも知れません。

宣傳費は前年度より六百〇圓の減にして置きましたが十年度の決算を見ても充分だと思ひます。

講習會費も之れで大丈夫と思ひます。

温泉調査費は本年度には機械器具の費用がいらぬから之れで宜いと思ひます。

縣外温泉視察は百五拾圓取つて置きましたから七人位は行かれます。

改良指導費、雜費は前年通りであります。

雜費に百圓取つて置くのは項目に當て嵌まらんものが出来るからで、會議費はこんな風にやつて見たんです。適切なりと認めてやつたのですが御質問、御意見がありましたらごうぞ。

○村杉、出湯(荒木義雄) 宣傳費は温泉祭に費はれたのでせうが幾ら位残りますか。

○副會長 參百圓位支出致しましたが夫れを引いても未だ五百圓あります。昨年は額縁寫眞に費つたのですが、温泉誌も出來たし、寫眞帳も出來たから大して金の掛るものもありませんから十分でせう。

○村杉、出湯(荒木義雄) 新潟縣觀光協會聯合會の負擔金を豫算面に御出しになつたら如何です。

○副會長 さういふ出しませう。何處へ入れますかね。

第二項事業費に第三目を設けて負擔金五拾圓、前年度なし縣觀光協會聯合會費として、豫備費から五拾圓持つて來ませう。第二項事業費は五拾圓増すから壹千五百圓になりますね、夫れでいい理けです。

外に御意見はありませんか。

○湯澤上越(高橋仁太郎) 一寸御伺ひ致しますが協議事項に豫算に關係のあるものがありますが、協議の上實行することに成れば十一年度からやるのですか、夫れ共十二年度からやりますか。

○副會長 十二年度からやります。

○湯澤上越(高橋仁太郎) 判りました。

(異議なし)

○副會長 サービス講習を多くやること、縣外温泉地視察に澤山行く様にこの御希望です。

縣外温泉地視察は希望者が多ければ支給額を減じますが大體補助金は二分の一か、三分の一程度で宜いでせう。夫れ共二分の一程度に致しますか。

○赤倉 二分の一から三分の一の範圍内で宜い様にやつて頂きたいです。

○副會長 申合せと致しまして縣外温泉地視察は人数は三人乃至五人、補助額は二分の一乃至三分の一と致して置きます。

○村杉、出湯(荒木義雄) 縣觀光協會聯合會はこんなことをやつてゐるのですかね。

○瀬波(八子) 縣下の協會の内では温泉協會が一番仕事をやつてゐます。自動車協會等はほんに何にもやつてゐませんよ、従業員の表彰位で。

○村杉、出湯(荒木義雄) 温泉協會でも従業員の表彰をやつて下さい。

○瀬波(八子) 實費を出してもよいからやつて下さい。

○鷹之巢 來年度の事業としてやつて頂き度いですね。

○副會長 歳出に就て御異議はありませんか。

(異議なし)

○副會長 夫れでは十一年度歳入歳出豫算を決定致します。

次は本部提出議案
議案でもないのですが各温泉に於てパンフレットやリーフレットを御作りに成つたときには本部に送つて頂き度いと云ふのです。縣には色々な會合がちよいとあります。其の時に御土産に差上げ度いと思ひます。

さうすれば歸へりは一寸遊んで見やうと思ふ人もあるだらうし、又其の時には効果がなくても後に成つて來る人もあ

りませうから送つて置いて下さい。宣傳用のものならハガキでも宜敷い旅館のものでも何んでも宜いし、澤山でなくとも宜いから協會宛に送つて下さい。

此の間の自治講習なんかにも澤山集つてゐます。然も北は樺太、南は沖繩と云ふやうに遠方から來てゐます。關東東北鐵道醫會等もありましたね。

もう一つ、温泉場全體で立看板を建てたり、パンフレットやリーフレットを作成した場合には温泉協會で助成金を差上げることに成つてゐるのに申出がありません。遠慮なく申出して下さい。問題は瀬波なら瀬波、月岡なら月岡としての宣傳の場合に限るのですから個人のものには御免蒙ります。之れだけを本部提出議案に當て嵌めて置きます。

愈々今度は協議事項に移ります。

大湯温泉提出

一、本温泉地に評議員一名を増置せられたし。

之れは増しても宜いですか。

(異議なし)

夫れでは増すことに致します。

一、協會費を半額に減額せられたし。

會費の減額はやる仕事が無かつた時なら宜いが、今はさうですかね。

○村杉、月岡(今井) 其の時期ではありません。

○副會長 夫れでは之れは保留致します。

一、縣外温泉視察旅費の補助、從來の三分の一以内を三分の二に増額せられたし。

之れは先の申合せで宜いと思ひますが、
(宜いですね)

其の次は湯澤、高瀬、鷹之巢温泉共同提出

一、本年九月一日より開催の米澤市主催博覽會に協會として縣内温泉を紹介する爲一場所を借り受け有効的設備を爲すの件。

○村杉、月岡(今井) 賛成します。

○副會長 提案者の御説明を願ひます。

○鷹之巢 此處に書いてある通りですが。

○瀨波(八子) 下越に偏してゐますが。

○赤 倉 私は上越ですが結構です。

○副會長 全部の爲ですよ、

印刷物も出して下さい。

場所の關係で全部の寫眞を出品出来ないかも知れないが、全部出品出来なければ適當にやらなければなりません。本部に任せて呉れますか。

○赤 倉 其の時は二回に分けたらどうです。

○鷹之巢 三十枚位ですから並ぶでせう。

○副會長 縣觀光協會聯合會でやるのだと多く出品出来ませ

ん。

五拾圓位の費用で済むのなら温泉協會獨立としてやつたら如何です。

○鷹之巢 未だ其處迄行つてゐない様です、先達つても向の方か来て長岡市でやつた博覽會位にやり度いがあれ迄行かないだらうと云ふ話でした。

○赤 倉 縣觀光協會聯合會から誰れか行つてゐますか。

○副會長 未だ判りません。

今申し上げた様に縣觀光協會聯合會で取つた場所を利用すれば費用は少なくて済みますが、夫れでは全部の寫眞が並ばんから五拾圓程度なら温泉協會でやることにして三十枚全部を陳列致しませう。

○月岡(今井) 夫れが宜敷い、若し出来ないなら抽籤でやつても宜いでせう。

○鷹之巢 仙澤線でも出来て仙臺、新潟間に直通列車でも出来たら之れ迄新潟縣の温泉は山形縣の温泉に客が貸してある状態だから返へして貰はんければなりません。

○副會長 米澤の博覽會には是非出品致しませう。其の他にも斯様なことは大いにやることに致します。

○赤 倉 從業員の表彰規定を御決議願へませんか。

○副會長 臨時議題として御提出なら致します。

○赤 倉 從業員の表彰規定を拵らへて頂く様に提案致します。

○副會長 夫れでは議題に供します。

○赤 倉 第一回のことでありますから來年度に表彰して頂くこととし其の以前に各温泉地より表彰に値ひする人を推薦して會長、副會長若は理事會で選考して決定するやうにしては如何です。

○副會長 御異議はありませんか。

(異議なし)

博覽會のこともありますし表彰規定もありますから理事會を開いて審議決定することに致さうと思ひます。或は理事會を開催しないで文書の上で御相談するかも知れません。

規定に適合する人の經歷、住所氏名を各温泉地より申出たものに對し適當な機關に照會して審査の上表彰することに致しませう。

○村杉、出湯(荒木義雄) 結構です。

○副會長 左様なことに御承認願ひます。

案を作成する参考と致し度いのであります。がどの程度にやりますか、女中許りでなく、番頭、料理番、風呂番等迄含まれますか、勤続年限は五年以上としますか、十年以上と致しますか、金額はどうか、品物を與へるか、金一封の方が宜いか、此の際お聞きして置きたいと思ひます。

○副會長 夫れは御自由にやつて下さい。

○赤 倉 男も女もくるめて勤続年限は女は短く、男は長くして表彰狀の外にメダルをやつたらどうかと思ひます。

年限は三年、五年、七年と致したら如何でせう。

○副會長 三年、五年、七年とする。一等有功章、二等有功章見たいで可笑しいが男なら十年、女なら五年としてやつては如何です。あまり段をつけることやこしいから、然し年數だけでは宜くないでせう。

○赤 倉 年限が當て嵌つても缺點があれば勿論駄目です。

○副會長 サービスが良いとか模範になるとか云ふことに成らなければね。

○村杉、出湯(荒木義雄) 年限は男女共五年以上としては如何です。

○副會長 男女共五年以上勤続して模範となるものとし、各支部で審査して尙本部で調査して表彰することに致しませう。

○月岡(本間) 金一封が宜いね。

○月岡(今井) メダルは宜くない、陸軍の天保錢さへ廢する時代だから。

○副會長 今のは参考資料です、何れ理事會又は文書で相談して決定致します。

○鷹之巢 雇主の方でも筆筒の一本も出したら如何です。

○副會長 夫れは御自由にやつて下さい。

○副會長 夫れは御自由にやつて下さい。

大體表彰規定を作ると云ふこと、程度は男女共五年以上で適當な従業員を各支部長又は各組合長から推薦して貰ひ審査の上表彰状をやれば宜いのでせう。

以上で協議事項を全部終了致しましたが未だ何にかありませんか。

○湯澤上越(高橋仁太郎) 昨年の總會に協議題として出て保留に成つてゐるものですが夫れに就て意見を述べさして下さい。

縣温泉協會に専任書記を置いて貰ひ度いと云ふことですが本年は交附金も減つてゐるし、無理だかも知れませんが公務御多忙の中を温泉協會の仕事をやつて頂くのは同情致しますが、専任書記を置かんと意の如く振はない様な懸念がありますから豫算の内費用を遺繰りして置いて頂き度いと思ひます。縣外温泉視察費は決算を見ますと申込者も多数なかつた様で結局一名しかないと云ふ状態ですから之れらは削減して書記の手當に廻はし實現致したいと思ひますが如何です。

○副會長 専任者を置いた處で一年中やる仕事もないのですから、又書記問題は十一年度の豫算の決議も済んだことでもあるし保留しては如何です。専任書記に何んでも出来る人、例へばサーブイス講習でも何んでも出来る人を雇ふことになれば年額貳百圓や參百圓では駄目です。

○湯澤上越(高橋仁太郎) 縣交附金が減るやうですが温泉は大低山間部にあつて然も都市計畫費の様な都會の費用も出してゐるのですから其の意味に於て交附金は減らす處か増額して貰ひ度いと思ひます。

○副會長 左様なことは總會で決議した方がよい。

○赤倉 専任書記として衛生課に一人増して貰つたらさうか、そうして其の人に協會の使命を遂行して貰つたらさうかと思つて昨年協議題として提出したのでしたが衛生課では専任書記を置かなくてもやると云ふ意氣込みで居られるのであり、其の意氣込みで豫算も出來てゐるのですから此の際はお任せしたら如何ですか。

○副會長 さほご御同情下さるのなら他の費目のものを諸給の方に若干流用することを御承認下さいませうか。

○村杉、出湯(荒木義雄) さうぞ御遠慮なく。

○副會長 夫れでは若干流用するかも知れませんが御承認願ひます。

(異議なし)
時間ありませんから縣外温泉地視察報告は省略して會誌に登載することに致したいと思ひますが御異議はありませんか。
(異議なし)
閉會の御挨拶を申し上げます。

新潟縣温泉協會昭和十年度收支決算書

収入ノ部

費目	豫算高	決算高	比増	比較減	附記
第一款 温泉協會費	三、三三〇・七八	一、八六五・三五	円	一、四六五・四三	
第一項 温泉協會費	三、三三〇・七八	一、八六五・三五		一、四六五・四三	
第一目 會費	九三三・八五	四四〇・〇〇		四八八・八五	
第二目 寄付金	一、〇〇〇・〇〇	—		一、〇〇〇・〇〇	
第三目 縣交付金	九五〇・〇〇	九五〇・〇〇		—	
第四目 利子	五〇〇	一一〇・〇〇	七〇〇	—	
第五目 繰越金	四五九・三三	四五九・三三		—	
第六目 雑收入	—	—		—	

支出ノ部

本日は長時間に亘り慎重審議致されまして決算の承認、豫算の決議は勿論協議事項等と滞りなく終了致しましたことは御同慶に堪へません。地元瀬波温泉に於ては設備萬端何かと御骨折下さいまして有難う御座いました。厚く御禮申上ます。
之れより直に粗餐であります但晚餐を差上げます。
之れを以て閉會の辭と致します。
(閉會午後五時)

費目	本年 預算高	前年 預算高	比 増	較 減	附 記
第一款 温泉協會費	二、五八五九三	三、三四七七八	—	七六二二六	
第一項 温泉協會費	二、五八五九三	三、三四七七八	—	七六二二六	
第一目 繰越金	三三〇八七	四三九三三	七一五四	—	
第二目 會員納付金	一、一九九〇五	九三三八五	二六三三〇	—	本年度納付金 六二一、四〇〇 未納累計 五七七、六五〇
第三目 寄付金	—	—	—	—	
第四目 縣交付金	八五〇〇〇	九五〇〇〇	—	一〇〇〇〇	
第五目 利子	五〇〇	五〇〇	—	—	

歳入ノ部

新潟縣温泉協會昭和十一年度歳入歳出豫算

改良指導費	二〇〇〇〇	—	—	二〇〇〇〇	
雜費	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	—	—	
第三項 會議費	六〇〇〇	二一九六〇	五九六〇	—	
第一目 會議費	六〇〇〇	二一九六〇	五九六〇	—	
第四項 豫備費	五二二八	五〇〇〇	—	四六二八	
第一目 豫備費	五二二八	五〇〇〇	—	四六二八	

費目	豫算高	決算高	比 増	較 減	附 記
第一款 温泉協會費	三、三四七七八	一、三四四八	—	二、〇〇三〇	
第一項 事務所費	五三三〇〇	三四二七六	—	一、八八七二四	
第一目 諸給	三三〇〇〇	一六三三〇	—	一、六三六七〇	
手当	八〇〇〇	八〇〇〇	—	—	
費用辨償	一五〇〇〇	八六三〇	—	六三三七〇	
第二目 需要費	二九五〇〇	一七五四六	—	一、一九五五四	
備品費	五〇〇	—	—	五〇〇	
消耗品費	七〇〇〇	九〇	—	六九一〇	
通信運搬費	七〇〇〇	三二二	—	四八七九	
印刷費	一五〇〇〇	一五三三五	三三五	—	
第二項 事業費	二、三五一〇〇	八三三三	—	一、四七七八八	
第一目 宣傳費	一、三〇一〇〇	四五二七	—	八四九八三	
紹介宣傳費	一、〇〇一〇〇	三三〇〇	—	六七一〇〇	
講習會費	三〇〇〇〇	八二七	—	二、八八三三	
第二目 調査費	九〇〇〇〇	三七九五	—	五、六二〇五	
温泉調査費	三〇〇〇〇	三三九五	三九五	—	
縣外温泉視察費	三〇〇〇〇	—	—	三〇〇〇〇	

歳出ノ部

費目	本年	前年	比	附
	算年度	算年度		
第一款 温泉協會費	二、五五九三	三、三三七八	門	七、二三六
第一項 温泉協會費	五七〇〇	五三三〇	門	
第一目 諸給	三三〇〇	三三〇〇		
手當	二〇〇〇	八〇〇		温泉分析、事務囑託手當
費用辨償	一三〇〇	一五〇〇		役員囑託、費用辨償
第二目 需用費	三三〇〇	二九五〇	門	額様寫眞三十枚入木製箱調製ノ爲増額セリ
備品費	五〇〇	五〇〇		
消耗品費	七〇〇	七〇〇		
通信運搬費	七〇〇	七〇〇		
印刷費	一五〇〇	一五〇〇		會報其ノ他會議書類印刷
第二項 事業費	一、五〇〇〇	二、二四一〇	門	七、二一〇
第一目 宣傳費	七〇〇〇	一、一〇一〇		七、二〇〇
紹介宣傳費	五〇〇〇	一、〇一〇〇		紹介宣傳費、ポスター、リーフレット印刷費及其ノ他ニ對スル補助
講習會費	二〇〇〇	九〇〇		女中巡回講習費
第二目 調査費	七五〇〇	九五〇〇		二〇〇〇

温泉調査費	五〇〇〇	五〇〇〇		温泉調査
縣外温泉視察費	一五〇〇	五五〇〇		温泉視察ニ要スル旅費ノ補助
改良指導費	一〇〇〇	一〇〇〇		斯界ノ權威者ヲ招聘改良指導ヲ乞フコト
雜費	一〇〇〇	一〇〇〇		
第三目 負擔金	五〇〇〇	—	門	新潟縣觀光協會聯合會費
第三項 會議費	一〇〇〇〇	六〇〇〇	門	理事會、評議員會開催數増加ノ見込ニ依リ増額
第一目 會議費	一〇〇〇〇	六〇〇〇		
第四項 豫備費	三、五九三	五、二一八		一、九五三六
第一目 豫備費	三、五九三	五、二一八		一、九五三六



温泉旅館従業員のサービス講習會

一、赤倉温泉に於けるサービス講習會
 日時 昭和十年十一月二十五日より二十七日迄の三日間
 毎日午前十時より午後三時迄
 會場 赤倉温泉 廣島屋
 受講人員 旅館主人、女中、番頭等二十二名
 講習内容
 第一日 開會の挨拶 野口囑託
 禮儀作法講義及實習
 講師 新井實科高等女學校教諭 本間マサ氏
 第二日 赤倉温泉地附近の名勝史蹟傳説
 講師 妙高尋常高等小學校長 山本次郎氏
 第三日 接客上の注意
 講師 長野運輸事務所長 本山邦久氏
 閉會の挨拶 野口囑託
 一、妙高温泉に於けるサービス講習會
 日時 昭和十年十一月二十八日より三十日迄三日間、毎日午前十時より午後三時迄
 會場 妙高温泉 加島屋
 受講人員 旅館主人、女中、番頭等二十三名
 講習内容

第一日 開會の挨拶 野口囑託
 接客上の注意
 講師 長野運輸事務所長 本山邦久氏
 第二日 禮儀作法講義及實習
 講師 新井實科高等女學校教諭 本間マサ氏
 第三日 妙高温泉地附近の名勝史蹟傳説
 講師 關川尋常高等小學校長 漆間信吉氏
 閉會の挨拶 野口囑託
 一、湯澤温泉(上越)に於けるサービス講習會
 日時 昭和十年十二月二日より四日迄三日間、第一日午前十時より午後四時迄、第二日及第三日午前十時より午後三時迄
 會場 湯澤温泉布場スキー場山の家
 受講人員 旅館主人九名、番頭十名、女中二十九名
 合計四十八名
 第一日 開會の挨拶 田淵囑託
 禮儀作法講義及實習
 講師 六日町實科高等女學校教諭 松澤ミサオ氏
 講習要項
 一、禮儀作法の根本精神

一、日常の作法
 一、容儀を整へ規則正しくすること
 一、言葉遣
 一、常識の涵養(話題を豊富にすること)
 一、客の送り迎え
 一、靴、下駄の取扱
 一、案内の仕方
 一、坐り方
 一、お禮の仕方
 一、歩き方
 一、建具の開閉
 一、客の衣服の取扱方
 座蒲團、煙草盆、火鉢、楊枝、料紙及硯箱、小刀
 鉢、帽子、洋傘、ステッキ
 一、飲食物の進め方引き方
 お茶、お菓子、コーヒ、お膳、果物、お酒
 一、給仕の心得
 一、洋服の着せ方
 一、火鉢に火のつき方
 一、掛物の掛け方
 一、電信、電話の取次

一、掃除の仕方
 第二日 郷土の地理と歴史
 講師 湯澤尋常高等小學校長 清水貞壽氏
 温泉に就ての常識 講師 田淵囑託
 第三日 女中、番頭のサービスに就て
 講師 越後湯澤驛長 石井哲二氏
 講習要項
 一、驛前案内人の心得
 一、浴客数と動向
 一、スキー列車、温泉列車乗客の待遇方法
 一、接客の態度
 一、接客の實際
 閉會の挨拶 田淵囑託
 一、瀬波温泉に於けるサービス講習會
 日時 昭和十年十二月五日より七日迄三日間、毎日午前
 十時より午後三時迄
 會場 瀬波温泉俱樂部
 受講人員 旅館主人、女中、番頭等二十五名
 講習内容
 第一日 開會の挨拶 野口囑託
 接客上の注意
 講師 仙臺鐵道局運輸課旅客係 下山富士雄氏

第二日 禮儀作法講義及實習

講師 村上高等女學校教諭

星 芳氏

第三日 瀬波温泉地附近に於ける名勝、史蹟、傳説

講師 瀬波尋常高等小學校長

佐藤有藏氏

閉會の挨拶

野口囑託

一、鷹之巢、高瀬、湯澤三温泉サービス講習會

日時 昭和十年十二月八日より十日迄の三日間

會場 高瀬温泉ますや旅館

第一日 開會の挨拶

金子囑託

一般サービスに就て(約三時間)

講師 仙臺鐵道局運輸課旅客係 下山富士雄氏

受講人員 旅館主人十二名、女中十八名、合計三十名

第二日 郷土の傳説(約三時間)

講師 松岳寺住職

高橋祖舟氏

郷土の史蹟(約一時間)

講師 關尋常高等小學校長

鈴木榮次氏

受講人員 旅館主人八名、女中二十一名、合計二十九名

第三日 禮儀作法の講義及實習(約四時間)

講師 村上高等女學校教諭

星 芳氏

閉會の挨拶

金子囑託

受講人員 旅館主人九名、女中二十六名、藝妓九名、合計四十四名

合計四十四名

赤倉温泉 妙高温泉 に於ける講習要項

客に接する心得

◎接客者五訓

- 一、親切を旨とし丁寧なること。
- 一、禮儀を尙び忠實なること。
- 一、責任を重んじ正直なること。

◎服装容姿

- 一、品位を保ち優美なること。
- 一、端正にして明朗なること。
- 一、服装を清潔にすること。
- 二、頭髮を綺麗に梳ること。

- 三、顔及手を清潔にし爪を短かくして垢をつけぬこと。
- 四、齒及口中を清潔にすること。
- 五、姿勢を正しく健康にして明朗敏活なること。

◎禮儀作法

- 客に對しては敬愛の念を以て親切丁寧を旨とし目上の人に對する禮を以て接すること。
- 一、應接は最も圓滑なること。
- 二、態度は自然を尊ぶこと。
- 三、感情を害しないこと。
- 四、親切を旨とすること。
- 五、なりふりを亂さず傲慢横柄に傾かざること。
- 六、起居振舞を優美にすること。
- 七、客には笑顔で以て接すること。
- 八、客の出入に挨拶を忘れぬこと。
- 九、客の服装や身分によつて應待に差別をつけぬこと。
- 十、老幼者を勞ること。

◎言葉遣ひ

接客技術の主體を爲すものは動作と言葉であります。

- 「いらつしやいませ」
- 「何を差上げませうか」
- 「有難う御座います」
- と云ふ様な簡單な應待でさへ動作と言葉とが一致しなければ

◎標準用語

- お客が店に入つて來た場合
- 「いらつしやいませ」或は「いらつしやいませ」と云ふ

ばうまくゆかぬのであります。即ち我々が何か云わうとするとき、何事かを表はす言葉を出す時には動作表情によつて補はれます。

「ハイ」と返事をする様な簡単な事でも其の言葉に應じて動作表情が伴はねばそれは死んだ應待だと云はねばなりません。この意味より言葉は接客技術上最も大切なもので如何程動作表情の研究を積むでも言葉や音に不忠實であれば佛作つて魂入れずの類となります。

さて其の大切な言葉をより良く表はすものは音でありますニューヨークの有名な俳優は「イエス」(そうですの意)と答へるだけに百二十餘通りの發音法があると云つて居ります。

- 一、言葉は率直にして虚偽ならざること。
- 二、用語は正しく簡潔なること。(曖昧な言葉は遣はぬこと)
- 三、無駄口を多く云はぬこと。
- 四、物をよく考へて云ふこと。
- 五、多辯をつゝしむと共に寡言は注意すること。

○お客が混んで居る場合

「只今混んで居りますので少々お待ち下さいませ」

「お待たせ致しました……」と丁寧に申し上げます。

○客が歸る場合

「有難う御座いました。御大事にいらつしやいませ」

○お客の前から離れる場合

「誠に恐れ入りますが一寸お待ち下さいませ」

○お客から催促を受けた場合

「誠に相済みません、只今すぐで御座います」とお詫を申し上げます。

○間つなぎの言葉

「よく降りますので定めしお困りで御座いましたでせう」

「今日は大變お寒う御座います、途中は大變で御座いましたでせう」

「随分御疲れで御座いましたでせう。ゆる／＼御休み下さいませ」

等お客には妻の氣持で又母、姉に對する氣持で優さしく申上げる。

○自他の呼び方

「貴方様」相手のこと

「御主人様」

「旦那様」

「奥様」

「お坊ちやま」

「お嬢さま」

「ご隠居様」老人男女共に對し

「お連れさま」一緒に來た人(男女共に)に對し

「お邸」相手の家を云ふとき

「お宅さま」

「お客さま」モシ／＼と呼びかける時

「皆様」相手のお客に對し他のお客を云ふとき

「お客様方」

「○○屋さん」同業者を指していふとき

○接客を主として心得べき日常作法

一、最初の一禮より恭敬の意を失はぬこと。

二、何事も不自然にならぬこと。

三、行違ひの禮は少し手前で行ふこと。

四、人前を通るときには必ず會釋をすること。

五、人の相對した中を通り抜けてはならぬこと。

六、尊者が自分の前を通るときは禮又は會釋をすること。

七、尊者と同行する時は一步遅れて隨行し、案内するときは一步先を後を注意しつゝ歩むこと。

八、歩行の際は食物を口にせぬこと。

九、通行人を指笑し又は大聲に談笑せぬこと。

○女關口での出迎へ

ハ、委託された荷物の検査——旅館への到着等に就き客に聊かも不安の念を抱かしめないこと。

一、立關口の出迎へは仰々しくないこと。

ロ、客に我家へ歸つた様な感じを與へることに留意すること。

受持ちの女中が立關へ出るのが一番よい。

ハ、旅館に對する好悪の感は第一印象によつて決り易いから立關へ出るものは氣分の明るい者がよい。

一、客の風采をジロ／＼見ることが勿論悪いことであるが殊に風采によつて客を見下し、或は部屋を決めたりするが如きは慎まねばならぬ。

ロ、案内を躊躇することは客の感情を害する。

○室の豫約があつた場合

お客の到着する迄に十分室を整備し置き客が到着したならば遲滞なく部屋へ案内し、尙一應部屋の可否を尋ねること。

○室に案内の途中出會ふ女中其他は客に軽く會釋し、歓迎の意を表すること。

○室に案内したら一應次の間に下つて「よくお出で下

○お客が混んで居る場合

「只今混んで居りますので少々お待ち下さいませ」

「お待たせ致しました……」と丁寧に申し上げます。

○客が歸る場合

「有難う御座いました。御大事にいらつしやいませ」

○お客の前から離れる場合

「誠に恐れ入りますが一寸お待ち下さいませ」

○お客から催促を受けた場合

「誠に相済みません、只今すぐで御座います」とお詫を申し上げます。

○間つなぎの言葉

「よく降りますので定めしお困りで御座いましたでせう」

「今日は大變お寒う御座います、途中は大變で御座いましたでせう」

「随分御疲れで御座いましたでせう。ゆる／＼御休み下さいませ」

等お客には妻の氣持で又母、姉に對する氣持で優さしく申上げる。

○自他の呼び方

「貴方様」相手のこと

「御主人様」

「旦那様」

十、室内は勿論廊下、階段等も可成靜かに歩むこと。

十一、室内の物品は之を踏み又は跨いではならぬ。

十二、戸障子の開閉はしとやかに明け放しにせぬこと。

十三、室に入らんとするときは日本間の場合は先づ許可を(明ける前に御免下さい)受け、西洋間の場合はノックして應答を待つこと。

十四、饗應の場合配膳給仕等は容を整へ進退を端正にし特に手指を清潔にすること。

十五、身振り表情は品位があつて床しい中に人を引きつけるなごやかさを持つこと。

十六、多人數の集る場合は私語してはならぬ。

十七、別懇な人に對しても特別な扱に出ると他の人の感情を損じ易い。

○女中の接客に就て

1. 到着の際

(一) 驛の出迎へ、荷物の世話

イ、出迎者は時間を嚴守し機敏にして堅實でなければならぬ。

ロ、降車口では旅館名が直ぐ目に付く様な方法を探る

客には鄭重なるも煩しい感じを與へぬ程度の挨拶をすること。

さいました御疲れのことで御座いませう」と挨拶し室に對する客の満不滿を確めること。

(七) 室は客の申出なき限り勝手に變更せぬこと
常宿客は何時もの部屋に通すがよい。

(八) 宿帳の記入は「御手隙に」と依頼し強いて其の場で記入を頼まぬこと。

(九) 寒暑による心遣ひ、夏と冬の扱上の區別

一、客は夏ならば冷たい飲物でも貰へばすぐ湯に入り度いもの。

ロ、冬は部屋が温つて居れば何よりだが、先ず湯に入つて温つて來度いと思ふものである。

(十) 室に入つて座蒲團も火鉢も丹前もないのは第一印象を害すること甚大である。

(十一) お召替の時は必ず女中はこれを手傳ひ、お召物の始末を爲し一時でも脱ぎ放しにしないこと。

(十二) 室に案内する途次出來たら便所、浴場、洗面所、娛樂室等の案内をなすこと。

2. 滞 在 中

(一) 成るべく早く客の氣心を理解し嗜好を見極めること

(二) 客の云ふことを正しいとすること

「お客の云ふことを正しいとせざる者は女中としての資格なし」といふ米國ホテル業界の格言は翫味すべき言葉である。

(三) 客の遺ふ言葉を成るべく遺ふこと。
衣服着替の手傳、室内の整頓等は凡て客の氣心に從ふこと。

(四) 子供や病人に對する取扱は親切と同情を以て細心の助力を必要とする。

(五) 態度や言語は餘り固苦しくならぬこと。
心易くしてしかも隙を見せぬこと。

(六) 世話もやき過ぎるとうるさく又氣味悪くなる。

(七) 世話もやき過ぎるとうるさく又氣味悪くなる。

(八) 客の品評や批評を仲間同志でせぬこと。
客の小言や不平に對して辨解せず一應帳場に傳へること聞流しにすることは宜敷くない。

(九) 他の旅館の批評はせぬこと。
他の旅館の批評の出たときは洩れなく聞き置き採長補短を心掛けること。

(十) 客に教へる様な態度を見せぬこと。
名前を聞かれたときは直に答へること。

(十一) 名前を聞かれたときは直に答へること。

イ、客に親しい感じを與へる。

ロ、客の名前を呼ぶ時往々室の番號を呼ぶ者があるがこれは悪い感じを與へるから避けること。

(十四) 應答は明確に

言葉遣は温和で明瞭でしかも落付を持つこと。

(十五) 土地の案内、汽車、自動車の發着時間等は充分心得置くこと。

イ、附近の名勝地、舊蹟等は距離、所要時間、乗物の關係、目的物の説明に就ての要點を大體心得置くこと。

ロ、物産に就ても平常心掛けて知つて置くこと。

ハ、附近の行事に就ても一應の知識を持ち説明出來れば他國の異風として珍らしく喜ばれる。

ニ、乗物の發着時刻、運賃等はよく質問される直ぐ答へられる方法を考へて置くこと。

呼ばれたら迅速に伺候すること。

用向は復唱すること。

用時を濟ませたらその結果を報告すること。
行先、歸館時間等を伺ひ置くこと。
食事のときは氣忙しくせぬこと。

(十六) 酒の相手は適宜にした方が喜ばれる。尙飲食物の嗜好を充分見届けることも女中の重要な仕事であ

る。

ロ、食事を伺ふとき飲物をも共に伺ふこと。

(十七) 食事の給仕中に頭髮、顔面その他自己の體に手を觸れぬこと。

(十八) 食事には土地の名産は一應勸めて見ること。
海邊の客には野菜、川魚肉等を又山間の客には海魚を食膳に勸めるもよい。

(十九) 床を延べる時は一應斷り、塵のたぐぬ様靜かにのべること。

(二十) 起床時間を伺ひ置き、雨戸の繰り掃除其他靜かにすること。

(二十一) 行儀作法を心得置くこと。
一、室に入るには室外で「御免下さい」と合圖すること。

ロ、膝を崩したり横座りをしたり、又座つた場合膝頭等を出さぬこと。

ハ、座敷内では必ず坐つて挨拶をすること。
外出後は直に客の氣持に合ふ様部屋を整理して置くこと。

(二十二) 案内の仕方

一、風呂場へ案内する時は豫め湯加減を見、風呂場を整理してから案内をする。先客が未だ入浴中なき

のときは其の旨一應断り置くこと。
ロ、便所等を探ねられたとき只方向を指示するのみでなく近く迄案内すること。

(六) ハンケチ其他の洗濯は客の許諾を得てからすること客によつて好まない事がある故。

(七) 容姿、服装については常に心掛けさつぱりと衛生的な身なりをすること。

イ、髪が亂れて居ないか、目脂が出ては居ないか、白粉が崩れては居ないか注意すること。

ロ、髪は洋髪、日本髪何れでも亂れて居なければ良いが、日本髪の方が望ましい。

ハ、指先等は特に清潔にして置くこと。

ニ、前掛けや割烹着は座敷に出る時は必ず取りはずすこと。

ホ、足袋は特に清潔にし白足袋に限ること。素足は絶對不可。

(八) 仲間同志廊下でしやべり合ひ又は放歌を慎むこと座敷ではこんな急ぐ場合でも走らぬこと、又廊下でもバタ／＼高い音を立てて走らぬこと。

(九) 廊下等で客に會つた時は受持ち以外の客でも會釋して道をゆすること。

(一〇) 丹前は等級により差別を付けぬこと。
洋服の上衣や外套は洋服掛に掛けて決して疊まぬこと。

(一一) 亂れ籠に始末するときネクタイ、カラー等と靴下とゴツチャにせぬこと。

(一二) 靴は掃除し他人のものと同違なき様にすること。靴の種類の種類に注意すること。

イ、靴底に部屋番號を白墨にて記し置き出發の際他客と間違はぬ様注意すること。

ロ、高貴の方或は相當身分のある客の靴は一應伺ひたる後に靴墨を使用すること。

(一三) 客の所持品は紛失、破損、汗損せぬ様注意すること。天氣豫報を新聞、ラヂオ等にて心得置くこと。

(一四) 品物の買入其他の注文事に對し等級又は上下ある場合は其の點をハッキリ指して問ひ返さぬこと。例へば汽車の切符購入を命ぜられたる場合一等ですか二等ですかと云はず「何等ですか」と問ひ返すが如し。

(一五) スリッパは何日も揃へて置くこと。廊下を歩く際浴場、便所各室の如何に拘らず目當り次第揃へる。

(一六) 新聞は豫めお好みを伺ひ置き毎朝夕配布すること。客が酒を召して就寢の時は必ず枕元にお冷水とコップを置くこと。煙草盆とマッチ、電話機又は電鈴の鉤

ロ、荷物も定刻二十分前までには届く様又旅館の使用人が一緒に行くことが必要である。
ハ、トランクに旅館のラベルを貼る時は承諾を得てからにすること。

(一七) 室の整備——次の客に對し先客の感じを残さぬ様直に掃除整備すること。
(一八) 客名をお得意名簿に載せ尚性癖、嗜好等を詳細記録し置くこと。

◎参 考 事 項
旅館としての設備は際限ないが「是丈のことは」と云ふ程度のもを列記すれば、

1. 共 同 施 設
イ、散索コース設定
沿道に休憩設備を要す。

ロ、共同遊園地
園内設備としてテニスコート、ブランコ、其他運動設備、プール、ベビーゴルフ、綠蔭、芝生、釣魚、舟遊び、飲泉設備、ベンチ、休憩所等。

2. 個 人 設 備
(一) 立 關
靴履用椅子、長柄靴スベリ、靴履臺、洋服ハタキ、清潔な履物。

も枕元近く寄せて置く。
(二) 特別の客を大切にする爲一般の客を粗末にしないこと。

(三) 翌日の出立時間を確め帳場に書き留め置くこと。起床の如何を速かに知つて客が洗面して居る内にスツカリと室を整頓し氣持よく客を招する様にすること

3. 出 發 の 際
(一) 勸定は明確迅速にすること。
(二) 時間を厳守すること。
相當の餘裕を見て出發時間に充分間に合ふ様にすること。

(三) 心付けを欲し相にせぬこと。
(四) 荷物の世話に氣を配ること。乗物の要否を確むること。

(五) 忘れ物なき様に注意し、出發後忘れ物を發見した場合に成るべく早く先方へ知らせ廻付すること。

(六) 主婦又は番頭が挨拶に出ること。女中は勿論である。玄關先の見送りは旅館の親切待遇の良いこと等を想起させる様に皆が惜別の情を以て送り出すこと。

(七) 驛への見送り荷物の世話
イ、到着の際と同じであるが、出發の時は特に時間を守ること。

(二) 客室

隣室との境は必ず壁とすること。
洋服タンス或は同押入、衣桁、手拭掛、鏡臺、机、室内電話、呼鈴、次の間火鉢、室名札の装置、客室使用札及受持女中札、机上用品——インク、ペン、用箋、封筒(和洋兩方)電報用紙、汽車時刻表(旅館名入宣傳用のものなき面白し)繪ハガキ(繪ハガキと封筒には切手を貼用すれば更によし)屑籠、室内電燈點滅器、電気スタンド、新聞、マッチ

(三) 浴場

石鹼、豫備タオル、飲泉設備。
主治効能、適浴回数、飲用適量等の表示。

(四) 化粧室、洗面所

ボマード、香油、消毒液漬桶、クリーム類、齒磨粉付揚子。
食鹽、石鹼、安全カミソリ、優美な屑籠、半切の白紙

(五) 便所

水洗式最も良し、便所蓋、布巾、芳香油、煙草灰皿、用紙、清浄な履物(藁製のスリッパの如きもの)

(六) 娯樂室

(七) 其他

ラヂオ、蓄音器、玉臺、ピンボン臺、コリントゲーム麻雀、附近案内書、地理書、歴史書、小説大衆讀物等
イ、客室廊下に椅子テーブル類、灰皿、マッチの備付口、丹前は男女用のものを區別し長短兩様とも用意すること。常に洗立の感ある様にし帯も亦清爽のものたること。
ハ、食膳は出來得る限り献立表による注文を受けて調進すること。香のものは地方色豊かなもの二、三種取り合せ食後には必ず果物を供すること。
ニ、クリーニング設備を爲し、シャツ、靴下、ハンカチーフ類のクリーニングを考慮する必要あり。
ホ、豫告ある客室には香を薫くこと。殊に便所近くの客室の如きは常にこれを忘れざること。
ヘ、茶代は廢止しサービス料は公定してこれを會計書に書き込むことが望ましい。
ト、ゴム製のスリッパは感じが悪い、安くともフェルトのスリッパが良い。
チ、散歩下駄は完全なものを揃へて置き甚敷汚れて居るのは感じが悪い。
(八) 最も注意すべき設備
洗面所、便所、浴場

【鐵道營業規則の概要】

旅館の女中さんとして「是丈は心得て頂き度い」事柄を記しますと、

1. 旅客運賃

鐵道省線の旅客運賃は遠距離遞減法によつて算出しますから乗車距離が遠くなる程一籽當りの割合が安くなります。

2. 乗車券の通用期間

片道乗車券は一〇〇籽迄二日、一〇一籽以上一〇〇籽を増す毎に一日を加へる。

往復乗車券は片道乗車券通用期間の二倍(病氣等で期間内に乗車出來ない時は驛長に事由を具し期間の延長を乞ふ事が出來ます)

3. 途中下車

特別の乗車券を除いて一般乗車券所持者は任意の驛で何回でも途中下車する事が出來る。スキーやハイキングの割引では時々途中下車が出來ない場合があるから特に注意する必要がある。

4. 寢臺使用料金

二等 一夜に付上段三圓、下段四圓五十錢
三等 八十錢、中段及下段一圓五十錢
使用開始の五日前から發賣する事が出來る。

5. 急行料金

普通急行料金四〇〇籽迄二等一圓三十錢、三等六十五錢
八〇〇籽迄 二圓 一圓
大體上野、新潟の距離は四〇〇籽以内、北陸線廻り大阪は八〇〇籽以内である。

6. 行先や経路の変更

途中驛から方向を変更して他驛へとか又は著驛に向つて二つ以上の経路のある場合違つた経路に変更する時は前以つて係員に話して下さればその取扱をします。その場合料金の不足のときは不足額を申受け、過剰の場合は手数料十錢を差引いて拂戻します。

7. 乗車券の紛失

乗車券を紛失した時は係員にお話があれば再度運賃を申受けたと云ふ證明書を差上げて相當の運賃を申受け、他日紛失した乗車券を發見した場合再度申受けた運賃をお返し致します。勝手に前途の乗車券をお求めになると假令紛失した乗車券が發見されても拂戻を致しかねます。

8. 手廻り品

危険品、動物(愛玩用小鳥、小虫は別)死體、不潔臭物のため同乗者に迷惑あるもの、座席を塞ぐもの等は客室内に持ち込むことは出來ません。

9. 手荷物として取扱はない物品

旅行に必要な品は手荷物として託送出来るのですが、次の物品は取扱致しません。

- イ、一箇の長さ三米（運動用具、釣道具、天幕用具を除く）容積一立方米、重量一五〇斤を超えるもの。
- ロ、臭氣を發し又は不潔なるもの。
- ハ、他の物品を汚損する虞あるもの。
- ニ、危険品
- ホ、貴重品
- ヘ、動物
- ト、車輛類（不具者用の小型車輛類、乳母車を除く）
- チ、死體、遺骨
- リ、樂器類、寫真器類、理化學機械類、度量衡検査用具
- ヌ、荷造不完全なもの。
- ル、繼詰其の他破損し易いもの。

10 無賃で取扱ふ手荷物の重量

- 一 等 六〇疋
 - 二 等 四〇疋
 - 三 等 三〇疋
- 小兒はこの半量

11 手荷物の配達

停車場のある市内又はその驛から約六斤以内の定められた地域内であれば一箇に付十錢の料金を申受け配達が出来ます。

12 手荷物の保管

手荷物は到着してから二日以内は別に料金を申受けずに保管しますが、此の期間を越へるとその後一日毎に一ケ十五錢の割合で保管料がかかります。

★名物 調（信越線沿線）

- 磯部 磯部煎餅
- 熊ノ平 力餅
- 輕井澤 白樺細工
- 小諸 洋桃
- 上田 みすゞ餡
- 北鹽尻 松茸
- 長野 そば、林檎、杏洋かん
- 柏原 そば、甘茶、鎌
- 高田 毛拔、笹餡、栗餡、スキー菓子
- 田口 笹罐詰、あんころ餅
- 鴻町 無花果、蓴菜、松露
- 青海川 笠島のり
- 柏崎 鯛子鹽辛、明治萬頭、網代煎餅、紫班銅製品
- 宮内 規那サフラン酒、梨
- 長岡 河井煎餅、越の雪、越の松、大手萬頭、赤みそ、スキー

見附 鮎、絹綿交織物

- 三 條 及物、足袋
- 東三條 金物類、風
- 加茂 鶏卵、ウドン、野菜、桐ダンス
- 矢代田 すいかめ菓子、寒梅、牡丹、チウリツブ
- 新津 梨、盆栽、ぜんまい漬、鮎焼煮
- 龜田 梨
- 新潟 梨、五穀糖、油香里、味噌

◎當地最近の状勢

1. 臨時旅客列車入込數（昭和十年一月より）
 - 十三ヶ列車 六千四百二十人
 - その宿泊地 赤倉温泉（三ヶ列車）、妙高温泉（十ヶ列車）
 2. 小口團體乗車數（昭和十年四月より）
 - 百五十七件 一萬四千九百九十五人
 - その内譯
 - イ、學生團體 九十四件 一萬五百九十八人
 - 宿泊したもの 二十二件 千六百九十八人
 - 宿泊しないもの 七十二件 八千九百人
- 宿泊したもの、内慶應莊、愛育館に入りたるもの四組以外は全部旅館に入り、又宿泊せざるものは大抵山麓若しくは野尻湖方面よりハイキングせるものなり。

ロ、普通團體

- 六十三件 四千四百四十五人
 - 宿泊したもの 三十件 千五百六十一人
 - 宿泊しないもの 三十三件 二千八百八十四人
- 宿泊したもの、内九割迄は妙高温泉に、一割は赤倉温泉に入り宿泊せざるものも全部温泉旅館にて中食休憩したものと認めらる。この團體にてはハイキングせるものはなし。
- 團體の傾向を見るに小、中學生は柏原驛下車、野尻湖より國境高原をハイタクし途中池の平或は妙高温泉に遊び、關所跡、明治大帝聖蹟（御駐泊所）、親鸞上人舊蹟を尋ねて乗車、普通團體は善光寺詣での時間の都合上宿泊するもの多く、日歸りは長岡、柏崎、直江津、高田、長野等の諸官衛會社等の慰安旅行に選ばれて居る状態である

3. 旅館、別莊、スキー、その他

- 赤倉温泉 八軒 全部内湯あり
- 池ノ平温泉 三軒 "
- 妙高温泉 六軒 "
- 赤倉新温泉 二軒 "
- 以上は年間を通じて營業
- 赤倉温泉 六軒 内湯なし
- 池ノ平温泉 五軒 "
- 妙高温泉 七軒 内湯あるもの 二

赤倉新温泉 四 軒 内湯あるもの 三
以上は冬期臨時旅館

温泉旅館といへば山間谷りたる處、交通容易ならば平野若くは海濱であることは説明を要せぬ事實である。然るに妙高山麓各温泉は總て海拔三千尺以上の高原にあり、展望の廣潤と空氣の清冽、紫外線の豊烈、省線驛より近き等々の好條件は國內でも有數であることは會遊の士のひとしく推獎する處である。

多くの名人達識も地元の賞讃は得られぬものであるに、當地は虚弱兒童のため縣立愛育館があり、之等は都會の虚弱兒童が毎夏健康を求めに來る。お茶水附屬小學十ヶ年、慶應幼稚八ヶ年等々本夏は十三校も見えた。

春のツ、ジこれは各温泉を包む高原一帯を真紅に燃えさせ百鳥喜びのさへすりとなり秋満山の錦繡はハイキングコースの完備と共に年々名譽を加へ細川侯爵は特に高原の春秋を賞讃愛好されて居る従つて別荘も宮様御別邸を初め細川侯、一條公、大谷伯、入澤、鹽田、河本各博士小杉放庵、松林桂月、吉田紫明各先生、正金頭取窪田四朗氏等實に此の高原に愛著措く不能有名の士のみにても二百軒もある。

これにもまして有名にさせたのは國際スキー場問題である。これは問題でも何でも無い、年末、年始にワンサ

く押し寄せて來る外人は量から見ても事實國際的であるのであつて今更の事でないから既往の實績に徴して早く國際ホテル建設に着手したがよいと思ふ。

スキーの無かつた昔の温泉宿はほんとの寢喰いで倒産者續出であつたが、現今ではスキー様々でいづれの温泉でもそこを中心としたゲレンデートレールにシャンツェにヒュツテに指導者養成に内容の充實にこれ努め、千客萬來を待つて居る。事實汗ばんだ體を出湯に漬け浴槽から見るスキー場の快感は思ひ出して身内のうづくを思ふ妙高山麓にスキーを爲さずしてスキーを談じ得ぬとは大鐵局の宣傳語であり、かつ關西地方の常套語でもある。

◎當地の風評

- 一、赤倉、池ノ平は別荘を主として發展し、旅館は従なりしも近來赤倉温泉旅館は稍この傾を脱し、妙高は汽車便に對する足溜りとして利用されつゝあり。
- 二、往昔は避暑地として繁榮せるも現在はさほご入込客はなく、只小、中學生に夏期の健康地として選ばれ之等の滞在客多し。
- 三、冬の二週間程(十二月二十五日より一月十日頃迄)は超滿員で此の時期だけは手不足を告げ不良待遇をなす故この印象が妙高山麓は年中を通じて待遇悪しと評せらるゝ嫌あり。

四、各旅館とも番頭の勤續年は永い、然し女中は殆ど居付かず従つて常に不馴の女中多し。

五、番頭は組合あり、この組合は最初驛頭にて旅客の爭奪を爲したる故これを防止する親睦會式に警部補、驛長の膽入りにて成立したるも現在は組合を利用して生活權擁護問題迄入りつゝあり。

六、春より初秋(九月頃迄)番頭が驛集札口附近に異様の風采を爲し、多數羅列するは實に下車客への壓迫を感じしめ甚だ不體裁なり。

◎日本旅行協會と日本旅行俱樂部

日本旅行協會の會員は鐵道、汽船會社其他主として交通を提供する側、即ち利用される側であるのに對し日本旅行俱樂部の會員は旅行者即ち交通を利用する側である。そして協會の役員は同時に俱樂部の役員であり、従事員は同時に俱樂部の事務をとるので實質上俱樂部は全く協會と同一だと云つてよい。

日本旅行協會の會員は年額五拾圓以上を又日本旅行俱樂部會員は一ヶ年參圓を納付し、俱樂部員は毎月雜誌『旅』と時々旅行に關する印刷物の配付を受ける。尙俱樂部に地方月掛旅行會と云ふものを作り會費を積み立て團體旅行其他の事業をなす。

◎ツーリストビューロー又の名日本旅行協會の目的と仕事

海外に對しては我國の名勝、遊覽地、温泉、産業、風俗、美術その他一般文化の紹介、宣傳等をなし、外客を我が國に誘致し之れによつて國際的親交を増し國家經濟の振興を圖る。

◎鐵道主催の團體はさうなつたか

鐵道の主催した團體及鐵道の直接援助する旅行會主催の團體は年々その數を増し、昭和八年度には乗車人員省全體で五十萬人、運賃收入貳百萬圓、斯うした團體の發達は一般の旅行熱を熾にし緑地、海邊、山岳、温泉等への旅客を著しく増加して來たが驛長を初めとし、驛員その他が手辨當で公務の餘暇を利用しての團體の募集や一般の世話は大抵ではなく、何時迄も此の様な變則的の仕事をして置くべきではないと云ふ考へから本年七月一日より資力信用の充分で統制に便利である日本旅行協會に從來の所謂鐵道主催及鐵道が直接後援する旅行會主催の團體の募集實施を一任することになつた。そして

- (一) 團體には鐵道職員が添乗する。

(二) 鐵道省は日本旅行協會に對し本計畫により施行する團體の省収入の八分五厘に相當する金額を手數料として交付する。八分五厘の内五分は添乗旅費に、一分五厘は團體の宣傳費、残り二分の各一分宛を募集及支部設置費に當てる。

從來新聞社主催のもの或は何々講と稱するものに鐵道が後援したものもあつたが今後は絶対にやらぬ、但し何々講と稱するものがその計畫の内容の一切を舉げて日本旅行協會に一任する場合は之れを協會主催の團體として扱ふ。

◎スキー用具の手入

スキー用具(スキー靴、靴下、衣服、スキー附屬品等)の手入方法も亦一通心得て居て欲しい。

然し客によつては總て手入を自分でやり他人の手入を好まない人があるから注意をする必要がある。特にスキー靴はスキーヤーの一番大切にするものであるから取扱上特に注意されたい。次に大體これ等の手入方法を述べて見る。

先ずスキーは滑つて来たときは濡れて居るから附着した雪を落し、棚があれば之れに揃へて立て掛けて置く。この場合は曲つた方(先端)を下にして置くこと。

スキー杖は一方の輪へ一方の杖を通し一緒にして片方づゝ離れない様にする。又、スキー靴の手入は仲々難しい物であり、又、一ばん翌日の使

用に影響するものであるから入念に取扱はなければならぬ。甲革や底革に附着した雪を落して濡れたのをふき取り、中へ古新聞紙等を込めて乾燥室へ入れると最もよい。

乾燥室でも餘り火の近くに置くはよく、革を焼く虞れがあるからなるべく遠火にあてる様にし決して強い火にあてない様に心掛けねばならぬ。

すつかり乾いたら油を塗るのであるが、油をつけると折角の靴がスキー靴の用を爲さなくなる様な事があるから塗油方法も又よく知つて置かなければならない。靴の先端の固い所と、踵の固い所は油を避けて塗れば大體間違はない。然しこれもお客によつて大分方法が違ふから一應尋ねて見ながら塗油すべきである。

其他用具附屬品として靴下、手袋、シール(アザラシの皮)ノールエーバンド、衣服等濡れたものがあつたら乾燥室等へ入れて乾かし、翌日の使用に差支へない様に心掛けて戴きたい。

此等の手入や取扱について最も注意しなければならぬ事はさのお客も皆同じ様な持物であるから混雜する時は間違のない様に注意されたい。お客はスキーを楽しみに來て居るのであると云ふ事を頭に置いて各人の持ち物に名札を付ける等の方法を講ずる事が必要である。尙スキーはお客自身で手入や取片付けをする者が多いから無斷で置き場を變

へたりすることは絶対にない様にせねばならぬ。

◎地方的必要事項

◇高原の概念

妙高々原は海拔二、五〇〇米の妙高山を中心とした東西一六軒、南北四〇軒に連亘した一帯を謂ひ、千變萬化最も理想的なスキー場を包含して居る。

◇温泉

- 妙高温泉(海拔六五〇米) 泉質は單純硫化水素泉で温度は五二度
 - 池ノ平温泉(〃 七二九米) 泉質は妙高と同じ
 - 新赤倉温泉
 - 赤倉温泉(〃 八二〇米) 泉質は單純硫化水素泉弱苦味泉弱食鹽泉、温度は五四度乃至六二度
 - 關 温 泉(〃 九七〇米) 泉質は食鹽含有炭酸鐵泉、温度四一度
 - 燕 温 泉(〃 九七五米) 單純硫化水素泉、温度四五度
- ◇氣候
- 夏期に於て最高三〇度を昇ることなく赤倉の如きは二五度を昇ることは恐らくないであらう。冬期に於ける積雪量は各地共大體一米乃至二米で大體粉雪にしてスキーに

は好適である。

◇名所舊蹟、その他

- 明治大帝御野立所、關川の關所跡、親鸞上人袈裟掛の松苗の瀧、鬼小島彌太郎の遺跡、熊坂長範要塞の跡
- 妙高山一帯には白樺の木多く又貴重なる植物として紫石南花、黃石南花あり、世界に於ても珍重されて居る。
- 秋は山ブドウ、アケビ等あり、味覺を喜ばす。
- ◇カフエー
- 妙高五軒、赤倉一軒
- ◇藝 者
- 妙高二五人
- ◇スキーの期間及雪質
- 十二月下旬—四月上旬
- 大體主要期間は粉雪と濕雪であるからソックスはメジユウム、クリスター、ミックスの三種類の複合法が適當である。
- ◇ハイキングコース
- 1. 田口驛(一軒、一〇分)—妙高温泉二軒、三〇分—池ノ平温泉(四軒、五〇分)—赤倉温泉(四軒、一時間)—燕温泉(七軒、一時間五〇分)—關温泉
- 2. 田口驛(一六軒、五時間)—笹ヶ峯(一二軒、四時間)—小谷温泉(一〇軒、三時間半)—中土驛

- 3. 田口驛(七軒、二時間)——萬坂峠(一五軒、二〇分)——沼(二五軒、三〇分)——分道ヒユツテ(八軒、二時間)——飯山驛(汽車五四錢、一八分)——豊野驛
- 4. 田口驛(五軒、一時間二〇分)——野尻湖(四軒、二時間)——一茶遺跡(二軒、三〇分)——柏原驛

◇モダン語手引

- イン チ キ 詐欺的、ゴマカシ
- カー テン 窓
- ガイ ド 案内
- クー ボン 利札、利子券つき遊覧券
- コ ッ ク 料理人
- サー ビス 奉仕、愛想
- スー ツ ケース 旅行用小鞆
- スキー ヤー スキーをする人
- タク シー 時間外自動車
- ダ ー ス 十二の數
- チ ッ キ 札、無賃扱荷物
- チ ッ プ 心付
- ナイ フ 小刀
- ナ プ キン 洋食の際膝に使用する麻布又は縮紙
- ノ ッ ク コツ／＼と叩くこと

- バス ボート 通過、無賃乗車證
- バス ボート 旅券、旅行免狀
- パン フレット 破裂すること
- パン フレット 宣傳用小冊子
- ヒ ー ター 蒸氣、暖房
- 非常 通話 天災等に緊急事項を報告する通話

- ヒ ュ ッ テ ス ヒステリーの略語
- ヒ ュ ッ テ ス 山小屋、山の家
- ビ ク ニ ッ ク 遊山、團樂旅行
- ビ ュー ロー 協會、役所
- ビル デイ ン グ 建築物
- プ ロ グ ラ ム 水溜、水泳場
- ホ ー ム 目錄、順序
- ボ ス タ ー 家庭、乗降場
- マ ー ケ ッ ト 宣傳用ビラ
- マ ー ケ ッ ト するし、徽章
- マ ー ケ ッ ト 市
- マ ー ケ ッ ト 夫人、女主人
- メ ー ン テ ー ブ ル 土地特有の歌
- メ ー ン テ ー ブ ル 主客の座るテーブル
- メ ー ン ス ト リ ー ト 町中の主要街路

- メ ニ ュ ー 献立表
- メ ン バ ー 部員、人員
- モ ー ダ ン 現代的な
- ユ ニ ホ ー ム 制服
- ラヂ オ ド ラ マ ラヂオを通じて行ふ劇
- ラ ッ セ ル 雪掻車的一种
- リ ー ダ ー 先導者、音頭取
- リ ー ド 先頭を切る
- リ ュ ッ ク サ ッ ク 登山用背負袋
- リ レ ー 引継ぐ事、繼電器
- ル ー ル 規則
- レ ッ テ ル 標し、商標
- ロ ー マ ン ス 序情的な話
- ロ ボ ッ ト 只
- ワ イ フ 人造人間、デク
- ワ イ フ 妻
- ロ ー タ リ ー 雪掻車的一种
- ト レ ー ル 訓練する事
- ハ イ キ ン グ 健康學研行脚
- コ ー ス 通
- ツ ア ー コ ー ス 旅行通路
- ス ロ ー プ 傾斜

- ゲ レ ン デ スキーの練習所
- シ ャ ン ツ エ スキーのジャンプ臺
- サ ラ ー 雪
- テ レ マ ー ク 新しいサラノ雪
- クリ ス チ ャ ニ ャ スキー技術語
- フ ィ ギ ー ヤ ー 〃
- ジ ャ ン プ 型、容姿
- タ ー ン 跳びはねること
- 山 ス キ ー 廻轉
- ニ ュ ー ス 山岳にてのスキー
- オ ー プ ン 山岳にてのスキー
- コ ウ の 物 湯
- オ ア イ ン 漬物
- ム ラ サ キ 會
- 黒 モ デ 醬
- ナ ミ の 花 小揚子
- お 米 の 花 小揚子
- ア タ リ 箱 硯
- 手 荷 配 手荷物着地で配達する扱
- エ 荷 配 手荷物着地で配達する扱
- 亂 れ 籠 衣類入の籠
- イ コ ウ 衣類掛け

カタログ
コーチャイ
コンミツション
パーティー
バスルーム
バスター
メ
アンバイヤ
アトリエ
赤
インテリ
イ
イ
イ
インフ
ウインク
圓
エンゲージ
エロサービス
オーケストラ
オーブ

商品目録
競技の指導
同上指導者
手数、連れ
相手、連れ
風呂場
乗合自動車
備忘録
審判官
審判室
缺損
智識階級
性的魅惑
意味深長
豫定以上にあふれること
通貨膨張
秋波、流し目
壹圓均一タクシー
婚約
性的サービス
管絃樂
むき出し、解放

オフイス
クライマックス
ゴシツ
コンモンセンス
スポーツハート
スケジュール
スマー
スローモーション
センチメンタル
ソフ
チャーミング
チャヤン
テキスト
デザート
トリツク
ナンパーワン
認識不足
パトロ
ファツション
ファツシヨ
ポ
ポケットマネー

事務最高潮
噂
常識
愛人
像定表
粹な、氣の利いた
動作の遅いこと
感傷的
軟
魅惑的
好機
原
洋食後の果物
計
第一人者
正しく物を見ないこと
巨
流
獨
すがた、姿勢
小使

ボツクス
マ
ユ
ラ
レ
ワ
エ
ガ
カ
花
ガ
カ
キ
キ
キ
ケ
ゴ
ゴ
コ
サ
ジ

生人形
上品な機智
戀の濡れ場
出来合
上下一布の服
挿話
娘、少女
一對、夫婦者
藝者、女郎の世界
自動車庫
熱量の單位
活動寫眞
寫眞の大きさ
船室
架空電車
建築様式の種類
活字の名前
運動の種類
對照
原始的土人音樂

サンタクロース
シヤ
シヨウウインドウ
シヨツプガール
スキーホーム
スタ
ステツ
ストライキ
バラソ
ハンドバック
ヘアアイロン
ヘアアイロン
ストーリー
スマー
センチション
ソ
ダンスホール
トラ
ト
ナンセン
ノツクアウト

クリスマスに來ると云ふ童話中
の
美人
陳列窓
女店員
樂しき家庭
觀覽席
足取り
同盟罷業
日傘
手提カバン
頭髪用アイロン
小説、映畫の筋のこと
氣の利いた
人氣、評判
女聲の最も高い聲域
舞踏室
競争路、貨物自動車
山野を跋渉すること
馬鹿々々しいことに可笑味を誘ふこと
打ち倒すこと

ハイヒール	がどこの高い靴
パイプ	聖書
バックミラー	市場のこと
ヴィタミン	自動車の運轉臺にある鏡
ピカ一	營養素
左利キ	断然抜きんでおること
フアウ	酒飲みのこと
フアラウ	愛好者
ブラックリスト	妻 (ドイツ語)
ブルジョア	注意人物
ベビーゴルフ	金持
メガ、モボ	小規模のゴルフ
モダ	覺え
ライター	モダン男女の略
ラヂオ	現代
ルンペン	點火器
レヴュー	無線にかけた無銭飲食
レコードコンサート	浮浪人
れ	新しい民衆娯樂
レタ	レコードを聞かせる會
ト	情婦、妻
	手紙

レツテル	商標
レデー	淑女
レデーモード	出来合品
ロケーション	出張撮影のこと
アナウンサー	ラヂオの放送技師
アナウンス	放送
アパースポーツ	多数家族の住める建物
ウインタースポーツ	冬季の競技
ウエートレス	女給、給仕女
エネルギー	精力
カモフラージュ	見分つかぬ様にする
ギヤング	暴漢のこと
ゴーストツブ	交通整理の標語
サラリーマン	月給取り
サンドスキー	砂スキー
食堂車	食事のどれる車輛
スクリーン	映寫幕
スケッチ	寫生
スケッチブック	寫生帳
スタート	出發
ストツク	スキーの兩杖
スピードアップ	速度をはやめること

日本旅行協會

ソケット	電燈器具(點滅)
タイム	時間
二重放送	同放送局からなす二種の同時放送
ヌーボ	新しい不得要領の言動のこと
判任官	官吏の一階級
パイロット	水先案内、手引者
ヒステリー	婦人に多い神経病
ベス	最善
ストリート	街路
モーション	動作
モーション	模範
ヤンキー	アメリカ人
レストラン	洋食屋
ヘット	牛脂
アイロン	熨斗

◎遊覽券

遊覽券は鐵道省に於て指定した遊覽地を旅行するお客に對して發賣して居りますが、是の乗車券は普通の乗車券と其の趣を大部異にして居つて汽車賃の外に自動車賃、人力車賃或は船賃等を全部發賣で支拂ひ、是等の券片を綴り合せ尙且旅館の宿泊券、食事券をも含めて賣るのであります。

而して此の遊覽券は其の性質上之を鐵道省自身が賣らないでジャパンツーリスト、ビュロー即ち日本旅行協會に委託販賣させて居ります。

遊覽券には種々ありますが、此の邊で普通使はれて居るのが普通遊覽券と云ふので内地の指定地を往復又は廻遊するのであります。此の乗車券は必ず出發した驛へ歸ること、指定遊覽地二ヶ所以上又券片の區間が連續して居る事等が必要なる條件となつて居りまして汽車、自動車等は一割引になつて居りますが旅館の方は別に割引はして居りません。

寧ろ利用するお客さんが多いので普通よりも高い位ですが特に待遇をよくしてやる事が必要であります。尙茶代は不要のことになつて居ります。

それから遊覽券を持つて居るお客さんが途中で變更方を申し出ることがありますが経路を變更するとか、方向を變更するとか云ふ様な事は出来ないことになつて居りますから「クーボン」券は出掛ける前によく研究してコースを決めることが必要であります。然し上級に乘換すると云ふ様な事は差額運賃を支拂へばその取扱を致します。

それから注意しなければならぬ事は自動車に乗る場合自動車券に書いてある會社の自動車に乗る事です。よく間違へて乗つた爲に別に自動車賃を取られる場合がありますから皆様が案内される時はよくお客に聞いて間違はない様に

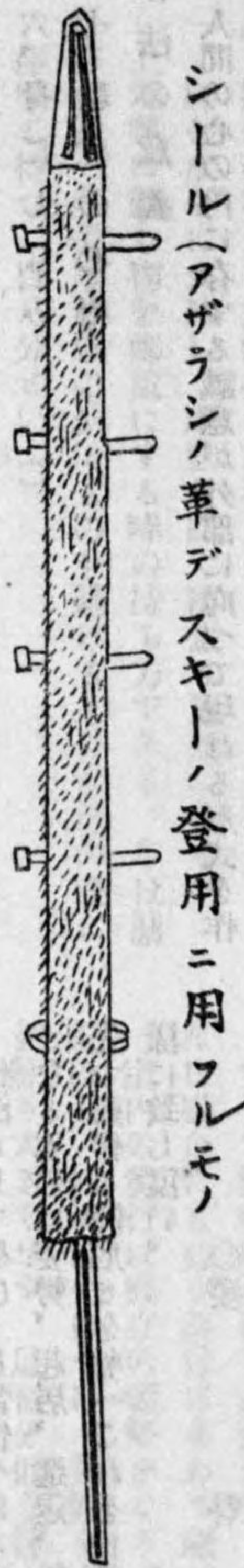
ノールエーバンド
(靴トズボンノ間へ
巻クゲートルノ如キモノ)



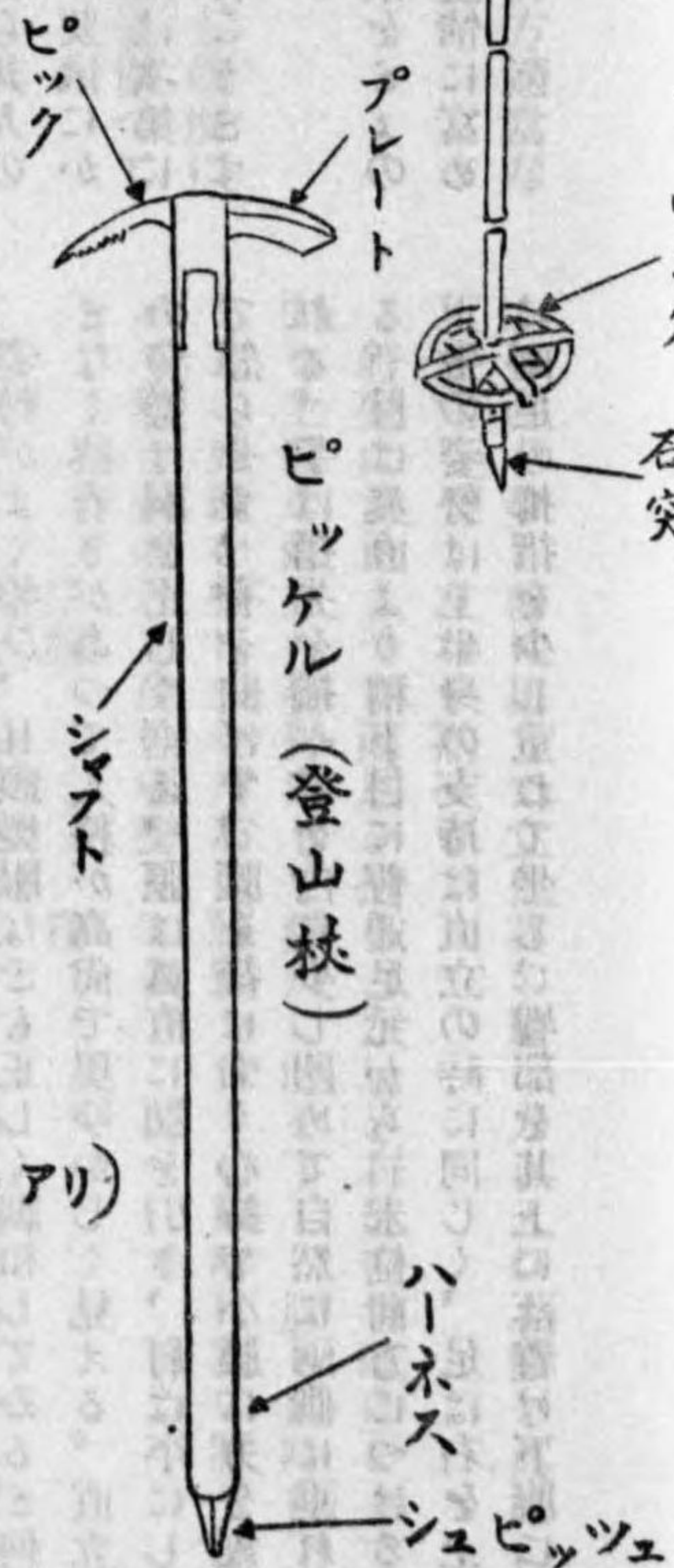
ワックス
(蠟スキーへ塗ル薬品)



シュタイク
アイゼン
(金カンジキ 3本乃至 10本爪ノモノアリ)



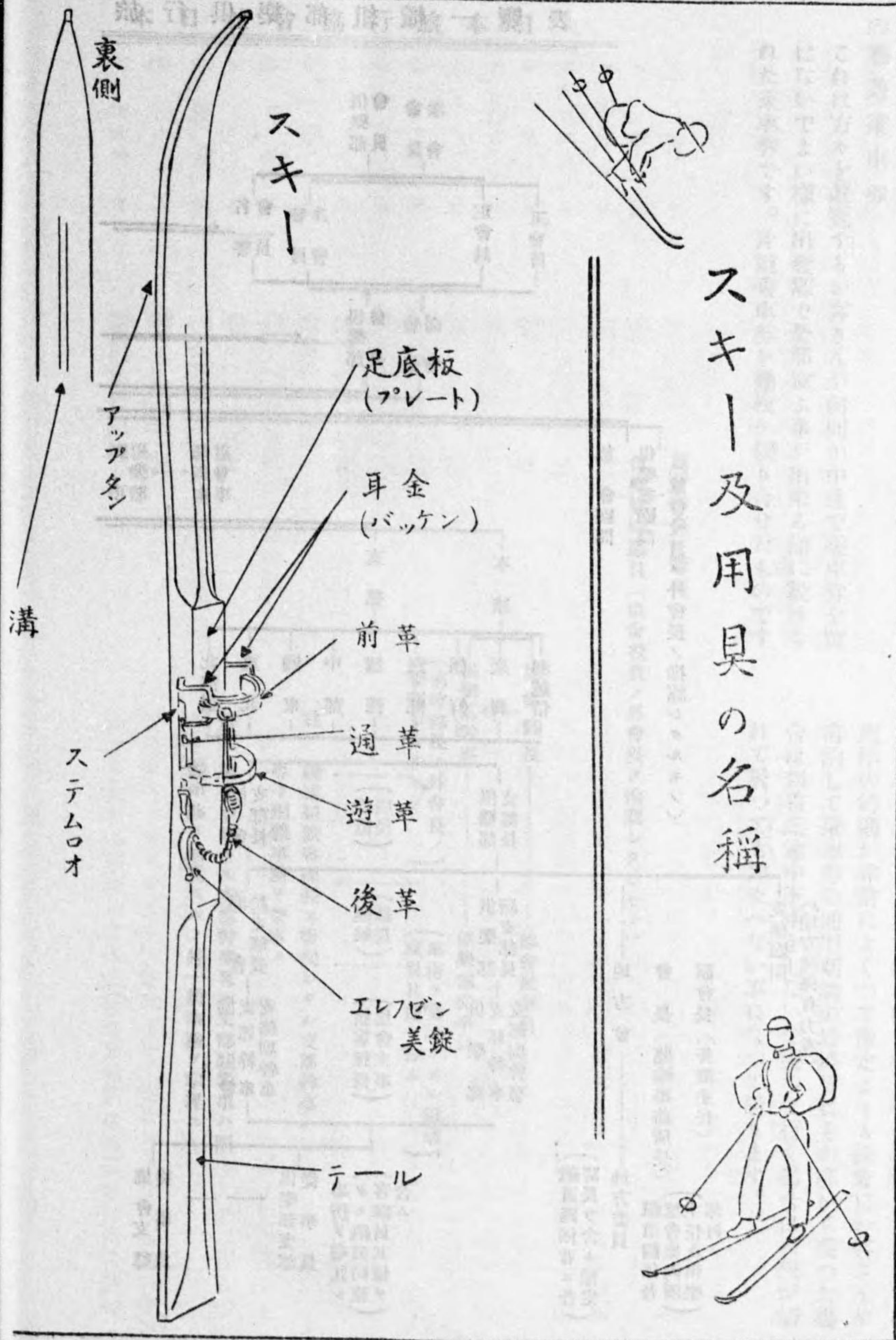
シール(アザラシノ革デスキーノ登用ニ用フルモノ)



手革
握リ

スキー杖

リンク
石突



スキー及用具の名稱



赤倉温泉 妙高温泉

に於ける禮儀作法講習要項

温泉旅館の女中、番頭等に對し接客上の諸注意

- 一、誠心
- 二、信用
- 三、清潔
- 四、客に差別なく
- 五、地理に明るく
- 六、身だしなみ
- 七、給仕の心得

作法の意義

人間の心の内に存する誠意が外部に向つて現れる形式を作法といふ。人の動作が優雅で角立たないならば自ら其人の品位を高め、純な心の誠を現はし得て眞に作法の要儀にかなふのである。然るに世の進むに従ひて作法の道は次第に衰へて只簡易様式にのみあこがれ無難作に流れ行こうとするはよろしくない。

古書に人の人たる所以は禮儀にあると、まづ容儀をよまへ、顔色をやはらげ、深く言葉を慎み、靜肅で愛情に富める態度を持つことを忘れてはならぬ。

さりながら又餘りに古へに拘泥して現在の社會生活に迂遠なるも當を得て居ない。よろしく時代の變遷に順應しなければならぬ。

作法實習

◇作法の基礎

作法として學び、且習慣づける事柄は極めて多いが其基礎となるものは姿勢、起居、進退、敬禮などの整形であるから先ず動作と體形とを整へこれを日常萬般の事に連絡應用する様に致し度い。

◇姿勢

姿勢がよく整ひ、且頭髮服なども正しく調和してゐると何となく落着きがあつて人格が高尙で奥ゆかしく見える。直立の姿勢は胸を正しく据え、頭は眞直に頸を引き、肩は本にして怒らせず、脊を曲げず、腰を後に引く心持で小腹に力を入れる。手は指先を揃へ掌を内に少し凹めて自然に兩側に垂れる。目は眞直より稍下目に普通足元から二米位前方につける。正坐の姿勢は上半身の支持は直立の時に同じく、足は右を上、左を下に揃へて少し重ねて坐し、臀部を其上に落着け下腹に

力を入れ手は軽く組合せて膝の中央に置き、眼は前方適當な所につける。

客の前では頭を少し下げ氣味にする。

◇物品の支持

物品の種類、性質または場合などによつて姿勢にも態度にも多少相違はあるが、すべて取締のある姿勢、態度を保つて鄭重に支持すべきである。

物品支持の姿勢には大體次の四種がある。

- 一、肩を水平に支持し、兩脇を圓く稍張り加減にする。上鞆等に對し物を鄭重にする時の持ち方である。なほ膳部、茶、菓子なき息のかゝるのを避けるものは目の邊に捧げて待つ(目八分といふ)
 - 二、胸の邊で支持する。脇の張り方は前に同じ。煙草盆、硯箱などの持ち方である。
 - 三、帶際で支持する。同鞆以下に對する時及び火鉢、蓄音機、植木鉢、琴などの重い物の持ち方。
 - 四、左手に抱へ胸の邊で支へる。
- 途上往來の際に於ける風呂敷包、折靴などの持ち方である。

◇起居

起坐は兩手を稍内方に向けて軽く膝の上に載せ、眼を二米位前方に向けて腰を浮かし、重ねた足の指先を爪立て、踵を

右の膝を少し前に出して立て其の足に力を入れ上體を眞直にして立ち上り左右を揃へる。

着坐は立止まつて兩足を揃へ、左足を右足の半ばほぎまで引き上體を直立の姿勢にして靜かに膝を下し、腰も同時に下し左の膝頭を疊につき、右の膝頭をつくと同時に左の膝を揃へて體を落着け正坐の姿勢をとる。

◇動作

すべて動作は温雅で澁滯が無く常に謹慎の態度を持し、どんな場合にも心を落付けあわて騒がない様にする。

室内の歩行は直立の姿勢をとり、手は自然に兩側に垂れ、眼は三、四米位先につけ、身體を上下左右に動搖させず、歩を餘り大きくせず、足音を低く踵をあげず靜に歩む、なほ敷居、疊の縁などは踏まないやうにする。通路に物品などの置てある場合には跪いて他に移すかまたは避けて通り決して上を越えない様注意する。

女子は恰も一筋の線の上を歩むやうに、男子は二筋の線の上を歩む様にする。

室外の時は室内に同じいが歩は稍大きく輕快にする。進行退行は室に上下の區別がある時は下座の足から出て上座の足を揃へて止まり、普通の場合には左足から出て右足を揃へる退く時はこれと反對にする。廻旋は右廻りの場合は右足を後斜に引き、左足を踏みかへて廻旋して右足を揃へる。左廻り

はこれと反対にする。

◇敬 禮

敬禮とは衷心に存する恭敬、親愛、遜讓の誠意を外に發表する一つの形式であるから、衷心の敬意と誠實とを本とし、これに配するの適當な形式を以てすべきである。

敬禮は時と場所とによつて立禮または坐禮を行ひ、更に地位、身分なきによつて最敬禮または普通敬禮を行ふ。

普通敬禮は更に上、中、下、尊長、同輩、下輩の三種に分れる。坐禮は先づ正坐の姿勢をとり後謹んで先方に注目し、兩手を膝の側方に下げ指先を揃へて圓く描く心持で徐々に指先を内側に向けながら膝の前に出し、上體も自然に下げ、拇指と食指とを相接近させると同時に兩腕を膝頭の兩側の疊に近づけ上體を十分に屈し頭を手の最も近くまで下げ、一息で敬禮し徐々に元の姿勢に復して先方の眼か胸に注目する。

敬禮には注目が大切である。注目のない敬禮は誠意が籠つてゐないといはれる。

人前を通る場合の禮は右手にて袴下を軽くおさえ、上體を少し前方に屈めながら進み、二米位行き過ぎて元の姿勢にかへる。

人の前はなるべく通過しない方がよいけれども強いて後に廻り狭い所を通つて人に迷惑をかけ、或は障子、壁なきに體を擦りつけて通り、或は相對する人の間を割いて過ぎるなきは

失禮であるからかような場合はむしろ前を通る方が良い。坐

した人の前を通る時は更に注意して靜に振舞ひ無遠慮を慎む

◇出入と開閉

扉、障子、襖、簾、幕なきの出入には特に物腰しとやかに禮儀正しくすべて人の居間に入る際は先づ聲をかけ、またはノックして許諾の應答を得て後に入る。突然入るのは失禮である。

茶器その他の器を持つて室を出入する時は一旦その器を下に置いて、障子、襖なきを開き次に器を取上げて出入しこれを上座に直して後障子、襖等を閉ぢる。

戸、障子、襖の開閉は最も靜肅にする。先づ開けやうとする障子、襖なきの前に斜に跪き、右開き(向つて)なら右手を引手または適當な所の棧にかけ、左手を膝に置いて(或は下に突く)少し開き、次に下から二十糎内外(五寸位)の所に左手を當て、體を十分に入れ得るだけ押開き、膝行して内に入る。次に右手で大部分を閉ぢた後左手で引手を持つて閉ぢる。左開き(向つて)これと手を反對にする。

◇各種物品の進撤

一、座 蒲 團

持ち方は折り易いものは二つ折にし、輪の方を手前にして左手で下から支へ、右手を右端に添へて持ち、折りにくいものは中央を左右の手で支へる。

出でめい／＼に配つてもよろしい。

五、お 菓 子

客前に至つて跪き下に置いて進め靜に立つて退く、お茶の進め方に同じ。

箸の着く場合は客の方に置いて出す、菓子器の蓋附の時は客前で蓋を取つて進める。

六、煙草盆、お火鉢、お茶、お菓子なきの配置

1. 茶及び菓子

茶を客の右方に菓子その左方に進める。

2. 茶、菓子及び煙草盆

煙草盆を客の右方に、茶を正面にお菓子を左方に進める

3. 茶、菓子及び火鉢

先づ火鉢を客の左方に、次に茶を正面に進め、菓子をその右方に進める。

七、書 筒

書筒を左手に載せて端に右手を添へて客の前に一米ほぎ手前に坐し、右手で宛名の字頭を自分の方に向けかへ、左の手に載せ右手を膝頭または膝脇につけ、頭を少し下げて差出す。

八、料 紙、硯 箱

料紙は折目を左にして硯箱の上に載せ兩手で持ち出で客の前に坐し、料紙を右、蓋を左に取る。次に水入れを取つて

進め方、二つ折の時兩手で持ち出で客の前に到り手を左右の縁にかけて手前の方に延ばし正面または下座の方に押し進める。

折らない時、兩手で兩端を軽く持つて正面または下座の方に押し進める。豫め敷である時は進めるだけでよい。

二、煙 草 盆

左右の手で持ち出で客前一米位手前で跪き、二膝(下上)進んで客の正面に置き、掌を上にし器物が曇目に對して曲らぬ様に注意して少し押し進める。掌を下にして手を膝に取り、二膝(上下)引き、一禮して靜に立つて退く。

煙草盆の引き方は客前一米位の所に跪き一禮して煙草盆を少し引寄せ次に進めた時の様に持ち直し、二膝退き靜に立つて退く。

三、火 鉢

進め方、退き方は煙草盆に準じてする。

主客が對座してゐる正面から進まない場合には下座の側面から客の正面に差出す。煙草盆も同じ。

四、お 茶

茶托を左手に受け右手を添へて持ち出で、客の前のほぎよい所に跪いて下に置き、兩手で正面に進め、二膝引いて一禮し靜に立つて退く。

來客の多人数の時は主賓の外は數人分のを盆に載せて持ち

硯に水を入れ墨を磨り、一本の筆に墨汁を含ませて箱の向ふ縁にかけ、右手を向ふ角、左手を手前角にかけて二回に取廻して向きをかへ両手に持つて客の右方に進める。次に料紙を取り廻して客の正面に進め、更に蓋を二回に取り廻して硯箱の右に稍ずらして置く。蓋の裏に模様がある時は仰向にして進める。

もう一つの進め方は、料紙を載せたまゝ蓋を取り右に置き硯箱を取廻して進めて後料紙、蓋と順次に取廻して進めてもよい。

墨のすり方は、軽くのの字を書くつもりに二、三回磨り、墨の水気を切つて、硯の向ふがはに掛けて置く。

九、外套、コート

外套は衿の両側を持つて左右に擴げ客の後に廻つて着せ、袖に手を入れるのを助け、後より衿を持つたまゝ着せ掛ける様にして着せる。

コートは普通男子は左手より、女子は右手から着るもので外套と同じに、コートの衿の両側を持つて左右に擴げ客の後に廻つて衿肩明のところに當て、右手にてコートの脊をおさへ、左手にてコートの前衿を持つて客の肩より前に着せ、其の手(左手)を左袖口に持ちかへて袖を通すのを助ける。

右方はこれと反對に左手にてコートの脊をさへ、右手に

て前衿及び袖口を持つて着せる。女子ならば両手にて帯の邊りを直し、腰をかどめコートの裾を引いて姿を上より下に見て後靜に立つ。

二、洋傘及び杖

傘は左手で柄の元を下から持ち、右手を中央上から持つ、この手はかたく握らずやわらく持つこと。

杖は石突を下にして傘と同じに持ち、客の前にて一禮して右手の方に向けて上體を少し屈めて渡し、靜かに左手次に右手を引く。

二、帽

帽子の向きは前を客に向け、裏を出さずに差出す。

両手にて拇指を縁の上に出して軽く持ち、前に差出して體を少し屈めて渡す。



◎春のついで、夏
◎秋の紅葉、冬はスキー

妙高高原 池ノ平温泉へ！

妙高閣

加嶋屋

樂山莊

妙高高原 池ノ平温泉へ！ 妙高閣 加嶋屋 樂山莊

風光明媚望雄大本洲第一のスキー場

春は新緑 秋は紅葉
夏は避暑 冬はスキー

海抜三千尺

妙高々原

關 温 泉

信越線關山驛下車約七軒
温泉組合直營自動車ノ便利

旅 館

初音 富山 中村 柳越 朝日 笹屋

音 山 村 前 日

屋 屋 屋 屋 屋 屋

妙高高原國際スキー場

燕 温 泉

(信越線關山驛下車)

旅 館 明 中 岩 針 朝 笹 元 樺 常 賣 大 店

治 村 戶 村 日 湯 太 盤 日 屋

館 屋 屋 屋 屋 屋 館 館 屋 館 屋

六 參 五 七 貳 壹 番 番 番 番

(電關温泉)

- 一、關山驛四方約九キロ妙高腹海拔千五百米自動車ハ驛ヨリ八キロ餘ノ燕湯坂下終點迄乗合賃銀往復九十錢
- 一、泉質 硫黄泉、温度攝氏四十五度、特效各種神經痛、胃腸病、性病、各種皮膚病疝氣、痔疾
- 一、宿泊料 一泊壹圓五拾錢以上
- 一、自炊制度アリ 設備完備
- 一、春：附近一帶ニ山筍子、ウド、ワラビ等豊富、躑躅、山櫻頗ル美觀、妙高登山ノ表口トシテ最良ノ登山口
- 一、夏：避暑地トシテノ盛夏八十度ヲ超エル事少ナシ、蚊帳ノ必要ナシ
- 一、秋：十月初旬ヨリ妙高山頂ハ紅葉ヲ始メ中旬ニハ全山紅葉シ近畿各地ヨリノ探勝者頗ル多シ
- 一、冬：從來ヨリ山岳スキーノ研究地トシテ各地ヨリ參集セルモ近年道路ノ改修ナリテ初歩者ニモ危険ヲ感ズル事ナク練習ニハ好適トナリタリ

(イロハ順)

擴き
 遊園地
 小動物珍鳥
 養魚の壯觀
 高評の温泉定食
 各種活き
 魚料理

成願寺養壽閣
 專屬バス
 長岡驛ヨリ
 毎日五回宛
 往復

外之温泉
 熱海山温泉
 (跡二十里歩自遊車)
 磐城縣車川驛下車

大成湯橋上大

自越後北魚沼郡湯之谷村
 上越線小出驛より
 徒歩三十分
 湯村

旅東
 湯

上元榮泉

屋館館館堂

村 杉 温 泉

内湯 旅館

環

翠

樓

荒木六蔵

望

錦

臺

荒木七之丞

大

谷

大

不老長壽の靈泉

風光絶佳の樂園

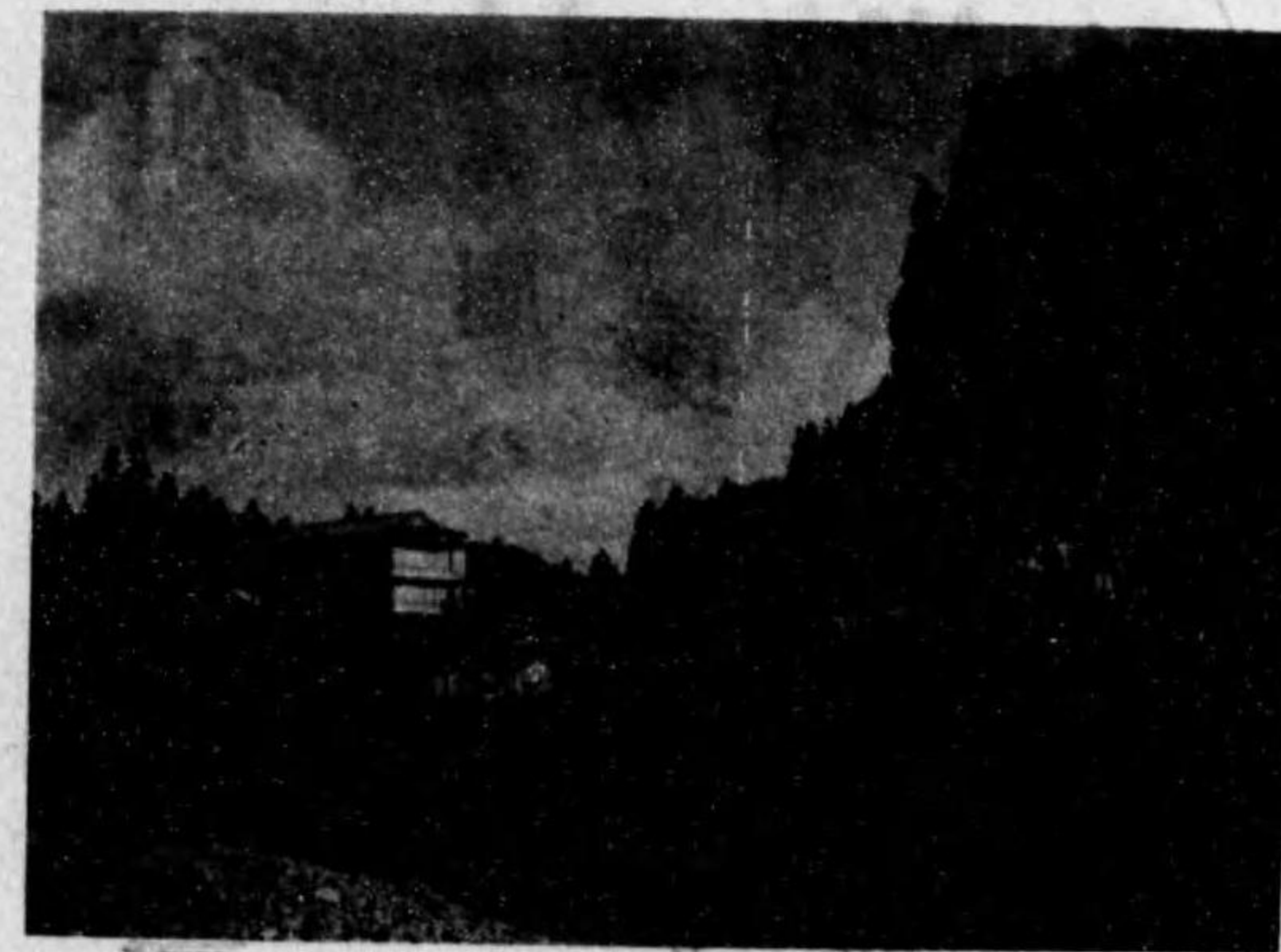
寺泊温泉

共

樂

園

電話五三番



磐越線津川驛下車
(約二十町乗合自動車アリ)
麒麟山温泉

松 仙 閣

電話二〇番

越後村杉ラヂウム温泉

庭園と山水の美
第二師團指定旅館

長

生

館

羽越線水原驛下車

自動車三十分

◎接待人の特に注意すべき事柄

- (一)(二)(三) 禮儀作法の基礎的一般心得について
接待人の特に注意すべき事柄について
客の接待について
- ◎禮儀作法の基礎的一般心得
 - (1) 座作進退の心得
 - a. 姿勢
 - b. 歩行
 - c. 着座及起座の心得
 - (2) 敬禮に關する心得
 - (3) 建具の開閉に關する心得
 - (4) 言語に關する心得
 - (5) 授受進撤の心得
 - a. 煎茶の進め方
 - b. 煙草盆の進め方
 - c. 菓子器の進め方
 - d. 果物の進め方
 - e. コーヒー紅茶の進め方
 - f. 碗箱の進め方
 - g. 膳の進め方
 - h. 座ぶとんの進め方
 - i. 洋皿の進め方

瀨波温泉 高瀨温泉

に於ける禮儀作法講習要項

- (1) 明朗なる気分にて接し決して悪感をいだかしめざることを。
 - (2) 言語、舉動などに注意すること。(鄭重な言葉たる事アナタなきは無作法)
 - (3) 容儀に注意すること。清潔にして清楚な感を與へるやう。(髪、衿もと、口中、指先、ハンカチ、足袋の清潔きちんとした着附)
 - (4) 質問に對しては明解になすこと。
 - (5) 常識として郷土史、温泉の効能、産物、土産物の種類及値段などを心得おくこと。
- 接待人にあたる女中さんは主婦の代理人、案内人、紹介人、宣傳人ともなるのでありますからその責任の大なる事を自覺し、よく禮儀作法を辨へて何時いかなる時でも立派な態度で立派な言語、動作の出来ますやう常に繰返し練習し、殊更に考へなくとも自然に圓滑に實行のできるやうにしておく事が必要であります。
- ◎客の接待について
- (1) 客を迎へるとき的心得

<p style="text-align: center;">誠</p> <p style="text-align: center;">羽越沿線水原驛下車 村杉ラヂウム温泉</p> <p style="text-align: center;">旅館 鈴木屋</p> <p style="text-align: center;">販賣部ニハ 名産ラヂウム煎餅 湯之花煎餅 其他日用品等</p> <p style="text-align: center;">電話 呼出温泉局</p> <hr/> <p style="text-align: center;">本</p> <p style="text-align: center;">春は花咲き 旅館 夏涼み 角屋 荒木潤一郎 秋の紅葉 旅 館 冬スキー 旅 館 是非村杉へ ⊕ 荒木重作</p> <p style="text-align: center;">水原驛より自動車便有り</p>	<p style="text-align: center;">位</p> <p style="text-align: center;">良くて安い旅館</p> <p style="text-align: center;">自炊本位の</p> <p style="text-align: center;">豆腐屋 荒木 猶藏 木村 喜藏</p> <p style="text-align: center;">親切で自炊本位</p> <p style="text-align: center;">石原 舍 荒木 與五兵衛</p>
---	---

- 温容温顔をもつて接客をなすこと。
第一印象をきづつけざるやう。
- (2) 座敷での接待
- a. 茶の進め方
 - b. 丹ぜんの進め方
 - c. 菓子の進め方
 - d. 火のつき方
 - e. 給仕の仕方
- (酒の場合—酒のつき方、盃のだし方)
サイダー、ビールの栓の抜き方及つき方
- f. 座談應答の心得
 - g. 衣服の手入法及疊み方
 - 洋服ブラッシュのかけ方、汚點拔法、アイロンのかけ方、靴下の洗濯、男袴のたゝみ方、ワイシャツのたゝみ方

赤倉を中心とする名香山村紹介

一、位置、境界、面積
新潟縣の西南端、信越國境、妙高山麓、
東經 一三八度—二二九度
北緯 三六度五—分三五秒

面積 東西九軒、東北六、八軒
約四〇方軒(二、五六里)

二、地勢、地質

h. 床ののべ方

- (3) 風呂場に案内の仕方
(必ず乾いたタオルを用意、石鹸なき)
最後まで悪感をいだかせぬやう。
その他湯治客に對しての心得
御洗濯、みのまわりの世話、その他萬端に對して不自由
を感じしめざるやうになすこと。
- 要するに
1. 起居動作を敏捷に
 2. 親切丁寧に
 3. 愛嬌、明朗なる氣分をもつて

横断面



三、田畑、山林、原野分布………地圖

四、氣 候
高山性氣候——變化急、晝夜の差大、大田切川の境界線

氣 温——最高 八〇度 最低 八度 年平均五〇度
雨量、降雪量——二〇七二糎(六尺二寸八分)

大雪の歴史 最近明治十八年、明治二十五年、明治二十七年、大正二年、昭和二年
積雪の理由 海上對島暖流、西北季節風、越後山脈

五、動物植物

1. 動物
- 獸——熊、兔、イタチ、栗鼠
 - 鳥——鶯、時鳥、山鳩、閑古鳥、鳩、山鳥
 - 魚——イハナ、カジカ、鯉(ヤマメ)、鱒、鮎は全滅)
 - 爬虫類——蛇類
 - 兩棲類——鱉、山椒魚、河鹿
2. 植物
- 針葉樹——アカマツ、ハヒマツ、トドマツ、ツガ、カラマツ、スギ、ヒノキ
 - 闊葉樹——シラカンバ、ハンノキ、ブナ、ナラ、クリ、クルミ、トチ、コブシ、ヤチタモ、ヤマザクラ、カヘデ、イタヤ、ウルシ、ヌルデ、ヤマナンテン
 - 常綠樹——ツバキ、シヤクナゲ
 - 高山植物——ハヒマツ、クルマユリ、ミツバワウレン、ベニバナイチゴ、シヤクナゲ、ムシトリスミレ、ミヤマリンドウ、ウメバチソウ、ユキソリソウ
 - 春——山竹(筍)、アケビ(木の芽)、ゼンマイ、ワラビ、イタドリ、ツ、ヂ
 - 夏——ユリ
 - 秋——七草(桔梗、刈萱、女郎花、クズ、藤袴、)

冬 萩、朝顔、茸類、栗、木通、紅葉
つるうめもぎき、リンドウ

六、村の起原

- 1. 太古……噴火時代と妙高山
- 2. 各大字の起原

一、赤倉——文化十二年(百二十年前)

二、二俣——不明、熊堂社建立正和元年(六百二十三年前)

三、田切——慶長四年郷戸景雄(三百三十六年前)

四、田口——不明、甲越戦百戸焼夫

五、毛祝坂——正保五年石田治郎右衛門(二百八十七年前)

六、藏々——宇治川戦後木曾重藏(七百五十一年前)

七、兼俣——不明、天和檢地四戸

八、關川——不明、承應年間高田城主(松平長光)口番所(二百八十年前)

九、其他——妙高温泉……明治四十三年
池ノ平温泉……大正五年
赤倉新温泉……昭和六年

3. 村の沿革
明治維新前、高田藩領

明治四年柏崎縣、明治六年新潟縣
明治二十二年妙高村、關川村、境村
明治三十四年名香山村

七、戸數、人口
戸數 七三一 人口 四〇二〇(増加率年八〇人)

八、住民の生業變遷
北國街道宿場と鐵道開通(明治廿二年)と發電所開
運搬業 農業 蠶業 及商業

設(四十年)及工場開設(四十二年)と溫泉増設(分湯)
電氣 工業 外來客
(四十二年と)

九、産物
農——米、大豆、小豆、蕎麥、馬鈴薯、蔬菜、繭
林——木材(杉、落葉松)、薪炭
茸類、蕨、紫蕨、竹の子
工——細工物、建具、スキー、工場(カーバイト、製練)
△土産物 白樺細工(スキー人形、懸額)、木通細工(手籠、花籠)、葛粉、蕎麥粉

十、風俗習慣
1. 人情 (粗野、親分氣質の義侠心、純情)
2. 冠婚葬祭
3. 衛生

4. 年中行事

七、交通

1. 道路 國道、縣道、里道、温泉環狀道路、ハイキングコース

2. 鐵道

3. 交通機關——自動車、馬橋

4. 電信電話

三、傳説

1. 親鸞上人の袈裟掛の松

2. 經石塚

3. 文珠菩薩

4. 見真大師(親鸞上人)旅泊の跡

5. 鎌谷内

6. 川原飯

三、温泉

1. 赤倉温泉

發見——親鸞上人の豫言、樵夫發見

開湯——文化十二年十二月高田藩主榊原政令公

位置——海拔七五〇米

妙高山頂(二四四六米)まで三里往復七時間

泉源北地獄谷まで五十八町

田口驛より一里、自動車十五分

特色

1. 分析表……弱食鹽泉等

2. 効能……省略

3. 設備……同(三三三)

4. 風光……赤倉八景
眺望……日本アルプス、日本海(佐渡)

2. 妙高温泉——單純硫化水素泉

3. 池ノ平温泉——同

4. 赤倉新温泉——赤倉と同じ

5. 燕温泉——單純硫化水素泉

6. 關温泉——食鹽含有炭酸鐵泉

古、名所

1. 山——妙高山

二重式火山、消火山

外輪山——赤倉山、神奈山、大藏山、廓山、前山

舊火口——南地獄谷、北地獄谷

火口丘——妙高山(二四四六米)

火口瀨——大田切川、郷田切川、

苗瀧、白瀧、稱名瀧、不動瀧

火打山、燒山(現活火山)

黒姫(二〇五三米)、飯綱(一九一七米)、戸隠(最高高妻

山二三五三米)、斑尾山(一五五三米)、袴岳

2. 關川と發電所
藏々、田口、關川、大谷、鳥坂、板倉、野尻
3. 野尻湖
東西三軒半、南北一軒半、最深六十尋——辨天島東魚族
4. 苗名瀧
5. 關所跡
6. 明治天皇御舊蹟

- 明治十一年北越御巡幸の際 行在所——關川、大石氏御小休所——二俣、畑山氏
7. 村内
 8. 笹ヶ峯牧場
 9. 直江津海岸、五智國分寺、春日山、高田市、善光寺
- 去、民 謠

妙高々原地帶概観

一、高原地帯の誇

1. 明治大帝の御舊蹟を有す。
2. 大正十二年關東大震災當時皇后陛下(當時久邇宮女王殿下)赤倉の細川侯御別邸に御滞在遊ばされし光榮を有す。
3. 久邇宮家の御別邸を有してゐる。
4. 左記各宮殿下御成の光榮を有してゐる。
久邇宮御一家 秩父宮殿下 高松宮殿下 朝香宮殿下 伏見宮殿下 東伏見宮殿下 山階宮殿下 北白川宮殿下 竹田宮殿下 華頂宮殿下 北白川大宮殿下
5. 國際スキー場たること。(國際觀光ホテル建設決定)

二、妙高々原の自然地理

1. 位 置
○中頸城郡の最南端、妙高火山の噴出火山灰推積土上
○海 抜——字二俣附近 五一〇米
妙高附近 五三〇米
關川校附近 五九〇米
2. 地 勢
○緯 度——北緯三六度五十分三五秒
○妙高火山群——燒、妙高、斑尾、黑姫、飯綱

1. 住 民
戸 數 七三一戸
人 口 四〇二〇人
2. 名香山村職業別戸數

三、高原地帯の文化方面

- 神奈、赤倉、前山、廓、大藏——外輪山
- 妙高山
妙高山(二四四六米)——中央火口岳
北地嶽——大田切川
南地嶽——火口瀨——小田切川
- 燒 山——活火山
黑姫、飯綱、戸隠——北信三山の稱あり
○斑尾山——關田山脈の西端なる消火山
○袴
- 河 川——關川、郷田切川(二俣川)、小田切川(畠切川)
○耕 地——田 一二九一反 畑 二四二五反
山林 九九六六反 宅地一一六九二七反
原野 四二〇九反
- 氣 候——
最高 最低 平均
最も寒き月 十二月(二〇、五) 零下一一、三 一、七
最も暖き月 八月(三二、五) 一〇、五 二二、〇

四、高原地帯の温泉

1. 妙高 温泉
明治四三年——赤倉分湯株式會社、田口驛より七町、現今泉源——南地嶽谷、海拔五百六十米。
2. 赤倉 温泉
親鸞上人妙高に靈泉あるを里人に告ぐ、文化十二年十二月

- 農 業 四二九戸
商 業 一三〇戸
庶 業 三六戸
勞 働 七五戸
工 業 八戸

3. 教育及社會事業
○普通教育
妙高校——十一學級 生徒約五百人 明治五年創設
關川校——六學級 生徒約三百人
- 社會教育
關川青年學校 男女計五〇人
妙川青年學校 男女計九〇人
名香山村教育會 會長 宮下耕治
女子青年會 會長 島田英子
愛 育 館 中野財團 縣の社會事業

高田藩主榊原高顯實地踏査、字一本木新田に浴舎を設け、驛より一里二十七町、海拔七百四十六米、二千五百尺

- 3. 新赤倉温泉 海拔五九〇米
- 4. 池ノ平温泉

驛より二十六町、海拔八〇〇米、妙高温泉水地株式會社の經營。

- 5. 燕 温 泉 驛より約七料、三時間行程、赤倉へノツアー、神奈登山等山スキー地。
- 6. 關 温 泉

五、高原地帯の工業

- 1. 水力發電所 藏々、大谷、關川、田口、杉野澤、高澤、赤川等
- 2. 會場工場 旭製線工場(エナメル線、絹巻線、絶縁線)
- 3. 田口工場

六、名勝、史蹟、傳説

- 1. 關川關所址——中山八宿
- 2. 明治天皇行在所址 明治十一年九月十日(大石新六郎宅)時に 陛下寶算御二十七才
- 3. 明治天皇御野立所址
- 4. 加賀、高田兩本陣跡
- 5. 加賀本陣——現戸主大石猛氏の宅
- 6. 高田本陣——豊田多三郎氏の生家
- 7. 天神社の老杉 周リ二丈八尺五寸、高サ十五間、樹齡千年
- 8. 親鸞上人袈裟懸ノ松
- 9. 土御門帝の頃、五智の光源寺に謫居の時戸隱往來の途中憩はれしところ。(六百數十年を経)
- 10. 同聖人の經石塚
- 11. 關川校入口左(海邊よりもち來りし石に名號を記入せられた石を埋む) 加賀屋重兵衛の話
- 12. 野 尻 湖
- 13. 魚 族——ワカサギ、鯉、鮒、ウナギ、ハヤ、シジミ
- 14. 遊 覽——ボート、ヨット

- 1. 利 用——發電所、かんがへ
- 2. 苗 名 瀧
- 3. 一 茶 の 墓 柏原にあり小學校の南公園の所にある。一茶堂もあり。
- 4. 國 際 觀 光 ホ テ ル 海拔千二百米、田切萱場
- 5. 寶 藏 院 山頂彌陀堂の別當、六月廿三日開扉
- 6. 傳 説
- 7. 川 原 飯
- 8. 熊 坂 長 範
- 9. 鬼 小 島 彌 太 郎

七、スキー場、ツアコース

- 1. ス キ ー 場
- イ、殿下スロープ
- ロ、大天井スロープ
- ハ、一本松スキー場……池ノ平
- ニ、馬場スキー場
- ホ、中ノ澤スロープ
- ヘ、萱場スロープ……池ノ平(大谷ヒツテ、萱場ヒツテ)

- 1. 山神スロープ……觀光ホテル
- 2. 銀座スロープ……赤倉
- 3. 笹ヶ峰スキー場……松ノ澤、京大ヒツテ
- 4. ツアコース
- 5. 田 口……飯山
- 6. 田 口……笹ヶ峰
- 7. 妙 高 温 泉……笹ヶ峰……乙見峠……小谷……大町
- 8. 妙 高 温 泉……大谷ヒツテ……妙高山頂……大倉山…… 神奈山……燕



南魚沼郡の沿革の大要

人類の棲息は石器時代から、八海山麓其の他から石鏃、石斧が現はれてゐる。
人皇の世になつては垂仁天皇の第八皇子が農業を教へ給ふとあり。

餘川の古墳は故坪井理學博士の鑑定によれば奈良朝以前のものである。

奈良朝、平安朝時代にありて延喜式利名帳に魚沼五社の名あり。

行基、空海の名僧巡錫の處なりといふも證するものなし。

高倉天皇の安光二年（今から七六〇年前）十月湯澤村戸内山（堀切）が崩れて魚野川をせき止め、赤坂以南は池となつた神立寶珠庵裏の白石がはつきりと見えた。それから湯澤神立土樽を石白郷とも言つたといふ。それが一時に崩れて流れ魚野川の流れが全く變つたといふ。今でも大きな石が畑の中ころがつてゐる。

鎌倉時代に上田の名あり。

平氏隆盛なりし頃、城資長國守となり勢ありしが義仲に破られて義仲の領となりしことあり。

建久四年（今から七四〇年前）源頼朝富士野に狩する時本郡より人夫を徵集せりと。

吉野朝時代には新田氏地頭として魚沼の地に一族多く住む義貞の鎌倉に攻め入る時魚沼は其の後援の地たり。

建武中興の頃、義貞越後の守護職となり一族多く魚沼の地にあり。されき義貞戦死の後は足利氏の世となり上杉憲顯守護職となりて新田の一族漸次じさる。

1. 室町時代、戰國時代

上杉憲顯基氏管領の時入りて執事となり、長尾景仲代官として來る。

坂戸城は長尾景治の居城なりしともいふ。

魚沼は上杉謙信に關係深く謙信の兵を用ふる時三國、清水の山險を越えたいと土樽村谷後に入る所に謙信手植の松といふものあり。

2. 徳川時代に入りて徳川の直領となり、又松平の預るところとなる。後百年間も會津松平肥後の守の預るところなる。依つて郡民の會津様と稱し尊信すること深かりしなり

南魚沼郡の名所、舊跡

一、寺 院

- 1. 關 興 寺——臨濟宗

二、城 址

- 1. 荒 戸 城 址 三四〇年前

所在不明、上杉景勝、景虎と家督を争ふ。北條氏政の援軍を防ぐ爲樋口主水に命じて築城せしむと。

- 2. 秋 葉 城 一一八〇年前

天平年中防人在住の地、養和年中より一族居城（七五〇年前）建武年中（六〇〇年前）より新田氏一族の居城となる。

文明年中（四五〇年前）長尾伊賀守國守上杉に反き此の城に據りしも討ち平げられ落城せり。

- 3. 樺澤城坂戸城等有名なり。

三、古 戦 場

◇三國 峠

謙信死して四方の英雄越後をねらう。

瀧川一益の將儀太夫大兵を率ゐて三國峠を越え越後に入らんとす、志水の城主長尾伊賀守之を三國峠に破る。慶應四年三月會津藩の將町野源之助兵を率ゐて三國峠による官軍の將岩村精一郎大雨に乘じ之を攻め大いに破る

四、古 墳、古 碑

- 1. 余川の古墳は千數百年前のもの。

- 2. 藪神、名木澤の古墳

- 3. 六日町坂戸の百塚中島、木六、大卷、五日町、鹽澤の古墳

足利義持時代（今から五三〇年前）僧覺翁の創設、師の白崖が第一世、長尾房景の歸依厚かりしと七堂伽藍多く建てられ、佐渡、越中、越後、信州、能登に迄末寺あり其の數三〇〇にも及べり、上杉國替の時より衰ふ。又災火にかゝる。今より二六〇年前米澤より僧の源を迎へて關興庵を再興す。雲洞庵とならび稱せらる。

2. 雪 洞 庵 曹洞宗

村上の耕雲寺の末寺が南蒲瀧谷の慈光寺にて、慈光寺の末寺が雲洞庵なり。應永年間（今から五二〇年前）上杉憲貫雲洞寺の廢趾を開きて開基となる。

永享元年村上耕雲寺の僧顯窓を請じて開山とす。配下八十ヶ寺に及ぶ。今の本堂は二二〇年以前の建設にて大堂伽藍多かりしを明治五年之を整理して今日に及ぶ。

3. 浦佐毘沙門堂

平城天皇大同二年（今から一一三〇年前）坂上田村麿勅を奉じて建立せりと傳ふ。特別保護建造物となる（大正六年八月）炎上して今再建中。本尊は印度より傳はりしものと。

4. 伊米ヶ崎開山堂

西福寺にあり、曹洞宗高祖承陽及び當寺開山、芳室祖春を祀る。當寺二三世幡谷大龍これを建立す。今より八〇年前彫刻の美を以て知らる。堂は五間四方

- 4. 長尾政景の墓 六日町坂戸にあり。
- 5. 宇佐美定満の墓 雲洞庵にあり。
- 6. 上杉顯定の墓 城内村下原新田にあり。

五、名所

- 1. 大峰の百番觀音
- 2. 清津谿谷の紅葉
- 3. 八色ヶ原、浦佐、大崎、東、伊米ヶ崎四ヶ村に渡りつゝ、西瓜の名高し。

南魚沼郡の温泉、鑛泉

1. 湯澤 温泉

湯澤西山の麓、第四紀古層の地より湧出、斷層地帯發見不明、昔より此の邊を湯山郷と稱したるより其年代の古きを知る。昭和六年以後のもの數ヶ所あり。
繁榮を見たるは昭和以來のこと。(今より百六七十年前) 中風、痔疾等によるし。

2. 貝掛 温泉

湯澤川と清津川との出合ふ所にあり、鹽類泉三七度位。

二三〇年以前より入湯したるものゝ如し。
眼病、神経病、腦充血等に効あり。

3. 赤湯 温泉

其の色赤きにより赤湯といふ。發見不明、

- 4. 胃病、肺病、心臟病、神経病、癩病、梅毒等に効ありと。
- 4. 上野の鑛泉 硫黄泉、痲瘋質斯、皮膚病に効あり。
- 5. 其の他關の添田、吉里等に冷泉あり。六日町君歸りは其名相當現はる。

湯澤の名所及狀勢概況

1. 大峰の百番觀音

寶珠庵中村無外氏の盡力によりて建てらる。大橋氏の願望と湯澤神立村民の奉仕的力により昭和九年完成せり。

2. 不動 瀧

高さ三丈餘の瀧あり、夏に秋に遊ぶによし。

3. 秋葉山頂の眺

東電堰堤の眺と魚野川の鮎釣り。

4. 東電發電所

發電所の完成は大正十一年十一月で、工費七〇〇萬圓である。

發電能力は一四、〇〇〇キロワットつまり二萬馬力である。

主として東京に送電し一部鐵道及湯澤村に諸給してゐる

鐵管の長さ七七〇、四七米、落差三一五、六一米

三俣からの隧道の長さが六七二八、二三米



2. 貝掛温泉

勝澤川と清津川との出合ふ所にあり、鹽類泉三七度位。

二三〇年以前より入湯したるものゝ如し。

3. 赤湯温泉

眼病、神経病、腦充血等に効あり。

其の色赤きにより赤湯といふ。發見不明、

ある。

○發電能力は一四、〇〇〇キロワットつまり二萬馬力である。

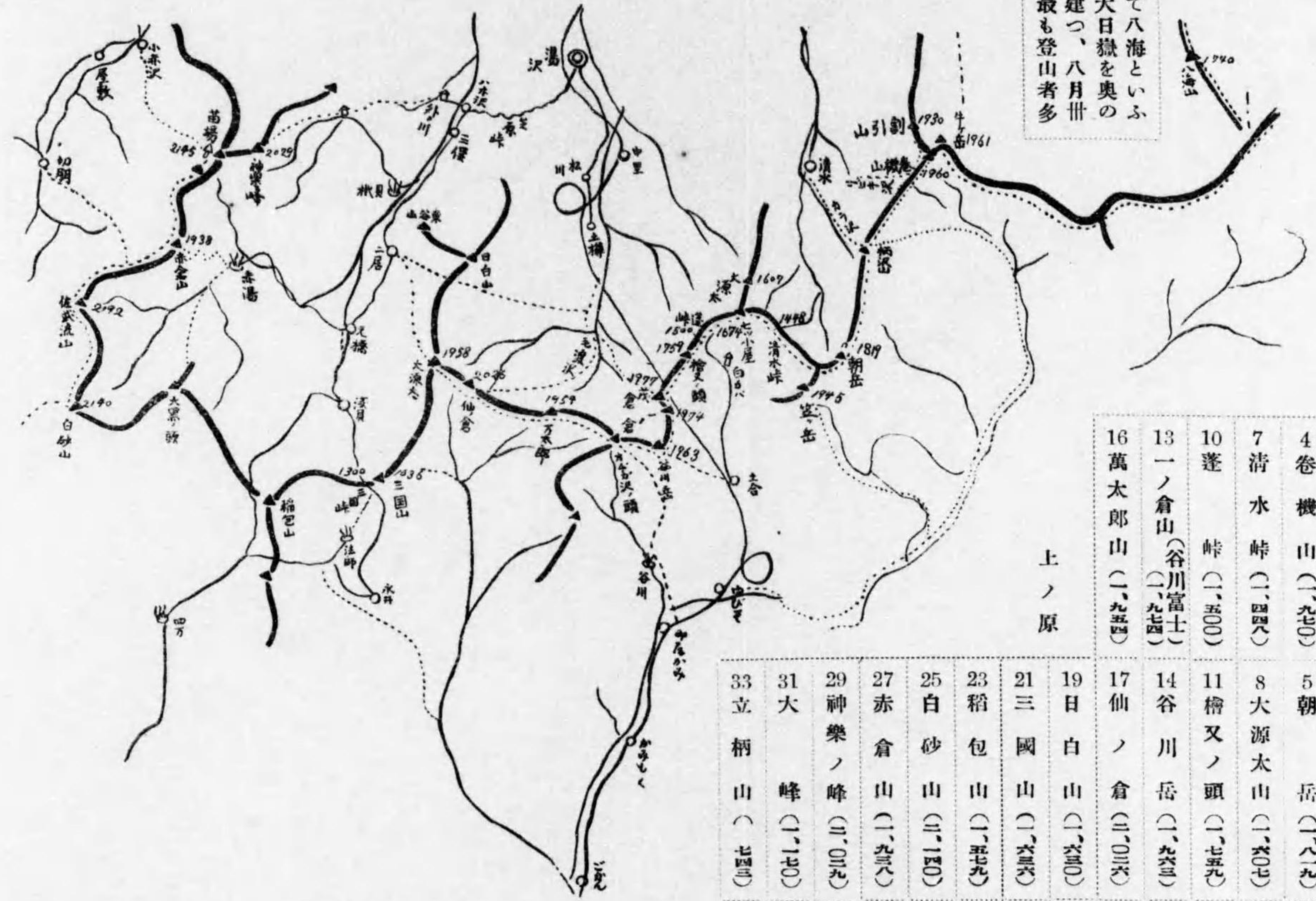
○主として東京に送電し一部鐵道及湯澤村に諸給してゐる。

○鐵管の長さ七七〇、四七米、落差三一五、六一米

○三俣からの隧道の長さが六七二八、二三米

上越國境附近畧圖

八海山は木曾の御嶽と共に古くから靈山として知られてゐる山頂に八湖あるを以て八海といふ頂峰險阻である、大日嶽を奥の院とする八消神社建つ、八月卅一日より九月一日最も登山者多し八海より中ノ嶽駒ヶ嶽を巡る八海の登山には東村大倉口、大崎口、城内口の三つあり、大崎口最も平坦上り下り十時間位



1 八海山 (二、七四〇)	2 牛ヶ岳 (一、六三三)	3 割引山 (一、九三三)
4 卷機山 (二、九七〇)	5 朝岳 (一、八八九)	6 笠ヶ岳 (一、九四五)
7 清水峠 (二、四四〇)	8 大源太山 (二、六〇七)	9 七ツ小屋山 (一、六四四)
10 蓬峠 (一、五〇〇)	11 檜又ノ頭 (一、七五九)	12 茂倉岳 (一、九七七)
13 一ノ倉山 (谷川富士) (二、九七四)	14 谷川岳 (一、九六三)	15 オジカ (越後富士) 深の頭 (二、八七)
16 萬太郎山 (一、九五四)	17 仙ノ倉 (三、〇三六)	18 大源太 (一、九六)
	19 日白山 (二、三〇〇)	20 東谷山 (一、五五四)
	21 三國山 (二、六三六)	22 三國峠 (一、三〇〇)
	23 稲包山 (一、七九九)	24 大黒ノ頭 (三、〇八)
	25 白砂山 (二、一四〇)	26 佐武流山 (二、九三)
	27 赤倉山 (二、九三八)	28 苗場山 (三、四四五)
	29 神樂ノ峰 (三、三三九)	30 高津倉山 (一、八一)
	31 大峰 (一、二七〇)	32 飯士山 (一、二二三)
	33 立柄山 (七四三)	

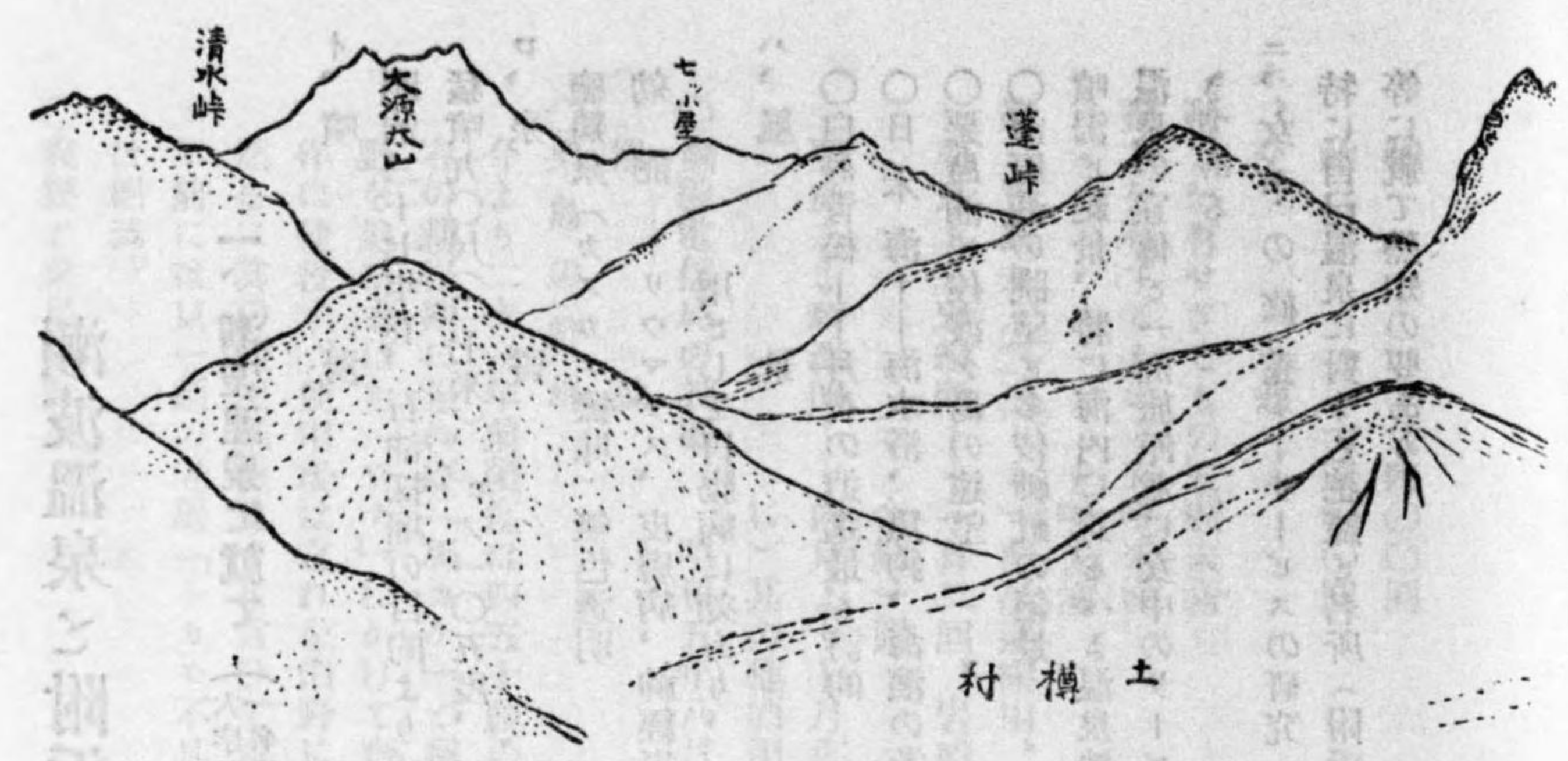
上ノ原



1. 白板山 (一、五〇〇)
2. 東谷山 (一、五五〇)
3. 正面山 (九五〇)
4. 秋葉山 (五〇〇)
5. 茂倉山 (一、九七〇)
6. 蓬 峠 (一、五〇〇)
7. セツ小屋山 (一、六〇〇)
8. 大源太山 (一、六〇〇)
9. 清水峠 (一、四〇〇)

上田の清水からワリビキ澤を登つて巻城山、割引山、牛ヶ岳に行かれる。又同じ清水からカラ澤を登つて柄澤山に出てそれから尾根傳ひにも行かれる。牛ヶ岳は牛の背のやうになつて居り、頂上の方は藪もなく巻機の頂上と共に高原をなして苗場を思はせる。汽車で下る時、右手に高く直ぐ目につく山だ。巻機から尾根傳ひに笠ヶ岳を左に見て行くとき清水峠に出る。三國峠と共に昔からの街道だ。しかし今は廢道となつた。それでも信電の送電線の通ることによつて又世に出るかも知れない。大源太山は大源太川の上流にある。湯澤からは眞白になつてよく見える山だ。大源太山から尾根傳ひに七ツ小屋山に出て向尾根傳ひに蓬峠に出る。蓬峠へ出るには土樽のトンネル口から右の方蓬澤を登れば道がある。こゝからは白樺のヒュツテに近い。又昔の清水街道に出て土合湯槍曾に出る。蓬峠は中里から三里蓬峠から向尾根傳ひに行けば有名な茂倉に出る。湯澤からは土樽の足拍子山にかくれて少しより見えない、今でも雪で眞白だからよくわかる。茂倉へ登るには土樽の茂倉谷を登ることが出来る。しかし道はよくない。茂倉から向尾根傳ひに行けば一ノ倉(谷

川富士)又谷川岳に出られる。谷川岳へは谷川温泉の方から登るよい道がある。又土合へも下られる。萬太郎山は毛度澤を登つて達する、毛度澤には法政のヒュツテ、尙其の外にも小屋があるから都合がよい。仙ノ倉は萬太郎から尾根傳ひにも来られるし、同じ毛度澤を登つて右の方へ行き仙ノ倉に達する。茂倉は又大源太の方から行かれる山だ、大源太は土樽ののと同名だ、しかし之れは二居の大源太山の方である。大源太に登るには二居からが一番よい。二居から五時間登られる。仙ノ倉へは又一時間、大源太から尾根傳ひに三國山にも出られるさうだが藪で道がわるい。冬山ならよいかも知れない。上越國境でも清水峠と三國峠との間にはさまれた茂倉、一ノ倉、谷川、萬太郎、仙ノ倉、大源太、三國の山々が一番秀出した山容であると言はれる。三國山を下ると三國峠となる。三國峠から少し登れば三國山だ。三國山が上越國境の山々をながめるのに一番よいところではあるまいか。三國峠には権現様がある。昔から色々な話に出て来る所だ。古戦場でもある。し三國峠から上州口へは道が二本である。し



かし大體法師温泉に出るやうだ。峠からは法師は目の下に見える。法師の長壽館は有名だ。法師から四萬の温泉に出るよい道がある。法師とごかん驛迄は自動車の便がある。湯澤から法師迄八里餘一日に樂だ、三國峠を越後の方へ下れば淺貝に出る。二居や三侯と共に三宿の名がある。淺貝と二居の間に元橋といふところがある。元橋から西に入れば赤湯をへて苗場に登られる。つまり苗場の一つの登山口である。赤湯は清津川の上流、赤倉山の東の麓にある。元橋からは四時間、湯澤からは夏の道一日である。発見は不明だが早くから人に知られたらしい。湯の色が赤いので赤湯と云ふ。胃腸病、肺病、心臓病、神経病、癩病、梅毒等に効果がある。特に胃病に有名だ。湯澤から朝出て赤湯に一泊し、それから赤倉山に登り苗場に出て湯澤に歸られる。苗場は靈山として登山者が多い。一番登り易い道は三侯村の大島から登る道である。こゝから登つて下るのなら女子供でも樂である。若い者は湯澤から一日に登つて歸つて来る。三侯から三里半、六時間あれば登られる。湯澤から三侯迄は自動車の便があるから樂である。大島で登口三〇〇米登り切ると外の川に下る。手のしびれるやうな清水の湧く稻荷清水から少し登ると慈惠のヒュツテがある。立派な宿泊所である。下の芝中の芝上をぬけて神樂ノ峠に

出る。こゝと苗場との間の鞍部がお花畑である。お花畑を過ぎると少し急の登りではあるが直ぐ頂上に達するのだ。頂上には遊仙閣が建てられてゐて七月から九月頃迄は番人がゐる。三〇〇人位宿泊される。清水理學士の調査によれば苗場は第四紀の始めに噴出し、有史以前に消滅したものだといふ。白根火山脈に屬し頂上は一大原を現出し、小さな水たまり池が田のやうにならんでゐてミヤマキが稲のやうに生えてゐる。其の他虫とりすみれや、もうせんごけのやうな高山植物がなかくある。眺望はよく淺間の煙が手にとるやうに見える。飯士山は一名上田富士ともいふ。こゝからの眺めは何とも言へない程よろしい。下れば岩ノ原、北に下れば姥島原だ。苗場と共に夏山にもよく殊に積雪の時スキーによろしい。大峰は湯澤で二番目の山だ。百番観音で名高い。一番高いのが高津倉だ。高津倉の下が有名な清津の谿谷である。名勝地として指定されることになるかも知れない。紅葉は最も有名である。



瀬波温泉と附近の名所舊蹟に就て

一、瀬波温泉に就て (大字松山に在るを以て一名松山温泉とも稱す)

イ、噴湯

明治三十七年春、石油探掘の目的より。

猛噴九〇尺(二七米)、のノ一〇五度、一三〇間の深度

口、泉質

鹽類泉(カスカニ鹽味)無色透明

効能—リウマチス、皮膚病、神経痛、脊髄病等特に飯

用として胃腸病に効あり。

ハ、風景

○白砂青松—月夜の逍遙最も詩的

○日本海—海水浴、魚釣、海濱の遊び

○粟島浦と佐渡ヶ島の遠望

○海府浦の眺望と多伎神社の絶景

噴湯と絶景、將に海内に誇るべき温泉地。

温泉の宣傳と一面旅館並に女中のサービス研究に努力すべきである。

ニ、女中の修養—サービスの研究

特に自己温泉に對する認識と名所(附近の)舊蹟並に物産等に就て熟知の要あり。

ホ、其の他

二、附近の名所、舊蹟に就て

1. 粟島 浦(瀬波海岸より海上十九哩八)

イ、面積 約〇、六方里(九、五平方里)

口、戸數 一一七戸(人口八〇二人)

ハ、字別 内 浦(尋常小學校三學級あり)

外 浦(一名釜谷)(分教場あり)

ニ、生業

(イ) 農業及水産業

半農、半魚(農業は水産業の餘暇に)

(ロ) 主要移出品(昭和八年度)

鮮魚介類 二八、〇〇〇圓 主に新潟港へ

竹類 二、九〇〇圓 // 岩船港へ

乾貝類 二、五〇〇圓 // 新潟港へ

(ハ) 主要移入品

米 一一、八〇〇圓 主に岩船港より

木炭 二、九〇〇圓 // 岩船港より

(ニ) 主要漁獲物

鯛 二五、四〇〇圓

鮪 二、五〇〇圓

ホ、交通

動力を有せざるもの五噸未満 一七〇隻

動力を有するもの五噸未満 三隻

十噸未満 二隻

第三粟島丸(二三トン) 商品運搬用、村有船

粟島—岩船間—一日二回、岩船より約三時間、賃金約一圓

粟島—新潟間—四月より七月迄(主に鯛魚の季節に) 其の他酒田、加茂へも

○無線電信局の設置 昭和五年八月

ヘ、傳説

○粟島の野馬

今より二十三年前頃迄は四五十頭の程の野馬あり。

春の耕作期に至れば「馬カケ」と稱して多數の島民山野を追ひまはし「ワナ」にかけて野馬を捕へて之を耕作に使役す。使用後は之れを山野に放牧す。

然るに其の後田畑を荒すと云ひて賣却せる結果二、三年前には只一頭の老馬「シカモ不具」残り居れども今は絶滅。

○義經と粟島の野馬

源義經奥洲へ逃避の際北陸道を通過せしことあり。對岸の馬下迄來りしが絶壁の爲乗馬にて進む能はざりしに依り、馬を乗り放ちて之れより徒歩にて進む。馬主人の後を慕ひて海に入りしが終に粟島に達せりと、粟島の野馬は即ち之が子孫なりと。野馬—純日本種—野性の馬、畫家等に珍重せられたるもの。

ト、準天然記念物

粟島の西海岸に高さ五〇米程の「立島」と稱する一大巨岩あり。巖上に青鷲、五位鷲、「アミ鳥」鷓等群棲す。

2. 多伎神社

○當社は三面川の河口港灣の右岸に在り。式内社なり。此の地上海府村に屬するも當社は瀬波町とは關係頗る深し。

○祭 神…湍津姫

俗に觀潮閣と稱す。

口 碑

觀潮閣の名

義經奥洲落ちの途次、辨慶が觀潮閣の三字を板に書し之れを扁額になせるより此の名ありと。

扁額は安政四年の火災に燒失せる爲存せざれども、現在故吉田伊太郎(神主)氏の所藏になれる。扁額の寫と

稱せるものは「弘道」の二字にして一字七寸四方位なりと、何れか信なるか確ならず。

風景絶佳

○多伎神社には、磯濱を亘りて至るあり、或は遊覧船の便をかりるあり、特に夏季此所に涼を求むる者多く往來繁し。

○神社の側に瀧あり「不動の瀧」又は「瀧不動」の名あり、往昔祈願をこむる者此の瀧にうたれて精進せりと靈驗ありと言ひ傳へらる。

3. 笹川流

村上驛より北方十二哩

村上—間島—越後早川—桑川(汽車にて約二五分間)

○海府浦名勝の地

桑川、寒川間約三里に亘る一帯の地。

特に板貝—笹川(一里の間)

○男性的の景

奇岩怪石、數百の島嶼、氣澄み、水清く、波靜かにして島嶼の間、舟にて遊ぶ。絶景筆舌に盡し難し。

○探 勝…陸よりは探り得ず。

頼三樹三郎—海府浦遊記に

『松島に此の美麗あれども此の奇抜なし』

雄鹿に此の奇抜あれども此の美麗なし』

○天然記念物保存指定地—昭和二年内務大臣より

○一日の快遊

舟にて、水泳、貝取、小砂の美、旅館の設備等々

4. 三面川

郡下唯一の大河、水清く、水量多し。

水源—羽越國境、朝日山麓、全長十五里

○鮭と三面川

秋より冬にかけて、古老の言に依れば冬季鮭魚、遡上の季節には滿川悉く爲に變ぜし程なりしと。現今漁獲量甚だ少し。

○漁業權

村上藩主世々之を領有せり。明治の時代に至り漁業權に色々變遷を見たり。明治四十三年、舊村上藩士族六九五名より慣行による専用漁業の免許を得、今日に至る。

○經營

鮭産育養所(明治十五年四月設立)の組織。

△天然繁殖を保護—種川…二ヶ所、

△公賣漁區—種川以外の區域

○收益の支途

△鮭産育養所費

△治水費

△教育費

たる巨匠有機周齋氏の靈腕。

7. 縣社、岩船神社(太古饒速日命を祀る)

○明神山と岩船の柵趾

蝦夷に備へし柵歴史的に餘りにも有名、前門を不寢ヶ關後門乙(柵ノ戸)を控へ、最初は信越の其の後は越佐の民之れを守れりと。之岩船神社鎮座の地明神山に在りしと。

8. 松山八町、瀬波街道、道の兩側に老松百餘株、風光真に絶佳

昔時村上藩公の大名行列の本街道たり。

昨今年々或は枯れ、或は倒れつゝあるは誠に遺憾に堪へず。

9. 螺峰山

一名下渡山とも稱す。

「下渡や羽下ヶ淵田舎と思ふな村上五萬石眼の下だ」の俚謡の如近郷一帶の眺望に富む。

三面川の清流に影を投ずる景得も言はれず。

10. 御幕場

岩船町と鹽谷の中間、十數町に亘る松林、風致優雅の松、白砂特に美し。昔時藩公幕を張りて景を賞せし所故に此名あり。

6. 縣社藤本神社(藩公内藤公の祖を祀る)

○建築—全部樺材、精巧と堅牢、彫刻は村上町の生

5. 臥牛山

寛永十年(家光時代)堀丹後守直寄(十萬石)の築城。

明治元年戊申の役に自ら火を放ちて建物全焼。

臥牛山の名、老松、石垣舊態嚴たり。

○遊覽所

大正二年四月櫻樹二五〇〇本植付く。

山頂に秋葉神社、舞鶴城趾の碑あり。

春の花、夏の緑、秋の紅葉特に櫻花の時節滿山に人に充つ。

三、物産に就て

1. 堆朱、堆黒

建築界と彫刻界との關係。

建築は彫刻を生む、彫刻は髹漆を呼ぶ。

口碑に依れば、昔より村上は技術精巧なる工匠に富めり

と。「村上大工」の讚辭を博し居れり。

名匠の輩出は寺院の建築の盛なりしに依るらし。

文政(二四八〇年頃)江戸に玉緒象谷と稱する人あり。堆

朱揚成氏と號す。村上藩士江戸詰なる頼宮次郎兵衛なる者

玉緒象谷に就て堆朱、堆黒の技を學べり。

○村上漆器(本堆朱、堆黒)總稱なり

○堆朱、堆黒

底に朱を塗りて上に黒漆を塗りかけて朱の所迄刻を詰め

たるを堆朱と云ひ、其の黒漆なるを堆黒といふ。

堆朱、堆黒は其の製作に長年月を要すると工費、不廉な

るとに依り迅速且つ多數の需用を充たすに足らざる等の

不便の點より彫刻髹漆の模造品を製作するに至る。

藩士側は最初一種の道樂として、町民側は家業傍之れを

爲せり。明治以後は追々需用増加と販路擴張とに伴ひ專

業者の増加を見るに至る。

○品名と價格

安價粗悪なる支那産漆液は村上産漆器には使用せず。

村上漆器には品質頗る優良なる漆液を使用するを以て堅

牢優秀なる點に於て定評あり。

○漆樹と漆液

大いに關係を有す。内藤公は大いに漆樹の栽培を奨励せ

り。明治以後漸次衰頽、原因は支那産漆の輸入に由る。

之に由り栽培は收支相償はざるに至る。

其の結果栽培法の粗放、樹液の亂搾により枯死せしむ。

2. 山邊里織

村上藩主信敦公の産業奨励、特に桑の栽培、養蠶の奨励を

なす。(城下近き山邊里村附近に盛に桑を植付けしむ)

小田氏によりて山邊里織を創業せしめ、百六〇年後の今日

益々其の聲價を高からしむるに至る。

袴地、帶地、裏地等

販路——東京、京都、大阪、名古屋、神戸、横濱、北

海道、新領土、縣下各地

3. 茶業

元和年間(二二七五年頃)村上町大年寄役徳光屋覺左衛門

(村上地方産業開發者として屈指の功勞者)によりて斯業の

革新的發達を見る。(維新前既に宇治茶の製法等を傳習せ

り)特に覆下による玉露、新茶の香等は誠にみわく的な

り。

4. 其他

竹人形(村上産)、茶の子餅(村上産)、温泉煎餅等

栃木縣方面温泉視察報告

新潟縣温泉協會囑託

田淵

清一

昭和十年十二月十日、栃木縣方面温泉視察に出發する日であるのに前夜からの雪空は相變らずドンヨリと曇つてゐて何んもなく淋しい気分がする。午前十時二十八分新潟驛を出發あまり早くもないが集合の都合上之れも止むを得ない。

汽車は雪で淡化粧した平野の上を心持良く走つてゐる。窓外には何時しか阿賀野川が流れ桐の多い畑が現はれる。乗り込んで来た人々の言葉に會津に出た事を知る。山都驛の附近に來てやつと日光を拜する事が出来た、郡山で乗換へて黒磯驛に着したのは午後五時五十五分小さい割に立派な停車場だと感心してゐると乗合自動車の方から催促された、各旅館の提灯をさげた番頭さんが大勢やつて來たが何れも手前共へ御願すると云ふ者がない、旅館は御決りで御座いますかと訊く自動車の手掌も訊く、一等旅館と聞いてゐたので小松屋へ行

くんだと答へると小松屋の番頭が來て本店へ電話を掛けると云つて去る、同乗の一人の紳士は何處とも定めずにあると清水屋の番頭が飛び乗つて手前共のパンフレットを御參考迄に差上ますと云ふ、何處迄も御客にするつもりだろう。之れが所謂拔駈の功名と云ふものかも知れない。

バスは何時しか黒磯の町を離れて坦々砥の如き林間の廣道を真直ぐに走る、師走の空は珍らしくも澄み月は皓々と照り私達の旅行を慰ぐさめる様だ。
下野平野の真正中に偉容を示す那須火山の裾野こそは一望際涯なき大那須野ヶ原である。那須野ヶ原は温泉郷として有名であるのは云ふ迄も無いが、往古には那須野與市の如き武將を出し、近世に於ては乃木將軍に愛好せらるゝ等武人に縁故のある地であり、又歴史が古いだけに多くの傳説を有し鎌

倉右大臣實朝公の名歌

ものゝふの矢なみつくろうこての上に
霞たばしる那須の篠原
や、俳聖芭蕉の

夜もすがら秋風聞くやうらの山
飛ぶものは雲ばかりなり石の上

等の名吟なき夫れから夫れへと思ひ出される。
湯本温泉は那須十一湯中最も殷賑な處で一小市街を爲し、
外燈其の他諸般の設備も良く整つて居る、十二戸の旅館中
は別館を有するものが相當の數に上る、土産物を賣る店等も
旅館の間に點在するが乾物、青物等を賣る店の軒先に雉、山
鳥、兎等が下げられてゐるのを見るときかにも山中の温泉場
へ來たと云ふ感じがする。

自動車は小松屋旅館の前で止る、運轉手が柄に似合はない
優しい聲を出して小松屋さんで御座いますと云ふ。番頭が出
て來て別館の方へと云ふ良いお客と見たらしい。

小松屋は那須湯本温泉第一流の旅館で別館が二個所にあり
四層樓の堂々たるものである。

番頭の案内に依り通された座敷は三階の表側八疊二間、特
に良い座敷でもないが廻り縁が氣分よく、月光を浴びる那須
野が如何にも美麗に眺めらるゝ、黒磯から電話で知らせた爲
でもあらうが炬燵、手焙り、長火鉢にカッカと火がおきてゐ

十二月十一日早朝に目を覺ますと何んだかシミ／＼する、
其の筈だ那須としては本年第二回目の大雪だと云ふ、一晚の
内によくも降つたり一尺に近い、今日は奥那須温泉視察の豫
定日であるのに何んぞ運の悪い事かと心配なので宿の者に訊
くととても奥へは行けまいと云ふ。夫れは大變だ雪に綴じ込
められては役目が果せないと勇を鼓して出發することに一決
午前九時番頭に送られて宿を出る、自動車に乗るときは緩つ
くり休んでお茶でも飲んで私の内から御乗り下さい。名勝、
舊蹟を御廻りになるなら之れをお持ち下さい等御世辭を云ひ
つゝ案内書を呉れた。

先づ那須全體の状況を知らんと温泉組合の事務所を訪問、
専任の事務員に刺を通じると心良く會つて呉れた、蓋茶を御
馳走になりつゝ、爐端で色々の事を訊く。

那須湯本温泉の經營方針は療養客吸收本意であるから設備
萬端其の様に出來てゐる。

浴客も賄客よりも御伺ひ式言ひ換へれば旅館の方で四、五
品の御菜を作つて置いて客の好みに應じて出す方法のものが
最も多い。全那須温泉十九戸の旅館の浴客數は一ヶ年十二、
三萬であるが一人平均十日間と云ふから如何に療養、保養の
客が多いかが判る。浴客は東京の人が六分、あとは茨木、群
馬、福島、埼玉の順序と成つてゐる。

夏期には一日三千人にも達するが、スキーは宇都宮方面の

る、寢巻を持つて番頭がやつて來て御湯へ御案内申上ますと
云ふ、女中がお茶を入れる、着換へを濟ましていはれる儘に
宿帳をつけ番頭に案内されて長い廊下を傳つてお湯に行く、
番頭は中々氣が利いてゐるが泉質、其他色々の話を爲しつゝ湯
加減を見て呉れる、一般浴場は改築中であつたから家族風呂
に入る、泉質が遊離硫酸を含む硫黄泉あるからとても身體に
しみる、浴槽にはタイル、コンクリート等は用ひられず一般
浴槽は木、家族風呂は石である、浴場も白木造りで御粗末な
のは泉質の爲であらう。石鹼も効かず白粉も駄目、よく／＼
治療本位に出來てゐる温泉である。之れが總てに影響して温
泉場全體が療養本位に成つてゐる。

家族風呂の隣りには温泉熱を利用して普通の水を沸かした
白湯と稱する浴場がある。石鹼でも使用する時には之れに入
浴する、便所はタイル張りであるが舊式である。

何んぞなく落付いた旅館で總てが緩つたりとしてゐるが設
備に於て垢抜けしないのを遺憾とする。

女中の服装は良いが文化コートを着てゐるので感じが悪い
名勝、舊蹟や、伊豆の伊東温泉へ慰安を兼ねた見學に行つ
た話を聞きつゝ、食事を爲す。

夜具を次の間に敷いてから女中が御休みなさいませと挨拶
に來た。夜具は銘仙であり、枕覆ひ、敷布等も清潔で寢心持
もよく第一日の勞を醫した。

人々計りだから一日三百人位のものだと云ふ。

湯本には温泉組合がある。之れは元湯が縣有地より湧出す
る爲其の借用名儀人で組合員は旅館業者のみでなく雜貨屋
甚敷は労働者等も混じてゐる、組合員たるの權利は絶対に賣
買を許さないで斯る奇現象を呈する様になつたので現在は
組合員は名儀計りで出資もしない、替りに配當等もなく別に
那須温泉旅館組合が出來てゐて之れが大いに活動してゐる。
組合の一ヶ年の豫算は大體六千圓で各旅館から徴收してゐ
る。徴收方法は役員會で營業振りに應じて分擔額を定め浴客
の多い五、六、七、八、九の五ヶ月に分納せしめてゐる。

支出の主なるものは道路建設借入金、利子貳千圓、共同浴場
修繕費一ヶ所五百圓宛四ヶ所で貳千圓、疏湯木管の修繕費五
百圓借入金返濟壹千圓、温泉湧出地借用の爲縣へ納入する百
參拾圓等で大體設備の改良費に支出してゐる。

各旅館から納入する費用には湯錢等も含まれてゐるから引
湯料は徴收しないが、組合費の未拂者には温泉の供給を中止
する。元湯は一ヶ所であるが所謂利權屋の入込むのを恐れ少
しても湯の氣のある處は全部組合の借入地と成つて居り統制
がよく取れてゐる。浴槽税は一坪拾五圓である。

宣傳には那須温泉振興會が鐵道方面と共力して當つてゐる
振興會は昭和九年に創立したもので旅館であると否とを問は

す荷しくも那須に居住し温泉に依り利益を受ける者が會員と爲つて居り、現在會員数は百五十人以上に達し毎年壹圓宛の會費を支拂ひ躰躑、スキー等四季折々の機會を捕へてボスター、パンフレット等に依り大いに宣傳に努めてゐるが宣傳費の大部分は旅館側で分擔する。宿泊料は大體次の如くである。

普通壹圓五拾錢より貳圓五拾錢迄、特別四圓より六圓迄、自炊普通座敷料參拾錢以上五拾錢迄、特等座敷料五拾錢以上壹圓五拾錢迄（蒲團持參のものは座敷料三割増、四歳以上十歳以下半額）蒲團貸料一組貳拾五錢、中參拾五錢、上五拾錢以上、特上壹圓貳拾錢以上、浴衣一枚五錢、寢巻一枚拾五錢以上、上寢巻一枚參拾錢迄、電燈料八錢、湯錢八錢、以上一晝夜の料金（但し諸道具は無料）米、味噌、薪炭、日用品は時價。

中食料五拾錢、八拾錢、壹圓貳拾錢、壹圓五拾錢

茶代は廢止してゐない。

衛生的施設としては水道があり、建設に四千圓も掛け常時二人の工夫を置く、塵芥焼却場がある。

醫療機關、醫師も藥劑師も開業してゐる。

交通機關は東北本線黒磯驛から四里九町の間に關東、那須の兩自動車會社があり、バス乗車賃片道壹圓、往復壹圓八拾錢（スキーヤーは往復壹圓）貸切五圓、冬期と雖も青年團員等の奉仕もあり自動車の止まることはない。

那須は良いとこ来て見りや地獄痛い辛いで苦勞する等の唄と共に湯揉みの音がゴトン／＼と聞へる。此の元湯に於ける浴客の休み部屋が又一奇觀である。浴客が彼方の隅に一團、此方の詰に一團車座に成つて骨牌を取るやら碁や將棋に夢中になつてゐるなき稚氣満々の亭樂園である。夫れで而て此處の浴客は殆んど全部が病人であるのだが。

共同浴場では設備が思つたより悪いのと、ヘンツブレタ様な家が附近にあつて淋病、梅毒に効能ありと稱する藥草を賣る邊り如何にも穢ない感じがした。

新那須温泉の山樂旅館から長靴を借りて奥那須各温泉の視察に向ふ。湯本温泉を離れると雪道には人の歩んだ形跡もない。櫛、白樺、落葉松等の林を切り開いた道を段々上る、雪は次第に深くなり道は抄取らない、心臓は高鳴り汗計り出る、ヤットの思ひで十三町を上りオダシ山御野立所に達する。茶臼嶽、南月山、三本鎗の諸山を背後に關東平野を一望に眺め得る景色の良さに疲れを忘れ、更に難路を進む程に何時しか空は曇り雪さへ降り出す、辨天温泉に著いた頃は猛烈な降雪である。湯本温泉から一里の道を二時間以上も費やしてゐる。辨天温泉は那須嶽の中腹海拔三千九百尺の高處にあり、明治十八年に辨財天の靈夢に依り拓ける温泉で苦土川の溪間にある。此の湯は仕上の湯と稱へて湯本温泉の湯爛を治す處として知られてゐる。先づ避暑療養本位の温泉と云へやう。

名勝舊蹟には九毛の狐で有名な殺生石を始め食初庵、珠數割石、温泉神社、湖月園、東公園、紅葉瀧、駒が瀧等があり約二里で噴火口に達することが出来る。

土産物には湯花、木地物、漆器、籠細工、三色餅等がある團體の誘致にも振興會が主として働いてゐる。

娛樂機關としては活動常設館あり、公園には池、大弓場、物見臺、ブランコ等又室内遊戯にはピンポン、玉突等其の他魚釣場、温泉プール、湯瀧等もあり、目下盛んにゴルフ場を造つてゐるな客を退屈せしめない様に努めてゐる。尙夏期浴客の多い場合には各旅館で藝人を招んで浪花節、義太夫等の會を開く。

料理屋は十軒あるが藝妓は七、八、九の三ヶ月御用邸に高貴の方の御避暑中を除いた月に僅かに六、七人位居るのみであるが、酌婦は三月より十一月頃迄五十人位は居る。土曜日には藝妓、酌婦共他所より入り込み其の數を増す様である。

温泉組合の事務所別れを告げて雪道を温泉神社に詣で殺生石を見て賽の河原を下り共同湯を視察する。何れも木造の極めて貧弱なものである。浴槽は三個に區別され真中が被り湯、兩端が入り湯、穴倉の様な處に廻りを石垣として浴槽は木である。此の泉源へ行くのを元湯通ひと呼んで卓効を稱せられる。此處は草津と同じく時間湯の特色を持つてゐる調子も草津の夫れと同じく。

旅館は一軒であるが湯はとても豊富で湧出口が十四五ヶもあり、旅館の周圍は宛ら小さい湯谷に成つてゐる。

旅館の設備も良く室數は四十もあり、二百人位の收容力を有し、内湯の外に家族風呂もある。浴場の構造は屋後の岩窟内に御祭りする辨財天にふさはしく佛閣に見る様な建て方で茶褐色のペンキ塗りであり、四間に三間位の大きさで浴槽には石を用ひてゐる。

本館は洋館まがへ三階建であるが團體等の入込んだ時に便利な様に室と室との中間の壁は取りはずしの出来る様に成つてゐる。如斯にすれば障子の仕切を嫌やがる御客にも又旅館側にも都合であらう。晝食の時御給仕に出た女中が白のエプロンを掛け頸巻をしてゐたのは氣分が悪るかつたが宿を出るとき大勢の元氣の良い聲に送られたのは氣分が良かった。女中は夏には五人、冬には四人居る。

娛樂設備としてはラヂオ、ピンポン、テニスコート、ブランコの外に散歩道路、運動場、温泉プール等がある。其他此處でも浪花節や、義太夫の會等を費用一切旅館持ちで時々開催してゐる。

浴客はやはり東京と其の附近の人が多く、御伺式のもの六分、賄が四分の割合で自炊客は五、六月頃にあるのみである團體客は段々増してゐる。湯本からオダシ山迄約十三町の間は雪のない時には貸切自動車の便があるが、後の約二十町

は強力や牛の背に依つて物資を運ぶ状況であるに拘はらず五馬力三キロの自家発電機を用ひてゐるから電燈、電話には少しの不自由もない。

宿泊料、中食料等は次の様である。

一二泊の場合一泊二食貳圓より四圓迄。

療養滞在の場合宿賄、伺式共三食壹圓五拾錢より參圓五拾錢迄自炊の場合は五拾錢より壹圓五拾錢位但し食費を加算せず。遊覽客で晝食を取らないものは席料及入浴料として貳拾五錢、晝食八拾錢より貳圓迄。

夏期になると藝妓が湯本から上つてゐることもある。

宣傳には矢張りパンフレット、ハガキ等を使用してゐるが他温泉との協同宣傳もやつてゐる。

スキーは四、五年此の方やり出したのでスキー倶楽部の出来たのはつひ二、三年前である。

湯本温泉には支店が在つて何時も自家用電話で案内の手配をしてゐる。

辨天温泉から雪の中を更に進むこと六丁餘笹川の溪谷海拔四千尺の地に至ると大丸温泉に達する。萱葺屋根の旅館が只一戸ではあるが川の湯で有名な温泉である。閑寂幽邃の氣分が御氣に召したと見へて乃木將軍が度々入湯に來られたと云ふことである。

ともすればうれたき人の多かるに

心して鳴け山ほととぎす

希典

旅館の前を流るゝ溪川は既に高温であるので湯の川と稱せらる。湯灌のある自然の野天風呂で之れが川の湯である。

旅館には電話はあるが燈火にはランプを使用してゐる。

内湯の外に貸切湯も設備されて居り何れも白木造りで浴槽はコンクリートであるが冬圍ひの爲水滴が落ちて著物の脱ぎ場もない有様である。

スキー客を招ぶつもりであらう入口にはストーブを焚き、坊主邊りの疊を敷いた室には大きな炬燵が待機してゐた。

室数は此處も四十計り室の押入れを横に仕切り、下に箆筥と戸棚を嵌込んでゐるのを見て異様に感じたが自炊客や滞在客には便利であらう。

宿泊料は一泊二食の場合一泊二食貳圓より參圓五拾錢迄。伺式一日三食壹圓五拾錢以上、自炊一日五拾錢以上、

那須の御用邸へは此處から御引湯されてゐると拜承す。

八幡温泉は屋島の戦に扇の射を射て武名を天下に轟かした那須野興市宗遠が八幡大菩薩を勸請して靈泉に身心を淨め、武運長久を祈願した處で高原にあり、眺望雄大を以て稱せられる。躑躅の時はさぞかし見事であらう。

旅館は一戸、室数は三十、収容力は八十人位である。

浴場は二ヶ所にあり浴槽はコンクリート、便所はタイル張

りて普通魚釣場や、ピンポン、テニスコート等の娛樂機關もあるが設備は十分とは云へない、炬燵の設備もないやうである。女中は一人しか居ない、絹物は著てゐるが食堂前掛姿で出て來る。客用の丹前は瓦斯物であつた。

宿泊料は一泊並等壹圓五拾錢、中等貳圓、上等參圓、特等四圓、伺式一日三食並等壹圓五拾錢、中等貳圓、上等貳圓五拾錢、自炊一日食費の外並等六拾錢、中等八拾錢、上等壹圓一日三食定食並等壹圓、上等壹圓五拾錢、貸切座敷料一日並等壹圓五拾錢、中等壹圓八拾錢、上等貳圓拾錢、但し何れも六疊の間、夜具料蒲團大小二枚組中等參拾錢、上等四拾錢、寢巻料浴衣付中等拾五錢、上等貳拾錢。

降りしきる雪の中を東公園に出て公園の設備を見る。

新那須温泉、山樂に著したのは午後四時半頃、既に室々には明りが付いてゐた。大勢の番頭や帳場のもに出迎へられて座敷に通る。

山樂は那須温泉中第一の旅館である丈にサービス振りも良く訓練されてゐる。廣い立關の敷臺には絨氈を敷きつき當つた處には賣店があり、室の数も七十有餘、木造二階建ではあるが實に堂々たるものである。使用人の数は夏は女中二十五人、番頭五人、冬は女中五人、番頭二人外に常時帳場が二人居る、東京の人の經營である。

庭園の如きは土地が廣いから公園と云つた方が適當な位で

眺望がとても良い、私達の通された室は十疊二間で炬燵もあり、紫檀の机、硯箱料紙、紙屑籠も置かれ、竹製の書類籠の中には電報用紙、案内書、用箋、封筒、繪葉書等も整へてある。長火鉢は次の間にあつて御湯は適當に沸いてゐる。

女中は時々用を聞きに來て御茶を入れて行く、朝の如きは眠りの邪魔をせまいとの心遣りからか足もとの方から靜かに室に入り火を入れて行つた。

床は番頭が敷いて呉れた、丹前は勿論絹物、寢具は一番下の敷蒲團がモスリンであつた外、炬燵蒲團に至る迄絹物である。殊に白布を大きく敷は勿論著蒲團も衿のみでなく、ボタン掛けにして全部に掛けたのは清潔で心持が良かった。

調理場等も設備よく、便所は水洗式ではないが清潔各窓には金網を張つてゐる。

以上の如く總てに設備がよいのであるが、温泉場の生命とも云ふべき浴場及洗面所には餘り金を掛けてゐない。内湯十個(内八ヶは貸切湯)は總て白木造りで浴槽も木造、然かも眞鍮のカランで湯を導いたり、脱衣棚にミダレ籠がないなどはさう考へても不思議である。湯本温泉の様に泉質の爲に止むなく木造にしなければならぬと云ふものでもないのに、貸切場は一度借りると其の人の名札を下げて絶対に他の人を入れられない、之れも一つの趣向であらう。

宿泊料は一泊(二食)參圓、四圓、五圓、六圓、七圓

中食料壹圓五拾錢、貳圓、貳圓五拾錢、參圓

滞在の場合、室料一室一日壹圓より六圓迄(但し次の間付)寢具一夜分參拾錢より壹圓五拾錢迄、丹前一日分貳拾錢、浴衣一日分六錢、料理一品拾五錢より五、六拾錢位、女中は御酒の御酌もし食後には必ず番茶を入れる。

十二月十二日午前九時頃番頭、帳場、女中等に送られて山樂の立關先からバスで出發一尺餘もあつた雪が黒磯近くに来ると殆きない、九時二十八分の列車で西那須野驛に向ふ。

西那須野驛の構内には鹽原温泉の案内所があつて組合の専任事務員と各旅館の番頭が詰めてゐる。バス發車時刻迄の間を利用して大山元帥の御墓に御参りする。

西那須野の驛には温泉旅館の看板等も見當らず温泉場の下車驛としての感じが無い。

十一時西那須野の町を出發、關谷迄の間約三里の道は一直線の眞に良い道路である。關谷よりは坂道となる、紅葉谷、白羽坂、臺石等の名勝を過ぎて回願橋に至る。回願橋は現代式コンクリート橋何んとなし勝景鹽原としては不釣合の様な氣がする。猿岩、九回の瀧等一つ一つ親切に表示してゐる、曲りくねつた坂道をバスは上る、愈々大網温泉に著く。

大網の温泉は斷崖數十丈の箒川溪谷の岩間から湧出し、其處に石間の湯、河原の湯の二つの浴槽が設けられてゐる。旅館は一戸、大網館と云ふ其の構へは如何にも田舎じみて

ゐる此處が音に聞く鹽原温泉の一つかと奇異に感ずる程鄙びた處である。老婆が一人大きな包を背負つて下車した、全くの湯治本位の温泉であると見受けられた。

大網の湯を過ぐれば根本山、魚止瀧、稚兒ヶ淵、左靱の險は去りて白雲洞は明かに現はる、寒凄瀧、風舉瀧、布瀧、材木岩等を眺め龍ヶ鼻を過ぎると川向には三筋松があり、南にビヤガ澤、鳥居戸の奇勝を望むに漸く福渡戸温泉に入る。此の邊は龍化瀧、錦帶岩等の勝景もあり、箒川溪谷中最も奇勝に富む處である。

鹽釜温泉(旅館一戸)を素通りして門前温泉迄行き役場内に鹽原温泉組合の事務所を訪ふ。専任書記に種々訊したる後當日組合總會の開催せらるゝ妙雲寺に於て組合長に會見した鹽原温泉組合は統制十分でなく更正の爲の總會であると稱してゐた。

鹽原は十一湯に分れてゐるが旅館の總数は四十一戸、内洋間を有するもの三戸、温泉湧出箇所は五十ヶ所以上に亘る。

鹽原温泉組合は事務所を町役場に置き四千三百四拾圓の豫算があつて月給四拾五圓の事務員二人を置いて事業を遂行してゐる。

組合費の各自分擔額は理事會で定む。

温泉の湧出口は那須温泉の如く一ヶ所ではなく極めて豊富な爲統一に困難なる様に見受けられた。

大正二年には鹽原地内の鍍泉地各自使用權を縣に返納し改めて鹽原温泉組合に於て使用することの許可を受け統一を計りしも其後に發見掘鑿せられたるものに就ては手の付け様なく前のものと權衡が取れず困難を極めてゐる。現在では縣の方でも掘鑿は許可せざる方針の如し。

組合費には未納もあるが湯の統一が出来ない爲湯止其他の有効な制裁を加へることが出来ず困つてゐる。宣傳費には壹千五百圓を支出し主として春、夏、秋、冬にパンフレット、リーフレット等に依る宣傳をやつてゐるが、鐵道、會社等の訪問特に鐵道局當りへは各期節の終りには御禮の爲訪問してゐる。多人數の團體等の時には組合で一手に引受け各旅館に割當る。

交通機關たる關東バスは七百、八百の團體でも一手に迅速に運ぶ事が出来る。一ヶ年間の總客數は約十五萬、宣傳費は旅館のみでなく自動車會社でも約半額を負擔してゐる。鐵道、バス等の割引額もかなり多く東京より六圓參拾貳錢(往復)掛る處を四圓貳拾錢位迄割引する。

鐵道の客は貳圓、參圓の二種であるが、寢具は半絹以上でなくてはならず疊二疊に一人の割合ではあり、献立表の監督も受け殊に優待券を有する人にはどんなに混雜の時でも斷はることが出来ない云ふことになつてゐるから随分勉強して

ゐるのだが現在では尙安く泊らうと鐵道主催の團體たることを隠し交渉する人が増して來たと云ふことである。

浴客は紅葉、新緑の時が最も多く一日に三千二、三百人も入り込む。スキー時には客が少ないので往復の自動車賃を一圓に値下してスキー客誘致に一生懸命である。

茶代廢止は昭和七年一月から實施されてゐる。共同浴場は二十一ヶ所あるが何れも木造で其の構造も悪い主として部落民の入浴に供するのみだからであろう。湯錢は徴收せず全部持ちちで破損すれば各字で修理する。

天然の景勝地であるから人工的な公園の如きものは殆きない。浴客は紅葉時、夏期には東京方面の人が八割を占めてゐるが新緑の候には關西方面の人々が多く全浴客數の四割にも達する。自炊客の如きは春農閑期に少々ある位のもので大部分が賄客であるが、七月下旬より九月上旬迄は何式に依る人も相當にある。

湯は各々の温泉場に湧出してゐるが福渡戸温泉だけは鹽釜温泉から八町の間を木管及ヒューム管で疏湯してゐる。

泉源は何れも川水の入らぬ程度にコンクリートを以て保護を加へてある。

飲料水は福渡戸に簡易水道がある外殆んそ全部が清水を引いて居り、塵芥は各自が畑に使用してゐるから衛生上の設備は那須に劣つてゐる。

料理屋は三十軒、カフェーは十軒あつて藝妓は冬期を除いては四百人位も居り、尙紅葉時の如きは太田原方面からさし／＼来る様子である。

酌婦の数は六、七十人位で漸次減少し藝者が増加する傾向にある。藝者の線香料は二時間、遊興税共参園九拾六錢、一時間貳圓、時間増一時間壹圓五拾錢、半玉二時間貳圓で二時間の間は絶対に他の座敷に行かない仕組に成つてゐるので忙がしい時には藝妓の遺練りに困ると云ふ。酌婦は二時間貳圓七拾錢である。

醫療機關としては醫師が二人、藥劑師が一人、齒科醫師が二人(内一人は出張)ゐる。

娛樂機關はピンボン、玉突、テニスコート、ブランコ位のものであるが、常ヶ崎遊園地と稱するものがあつて子供の爲に飛行機(玩具)木馬等も備へられ、其他温泉プールもある共同浴場は湧出地が低い爲皆川淵にある。

福渡戸温泉の満壽屋旅館は客室の數三十位の旅館であるが紅葉時の如きは二百人位も收容する爲内湯は家風呂呂共で十一もある。何れも浴槽は白タイル張りで洗場は薄茶と緑のタイルで張られてゐるが錢湯で見ると浴槽の淵が高いので氣分が良くない、浴室の入口近くには體重計が設備されてゐる洗面所はタイル張りで清潔であり、便所は水洗式ではないが下の方がタイル張りで廣く清潔であり、あき、使用中の札

が出る。

客室は如何にも舊式で二月十二日の月明りで書いたと云ふ火災豫防の紙切れが方々に貼つてある。長火鉢、机、碁盤と設備はされてゐるが燻がなく、置炬燵であつたのは私共の習慣上非常に寒い感じがした。

御茶菓子には羊羹四切、座蒲團は表は絹であるが裏は紅モスリンであつた。

寢具は瓦斯の敷三枚、著蒲團二枚の外足の方に一枚、夜著と足蒲團は半絹、著蒲團は表絹布、裏モスリン、枕には紙を當てる。炬燵蒲團は極めて粗末であつた。

サービス振は大したこともない。室、御湯、便所の案内から宿帳、寢具の取扱迄番頭である。

女中は何んもなく垢抜けしない、服装も良くない、足袋も穢ない、話振りも田舎じみてゐたのは一寸以外の感じがした之れは満壽屋が地味であることを誇りとしてゐるからであらうが第一流の旅館としては如何にも不釣合の様に思はれる女中は無給だと聞いた、客の多い時は兎も角少ない時には氣の毒な様にも考へられる。

十二月十三日、かなりの降雪である。寒さも厳しい、早々に女主人と番頭が丁寧に挨拶に来る。今日は鹽原温泉郷一帯の視察日である。

先づ鹽釜温泉や金色夜叉の清琴樓で名高い畑下戸温泉(旅

館數六戸)を見て門前温泉(旅館數六戸)を通り、古町温泉(旅館數七戸)に至りて千人風呂のある米屋旅館を訪れる。主人が出てよく案内して呉れた。風呂の構造を見ても又娛樂室から便所に至る迄自然木や造花で裝飾されてゐるのを見ても如何にも派手である。家も新しい、女中の姿等も感じがよい、満壽屋邊りとは經營の方針が大分違ふ様だ、設備萬端良く行届いてゐる。

此處を出て約四、五町距離の養魚場を見る。大小數個の池には數萬の鱒が大きに依つて別けられ如何にも楽しさうに遊泳してゐる。刺を通じると丁寧に説明して呉れた、孵化場ではボーフリの様な孵化した計りの鱒が箱の中で蛹を食してゐた。之れ等は山中の温泉には大いに真似てよいものだと思ふ四、五寸の鱒は鮎の如く鹽焼にすれば良いし、大きなものは刺身にでも煮魚にでも何んにでも出来る。新潟縣内の山中の温泉場の様に何時も／＼鯉計りでは飽きもするから、養魚場は未だ始めてから十年位と云ふが相當の成績を上げてゐる。

道に戻つて須卷の温泉に行く。

須卷温泉は喜十六山の半腹にあり、六流の湯瀧が懸つてゐるのが此處の呼び物で、客舎は須卷旅館一戸、三層樓三棟で眺望極めてよし、此の家に名物の團子があり客來れば芽を削りたる串に刺して供す。鹽原温泉中での脱浴境である。

萬人風呂に出て鹽湯に行かうとしたが雪が深く道がなくて行かれないので止むなく鹽釜に出て鹽湯温泉に向ふ。道中至る所に名勝野地湯谷のビラがある。日光に於ては華嚴の瀧、鹽原にては野地湯谷と記せるが如し。之れを見落しては大變と雪を蹴つて進む、帯川の支流鹿股川の景色を眺めつゝ紅葉の岡に小憩、更に進んで目的地に達す。

野地の湯谷は良い景色ではあるが如何にも雄大性に乏しい鹽ノ湯温泉は四面重層層嶺の中に座し、旅館數は三戸であるが何れも鹽原温泉第一流である。湯守として創業以來七百餘年最古の歴史を有すと稱せられる太古館、明賀屋を視察する。

明賀屋は木造とコンクリートタイル張等の和洋折衷建五層樓にて眺望良く、各室次の間付で隣室とは壁仕切數十室あり閑院宮殿下の御書寬猛相濟の額を掲げた室もある。

娛樂行樂施設としては運動場、ラヂオ、子供の遊道具、テニスコート、林間道遙道、ピンボン、寫眞暗室、圖書、演藝場や貸切別荘等もある。便所は水洗式であるし、浴場は内湯貸切湯共タイル張りである。

岩ノ湯と云ふのは百餘段の階段を降つて川岸に下る處にある岩洞の中に湧出岩石天然の浴槽である。

別館太古館は昭和七年に建てた三層樓ライト式洋館で設備は次の間附日本室と洋室二間、六十餘疊の會合室及舞臺付百

五十疊の大廣間がある。高級旅館ではあるが春先に來る農家の人達の爲に數室の自炊室が設けられてゐる。

茶代は勿論廢止であるが御祝儀等に就ても各地旅館のサービス料制度の弊害等を考慮し客の隨意になしてゐる旅籠の外伺制度もあり、クーポンにも加入尙東京市に出張所を設けてある。

源三窟、高尾の墓、七ツ岩、野立岩、天狗岩、三島縣令の碑等を見て再び福渡戸に戻り温泉神社に參拜して鹽原温泉郷の視察を終る。

午後三時福渡戸温泉満壽屋を出發、西那須野驛にて乗車、矢板で下野電鐵に、新高徳で東武線に乗り換へて鬼怒川温泉に向ふ。連絡が悪くて矢板や新高徳では多くの時を費す。

東武線の電車内には寫眞と標語を入れたる鬼怒川温泉ホテル、山水閣、大瀧館及川治温泉ホテルの廣告が掲げられてゐる。午後七時頃漸く鬼怒川温泉驛に著す、各旅館の番頭が提灯を下げて一列に並んでゐる。旅館は之れだけしかありません、警察の公認で御出迎に上つてゐるのですから等色々の事を云はれるので一寸困つた。實は電車の内で豫めホテルへ行く事に決めてゐたのであるが、どうも湯元と稱する麻屋旅館に宿泊と變更する。風は寒いが如何にも良い天氣で雪なんか何處に降つてゐるかと思つた有様である。驛の前には御清遊歓迎鬼怒川温泉料藝組合と書いたアーチがあり、大瀧館、

鬼怒川館等の立看板も目立つ、くろがね橋を渡りホテルの前を過ぎると土産物を賣る店で眞に賑かである。今迄視察した温泉とは一寸變つた灯の街である。

麻屋旅館は鬼怒川温泉最古の旅館の一つであるが最近の改築で新しく眞に氣持がよい。多勢の番頭と女中に出迎へられて八疊に四疊の次の間附の室に案内される。

室の数は八十以上もあると云ふ舞臺附大廣間等もあり、便所は水洗式である。洗面所は銅板張りの綺麗なもので齒磨、歯ブラシ等が設備されてゐる。

部屋には籐椅子があり、長火鉢、紫檀の机、置炬燵、鏡臺、紙屑籠、手拭掛、ミダレ箱等が置いてある。炬燵蒲團は人絹物であつたがサツパリしてゐた。寢具、寢巻は勿論絹物殊に清潔で心持がよい。

浴場は家族風呂共六ヶ所あるが、大浴場はシャワーもあり窓が大きい爲外の景色も眺められて明るく、石、タイルも美麗しい浴槽は随圓形である。湯は少しく温い。風呂番が流して呉れる。

娛樂場としては社交室もあり、ラヂオ、麻雀、玉突、ピンポン等も設備され賣店も設けられてゐる。

女中の服装等も良くサービス振りもよい。又よく話すが何んもなく料理屋の女中と云ふ様な感じがする。御給仕のとき客より上座に座つたが斯様なことは餘程考へなければならぬ

ことだと思ふ。

夜景を見る爲に散歩に出ると土産物を賣る各店から御安く致して置きます如何ですかと頻りに呼びかける、何んと其の賑かな事。此處には遊園地と名付くものがあるが之れは私娼窟で二百人以上の私娼がある。町の中にも二、三軒あつて宿屋の丹前姿なんかでは迂闊に歩かれぬ、猛烈に引バル、三十分計りでホウ／＼の態で宿に逃げ歸へる。何んでも此處ではコーヒー一杯に四拾錢も取ると云ふことだが之れではさうかと思ふ、考へ様に依つては之れが鬼怒川温泉の情緒かも知れないが。

番頭に寢床を取つて貰つて寢る、外へ出て寒ひ目をしたので歸つた時炬燵がなくなつてゐたのには一寸困つたが寢床に入つて驚いたことにはチャント湯タンポが入れてある。之れは良い思ひ付である。寒國の新潟縣等では早速眞似なくてはならないことであらう。いかにもサービスが行届いてゐる。

十二月十四日今日も日本晴の良い天氣午前九時頃、麻屋旅館を出て巡査部長派出所鬼怒川温泉組合長たる鬼怒川館及鬼怒川温泉ホテルを訪問する。

鬼怒川館は八層樓の堂々たる建築で玄關、應接間も立派なものであつた。第一流の旅館だけに各室共に申分なく勿論大廣間もある。温泉プールや子供の爲の温泉利用の滑り臺等もあり、便所は水洗式である。

浴場の構造も極めて良い、男女兩浴場共三十坪位もあつて

タイル張りであるが男湯の浴槽は隨圓形で白淵底は縁洗場を茶色、薄茶色白の張りませとし釣合よく岩石をあしらひ、水滴の落ちるのを防ぐ爲天井を竹の實にしてペンチレターを備へてゐる。女湯の構造も大體同様であるが落付きを見せる爲か洗場のタイルを白と青の張りませとしてゐる。女中の服装も氣が効いてゐた。

鬼怒川温泉ホテルは和洋折衷七層樓の大建築で、本館は一三九七坪餘、別館は九六六坪餘あり、敷地の全面積は四千坪に達し經營者は日光の金谷ホテルであるから外人のドライブするもの多く、バス付の立派な洋間もあり、百二十餘の客室があるから一時に千人迄を泊めることが出来る。舞臺付大廣間は二ヶ所、小宴會場二ヶ所の外三百人を收容することの出来る大食堂もある。

便所は云ふ迄もなく水洗式、浴場は白タイル張りの大浴室の外養老、夢ノ湯、鏡ノ湯等と名づくる丸風呂や、中風呂があり、春日、千鳥、吉野、楓、萩、桃等と名付くる家族風呂もある。源泉は四十二度で之れを引いて來ると浴槽では少し温いので蒸氣を以て加熱してゐる。

娛樂設備は至れり盡せりで酒場、 Grill、喫茶室、社交室ラヂオ、麻雀、玉突場、ピンポン、寫眞暗室、美容室、樂燒窯、子供遊戯場、ダンスホール等がある。殊にダンスホー

ルにはノイチケットでダンサーがサービスしてゐるし、子供遊戯場では怒り鬼の遊び等は面白い。娯楽室に全建物の二割位を使用してゐるのは御客を退屈せしめない様にする爲であらう。賣店もあつて各名物を陳列してゐる。斯る大規模な設備であるから使用人も多く百五十人位は居る。女中等も良く訓練されてゐて、ホテルの支配人に案内されて各設備を見て廻るとき行き合ふ女中等は極めて愛想良く然かも閑雅に挨拶をする。

調理場の如きも近代式に無駄の無い設備をしてゐる。入口には大立看板があつて茶代廢止と宿泊料、中食料、娯樂設備等を掲示してゐる。

鬼怒川温泉は巖石の美と奇を以て鳴る、鬼怒溪谷中の大瀧峽の中程にある温泉で旅館は何れも断崖の上に建つてゐるから紺碧と雪白を相嚼む溪泉の壯觀と兩岸の絶壁殆んぞ相摩せんとする怪岩、奇石の憤激怒號とを眺臨することが出来極めて景色のよい處であるが、此處の發展は東武鐵道社長根津嘉二郎氏にまつ事多く、東武鐵道の鬼怒川宣傳が主として今日の隆盛を招くに至つたものと云ふべく随つて浴客の八割迄が東京の人であり、其の他としては福島、山形の順である。滞在客は四月、五月、八月位で他は殆んぞ一、二泊の客で冬期を除いては常に多數の客が入り込んでゐる。一日の収容力は三千人位である。此處には共同浴場と云ふものがない。

旅館での湯持は麻屋、鬼怒川館、鬼怒川温泉ホテル位のものでは皆一ヶ月一インチ管貳百圓で分湯を受けてゐる。湯が河原に湧出してゐる爲コンクリートで十分なる保護を爲して居り、湧出量も豊富であるが地勢の関係で湯を上げる必要があり、一インチ半の管で湯を上げるのに一ヶ月五拾圓から七拾圓の動力費を費やしてゐる。

鬼怒川温泉と川治温泉を合して一つの組合が出来て居り、組合員は温泉旅館が十二戸、原泉持主が八人、普通旅館が十戸であり、組合費の分擔割合は温泉旅館を甲とし燈數で額を決め、原泉持主を乙とし之れは一ヶ月一人五圓、普通旅館を丙とし一ヶ月貳圓の割合で支出し總豫算は約四千圓であるが宣傳費用は之れを含まず臨時費として年に依つては壹萬參四千圓も支出してゐる。

宣傳方法の主なるものはポスター、パンフレットの配布の外東京のデパート等で納涼會、演藝會を開いたり、寫眞宣傳を爲したり、活動寫眞を撮影したり、新聞の記事欄に廣告したり淺草祭等の機會を捉らへたり、博覽會に出品するなご色々なことを爲してゐる。列車内の廣告や停車場内の廣告等も東京方面に全力を盡してやつてゐる。

他温泉の視察等には必ず出掛ける様である。料理屋の數は三十五戸もあり、藝妓は七、八十人位居る藝妓の線香代は祝儀、遊興税を合して一時間壹圓七拾五錢、半

玉は壹圓拾五錢で酒は一本五拾錢、ビールも五拾錢、サイダーは貳拾五錢である。衛生的設備としては簡易水道がある事と便所が水洗式に成つてゐること位のものであるが、醫療機關は醫師が二人、藥劑師、齒科醫師が各一人宛開業してゐる。

茶代廢止と成つたのは昭和九年の秋からであり、サービス料一割制度を表示してゐるのは鬼怒川館だけで他の旅館では相當の額を女中、番頭に與へるのを普通としてゐる。

土産物は羊羹、キャラブキ、栗餅、小鳥焼、椎茸の山葵漬郷土藝術品等であるが何れもよく協定が出来てゐる品物には必ず鬼怒川温泉商業組合のマークを貼布してゐる。

那須、鹽原、鬼怒川三温泉地各温泉の泉質、効能、郷土藝術、主なる旅館の献立は次の如くである。

◎那須 温泉

一、湯 本 硫化水素含有酸性明礬綠礬泉

内 用、浴 用 腦病の諸症、慢性筋關節痠痛質斯及筋の強直、脚氣、痺瘡、微毒性潰瘍、慢性關節炎、痛風、各種神經痛、痔疾常習便秘、肥胖病、黃疸、憂鬱病、下腹充血、全身多血症、背中痛、體疲勞、月經不順、歇私的里、子宮及腔の

諸病、肝臟腫病、諸般の胃病、腸の病、金屬の中毒、鉛水銀、砒石等、咽喉及氣管支加答兒に吸入せしめて効あり、其の他皮膚病一切眼病諸症。一、辨 天 温泉(單純温泉) 胃腸病、腦病、神經痛、慢性筋關節リウマチス、皮膚病筋の強直、痲痺、痔疾、男女生殖器諸病、腰痛、萎黃病、黃疸、水腫、慢性濕疹、痒疹、打撲傷症、咽喉及氣管支加答兒、小兒虫、冷へより起る諸病其他病後調理等に適應す。

一、大 丸 温泉

浴 用 胃腸病、婦人生殖器慢性諸病、小兒虫、貧血、痔疾、各種神經疾患等。

内 用 慢性胃腸病、下痢催進の腸加答兒。

一、八 幡 温泉

慢性胃加答兒、慢性腸加答兒、喉頭加答兒、氣管支加答兒、慢性肺炎、肋膜炎、筋及關節リウマチス、腦病、脚氣、慢性濕疹、歇私的里、脊髓勞、心臟病、生殖器諸病、肥胖病、神經痛、腺病、痔疾等。一、新那須温泉 内 用

胃加答兒、胃病、下痢催進腸加答兒。

浴 用

慢性胃腸病、婦人病一切、神經衰弱、慢性リウマチス、痔疾、貧血、腦病、脊髄病、打撲傷、男女癩、痛風、腺病、小兒の甘虫等。

外傷性諸障害、慢性筋及關節痲痺質斯、慢性濕疹、官能性神經病（ヒステリー及神經衰弱）軽度の脊髄病、中樞及末梢性痲痺（經久性半身不隨小兒痲痺）婦人生殖器慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質。

◎鹽原温泉

一、福渡戸温泉（弱食鹽泉）

各種リウマチス、痛風、婦人病、貧血症、消化不良性胃加答兒、腺病及重病後恢復期、慢性皮膚病及頑固の潰瘍、腦神經衰弱等。

一、大網温泉
瘡毒、疥癬、痔疾、痲病、疝氣、中風。

一、須卷温泉（單純温泉）

慢性リウマチス、慢性胃加答兒、貧血、腺病、慢性皮膚病、慢性腸加答兒、氣管支加答兒、肝充血、創傷、神經器感障害。

一、鹽釜温泉
福渡戸温泉に同じ。

湯瀧の効能——頭痛、眩暈、疝氣、打撲傷、中氣、寸白上昇、肩張、痰咳。

一、鹽の湯温泉（弱食鹽泉）

慢性消化器病（弛緩症食物停滯弛緩性便秘）慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病（糖尿病、脂肪病、痛風、貧血腺病）與奮症、神經病、胃酸過多症、消化器痲痺症、腎臟炎。

一、門前温泉、古町温泉は畑下戸温泉と大體同じ。

内 用

慢性消化器病（弛緩症食物停滯弛緩性便秘）慢性喉頭及氣管支加答兒、新陳代謝病及全身病（糖尿病、脂肪病、痛風、貧血腺病）與奮症、神經病、胃酸過多症、消化器痲痺症、腎臟炎。

◎鬼怒川温泉（單純温泉）

浴 用

慢性濕疹、火傷、切傷、打撲傷、慢性筋及關節痲痺質斯、官能性神經病、中樞及末梢痲痺、經久性半身不隨、小兒痲痺、婦人生殖器慢性諸病、慢性攝護腺炎、諸病恢復期、腺病質等。

内 用

◎郷土藝術

那須音頭

ハア

煙吐きます黄金の煙りヨイトナ

那須の湯煙り藥の香りヨイトサノサ

那須は湯治によいどころマイランセ

那須のお山はチヨイト チヨイト

お國自慢のお湯さころヨイトナ

那須小唄

那須はこよとお山の煙

さどに湯の花いつも咲くサイ

那須は湯さころよい所

ヨンスヨンスヨンスよい所

鹽原小唄

五里の街道（トコサ）自動車飛ばしや

うれしや鹽原湯のほひ（オヤ）湯のほひ

ソール鹽原ヨイトコヨイ

紅葉見るなら鹽原へおいで

お山ア 紅葉でまつさかり

ここの名物蔵に石伏魚

鬼怒川小唄

知らなきや来て見な、よつて見な

鬼怒川瀬のネ 湯で招く

山水閣音頭

いちやまりがつるふたよみよ

うきなきぬ川湯のながれ

ズイトコリヤセ

◎旅館の献立

那須温泉郷

湯本温泉

小松屋旅館、宿泊料參圓（茶代廢止せず）

○夕 食

鮎刺身、牛肉と苟の甘煮、鳥賊のテリ焼、蝦のフライ

○朝 食

オグレッツ、里芋の味噌汁、蒲鉾、福神漬。

○夕 食

（酒一本五拾錢）

新那須温泉

山樂、宿泊料四圓（茶代廢止せず）

○夕 食

鮎と鳥賊の刺身、鱒の鹽焼（四五寸のもの二尾）、鳥、

インゲン豆の汁、芋、インゲン豆、牛蒡の甘煮、菜漬
 ○朝 食
 焼海苔、薇、牡蠣と葱の味噌汁、卵焼、切り漬。
 (酒一本五拾五銭)

鹽原福渡戸温泉
 満壽屋旅館、宿泊料參圓。

○夕 食
 鱒鹽焼二尾、卵焼、麩の吸物、菜の味噌汁、鯉の洗ひ
 菜漬、蜜柑一個。

○朝 食
 蕨と油揚げの煮物、卵焼、鶏豆、豆腐の味噌汁、菜漬
 (酒一本五拾銭)

鬼怒川温泉
 麻屋旅館、宿泊料參圓五拾銭。

○夕 食
 小鳥焼、鮭刺身、牡蠣のフラヒ、薇、吸物、菜漬。

○朝 食
 卵焼、焼海苔、昆布、菜漬。
 (酒一本五拾銭)

以上を以て豫定温泉地の視察を全部終りたるに付翌十二月十五日新潟に歸著せり。
 温泉旅館の經營に經驗のない者の書いた視察記ではあるが

少しでも會員諸君の御參考に成れば幸ひである。
 左に那須、鹽原、鬼怒川三温泉組合の規約豫算等を記して
 擧筆する。

◆那須温泉旅館組合規約

第一章 組合及名稱

第一條 本組合ハ那須村大字湯本地内ノ旅館業者ヲ以テ組織シ那須温泉旅館組合ト稱ス
 第二條 本組合地域内ニ於テ温泉旅館營業ヲ開始シタル者ハ本組合ニ加入スルノ義務ヲ有ス
 第三條 前條ノ營業ヲ廢業シ又ハ地域外ニ轉住シタルトキハ當然本組合ヨリ脱退シタルモノト看做ス

第二章 目的

第四條 本組合ハ營業ニ關スル諸般ノ法令ヲ遵守シ營業並ニ之ニ伴フ設備ノ改善ヲナシ旅客ノ安寧ト本組合ノ共存共榮ヲ計リ併セテ那須全山ノ福祉ヲ増進スルヲ以テ目的トス
 第五條 本組合ハ事務所ヲ那須温泉組合事務所内ニ置ク

第三章 役員及選舉

一、組合員七名以上同意ヲ以テ請求アリタル時
 第十六條 通常總會臨時總會ハ組合員過半数出席スルニ非ザレバ開會スルコトヲ得ズ
 第十七條 役員會ハ必要ニ應ジ隨時開會スルモノトス
 第十八條 會議ハ總會出席者ノ過半数ニ依リテ決ス可否同數ナルトキハ組合長之ヲ決ス
 第十九條 組合長ハ會議ノ期日及議案ヲ開會三日前ニ組合員ニ通知ス
 但シ緊急ヲ要スル場合ハ此ノ限リニアラズ
 第二十條 規約ノ改訂ハ總會ノ決議ヲ經テ所轄警察署長ノ認可ヲ受クル事ヲ要ス

第五章 維持方法

第二十一條 本組合員ハ組合ノ經費臨時費及ビ宣傳費其他組合一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務ヲ有ス
 第二十二條 費用ノ負擔及徴收方法ハ役員會ニ於テ協議決定ス

第六章 賞 罰

第二十三條 本組合員ニシテ功勞アルモノハ組合總會ノ決議ヲ經テ表彰ス
 第二十四條 本組合員ニシテ規約ニ違反シ又ハ組合ノ體面ヲ汚ス行爲アリタル時ハ組合員總會ノ決議ヲ經テ除名ス

第六條 本組合ニ左ノ役員ヲ置ク

一、組合長 長 名
 一、副組合長 長 名
 一、理事 名
 一、顧問 名
 第七條 役員ハ總會ニ於テ互選シ任期ハ滿二ケ年トシ當選者決定ノ時ハ所轄警察署ニ届出認可ヲ受クベシ
 第八條 本組合ハ必要ニ依リ顧問若干名ヲ推選ス
 但シ黑磯警察署長黑磯驛長ハ名譽顧問トス
 第九條 本組合ニ書記ヲ置キ組合之ヲ任免ス
 第十條 組合長ハ組合一切ノ事務ヲ處理監督ス
 第十一條 副組合長ハ組合長ノ事務ヲ補佐シ組合長事故アル時ハ代理スルモノトス
 第十二條 委員ハ組合長、副組合長ノ事務ヲ授ケ處理スルモノトス
 第十三條 組合會議ヲ分チテ三種トス
 一、通常總會
 二、役員會
 三、臨時總會
 第十四條 通常總會ハ毎年一回二月ニ開會ス
 第十五條 臨時總會ハ左ノ各號ニ該當スル場合之ヲ開ク
 一、役員會ニ於テ必要ト認メタル時

第七章 解散

第二十五條 組合總會ニ於テ決定シタル場合ハ解散ス

第八章 附則

第二十六條 本組合ノ目的ヲ遂行スル爲メ本則以外ニ別ニ定ムル細則ヲ設ク

鹽原温泉組合規約

第一條 本組合ハ鹽原温泉組合ト稱シ栃木縣鹽谷郡鹽原町

内ニ於テ温泉宿營業者及ビ温泉場ニ居住シ其收益ヲ目的ト爲ス營業者ヲ以テ組織シタリ

第二條 本組合ハ鹽原町ニ湧出スル温泉全部ノ源泉ヲ統一

シ温泉場諸般ノ改良ヲ企畫シ土地ノ繁榮ヲ増進スル爲メ左ノ共同事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

(イ) 栃木縣鹽谷郡鹽原町ニ湧出スル國縣有ノ温泉使用ヲ關係官廳ヨリ許可ヲ受ケ更ニ之ヲ組合温泉宿營業者並

ニ其他ノ者ニ使用セシムルコト

(ロ) 組合營業者ノ營業ヲ監査シ其改良ヲ企畫スルコト

(ハ) 組合營業者ノ營業狀態ニ付常ニ査察ヲ爲シ營業上ノ

方針ヲ指導スルコト

(ニ) 宿泊料並ニ其他ノ販賣代金ノ統一ヲ計ルコト

(ホ) 右ノ外組合一般ニ關スル業務ヲ執行スルコト

第三條 各組合員ハ組合ノ共同事業ヲ營ム爲メ之ニ要スル費用ヲ出資スベシ

但シ出資ハ勞力ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第四條 組合員ハ後記ノ如ク本規約締結以前ヨリ使用シ來

リタル源泉ハ依然繼續シテ之ヲ使用スルコトヲ得

(後記ハ省略)

但大網温泉ハ特種ノ關係アルヲ以テ其使用ヲ無期トシ且

ツ通俗者ヨリ收受スル湯錢ヲ所得スベシ

又他ノ組合員ハ其附近ニ於テ現營業者ノ承諾ヲ得ズシテ

類似ノ營業ヲ營ムコトヲ得ズ

第五條 組合ヨリ大藏省及栃木縣廳ニ納付スル源泉使用料

ハ之ヲ使用スル各組合員ニ於テ負擔シ納付スベシ

第六條 新タニ源泉ヲ發見シ使用セントスルモノハ勿論從

來ノ源泉ト雖ドモ本規約施行後新ニ使用セントスルモノ

ハ其字内ノ承認ヲ受ケ組合長ニ申出デ理事會ノ承諾ヲ受

クベシ

第七條 新タニ營業ヲ開始セントスル者ハ本組合ニ加入シ

組合ノ承認ヲ受クベシ

前項加入ノ申込アリタル場合ハ理事會ノ決議ニ依ルモノ

トス

第八條 組合員ガ營業ヲ變更シタルトキハ組合長ニ届出ヅ

第九條 各組合員ノ出資其他ノ組合財産ハ總組合員ノ共有

第十條 本組合ノ存続期間ハ昭和九年四月一日ヨリ昭和廿

九年三月三十一日マデト定メタリ

第十一條 組合員ガ死亡シタルトキハ其相續人ニ代リテ組

合員ト爲ルベシ

第十二條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ組合ヲ脱退スベシ

(イ) 破産

(ロ) 禁治産

(ハ) 除名

(ニ) 鹽原町以外ニ爲シタル轉居

前項ノ外組合員ハ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ脱退

スルコトヲ得

第十三條 組合員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り總會ノ

決議ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第十四條 鹽原町役場内ニ組合事務所ヲ設ケ其名稱ヲ鹽原温

泉組合事務所ト定メタリ

第十五條 組合ノ業務ヲ執行スル爲メ業務執行者トシテ左ノ

役員ヲ置ク

理事會 十九名

但シ組合長ハ理事會ニ於テ組合員ヨリ選舉スル事ヲ得ベ

シ

理事ハ更ニ左ノ役員ヲ互選スベシ

(イ) 組合長 一名

(ロ) 副組合長 一名

(ハ) 主務會計 一名

(ニ) 常務理事 五名

第十六條 理事ノ任期ハ滿三ケ年ト定メタリ

但補缺當選シタルモノハ前任者ノ殘期間ヲ其任期ト定メ

タリ

第十七條 理事ノ選舉ハ温泉宿營業者及ビ其他ノ營業者各字

毎ニ左表ノ定員ヲ選舉スベシ

左表

職業別	字名	大網	鹽釜	湯ノ	畑下	門前	古町	新湯	計
温泉宿營業者	三名	○	一名	一名	二名	二名	一名	一名	十名
其他ノ營業者	一名	二名	一名	二名	一名	二名	○	○	九名
計	四名	二名	二名	三名	三名	四名	一名		十九名

第十八條 組合長ハ理事ノ選舉ヲ行フトキ組合員中温泉宿營

業者ヨリ二名其他ノ營業者ヨリ選舉立會人ヲ指定スベシ

第十九條 選舉ハ投票數ノ高點ヨリ順次定員ニ充ツルマデヲ當選者トスベシ

但同點數ナルトキハ年長者ヲ以テ當選トシ同年者ナルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二十條 投票ハ連記無記名トシ選舉人自ラ投票所ニ至リ之ヲ行フベシ

但投票用紙ハ投票所ヨリ交付シタルモノヲ使用スベシ他ノ用紙使用シタルモノハ無効タルベシ

選舉投票所ニハ組合事務所ヲ以テ之ニ充ツベシ

第二十一條 理事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ第十七條以下ノ規定ニ依リ臨時之ヲ選舉スベシ

第二十二條 組合長ハ組合事務員若干名ヲ雇用スルヲ得但其俸給ハ理事會ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十三條 役員ニハ左ノ俸給ヲ給與スベシ

- (イ) 組合長年俸 金五拾圓
- (ロ) 副組合長年俸 金貳拾五圓
- (ハ) 主務會計年俸 金貳拾五圓
- (ニ) 常務理事年俸 金五圓
- (ホ) 理事出頭一日 金壹圓

第二十四條 會議ハ通常總會臨時總會理事會トス

第二十五條 通常總會ハ毎年三月之ヲ開キ組合員ノ過半數出席スルニアラザレバ開會スルコトヲ得ズ

第二十六條 臨時總會ハ重要ナル事項又ハ臨時緊急ナル事項アルトキハ組合長ノ意見又ハ理事會ノ決議若クハ組合員貳拾名以上ノ請求ニ依リ開會スベシ

第二十七條 理事會ハ組合長ノ意見又ハ理事六名以上ノ請求ニ依リ開會スベシ

第二十八條 總會ノ決議スベキ事項左ノ如シ

- (イ) 各組合員ノ每年出資スベキ金額
- (ロ) 組合經費ノ豫算並ニ決算
- (ハ) 組合員ノ除名

第二十九條 理事會ノ決議スベキ事項左ノ如シ

- (イ) 官廳ノ諮問ニ對スル答申又ハ組合ノ意見ノ建議
- (ロ) 各組合ノ出資スベキ金額及ビ組合經費ノ豫算ニ付總會ニ提出スベキ議案
- (ハ) 組合ノ事業ヲ執行スル方法及ハ臨時緊急ナル事件ニ關スル處理方法

(ニ) 組合員ノ營業上ニ關スル諸價格ノ評定

(ホ) 組合員ヨリ新ニ申出タル源泉使用ノ許否並其使用料ノ金額

(ヘ) 組合員ガ本規約ニ違反シ又ハ宿泊人員ヲ詐リタルモノアル時ノ處分

(チ)(ト) 組合事務員ノ俸給

(テ) 右ノ外總會ノ決議ヲ要セザル諸般ノ必要ナル事項

第三十條 組合ハ毎年四月十五日マデニ組合經費ノ決算ヲ所轄警察署長ニ報告シ其承認ヲ受クベシ

前項承認ヲ受ケタルトキハ各組合員ニ通知スベシ

第三十一條 凡テ會議ハ組合長ヲ以テ議長トシ組合長事故アルトキハ副組合長之ヲ代理スベシ

會議ニ於テ議決セシ事項ハ議事録ニ記載シ組合長及理事ノ内二名署名捺印ノ上保存スベシ

第三十二條 組合長ハ専ラ組合ノ共同事業ヲ執行スルノ責ニ任シ役員ノ執務ヲ監督シ組合ノ經費其他金錢ノ收支ヲ監査シ組合ノ事業ノ發展組合員ノ福利ノ増進ヲ計ルベシ

第三十三條 組合長ハ毎年通常總會ニ於テ其年度内ニ於ケル事業ノ成績及ビ收支ノ精算報告ヲ爲シ其承認ヲ受クベシ

第三十四條 副組合長ハ組合長ノ事務ヲ補佐シ組合長事故アルトキハ其職務ヲ代理スベシ

第三十五條 主務會計ハ組合ノ金錢收支ニ關スル一切ノ事務ヲ掌リ常務理事ハ諸帳簿ヲ檢查シ其結果ヲ總會ニ報告スベシ

第三十六條 理事ハ本規約ニ規定シアル事項ヲ議決シ時々組合ノ諸帳簿及現金ノ檢查ヲ爲シ組合ノ事務ヲ整理スルノ責ニ任スベシ

第三十七條 組合ハ毎年其經費ノ豫算ヲ定メ總會ノ議決ヲ經タル上組合員全部ヨリ出資セシムベシ

第三十八條 前條ノ出資ハ左記ノ標準ヲ參酌シ總會ノ決議ヲ經タル等級ニ依ル

(イ) 温泉宿營業者ハ警察署ノ認可ノ客間ノ坪數宿泊人員ノ人員及營業ノ状態

(ロ) 其他ノ營業者ハ販賣品及ビ資本ノ多寡

第三十九條 組合員ニ對シ新タニ源泉ノ使用ヲ許可シタルトキハ理事會ノ決議ヲ經タル上其使用料ヲ徵收シ組合ノ雜收入トナスベシ

第四十條 一般ノ收入ハ本組合ノ目的ニ伴フ諸般ノ經費ニ充用シ其剩餘金ハ組合ノ基本財産トシテ蓄積スベシ

第四十一條 組合事務所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ置クベシ

- 一、温泉臺帳 一、組合員臺帳
- 一、文書收發件名簿 一、出資徵收簿
- 一、雜收入簿 一、郵便切手受拂簿
- 一、支拂原簿 一、備品目錄
- 一、湯錢徵收簿 一、重要書類綴
- 一、日誌 一、雜書編
- 一、議事錄 一、宿泊人統計簿
- 一、財產臺帳 一、宿泊人縣別簿

第四十二條 新タニ組合ニ加入シタルモノアリタルトキハ左ノ加入金ヲ徵收シ組合ノ雜收入ト爲スベシ

甲 金五拾圓以上五百圓以下

乙 金五圓以上貳百圓以下

第四十三條 組合温泉宿營業者ハ宿泊人員ヲ日計簿ニ名記シ 毎月末總員ノ累計ヲ翌月五日マデニ組合事務所ニ届出ヅベシ

組合ノ役員ハ何時ニテモ宿泊簿ヲ検査スルコトヲ得

第四十四條 組合員ハ互ニ德儀ヲ重シ他ノ組合員ノ營業及ビ利益ヲ妨害スルガ如キ言動ヲ爲スベカラズ殊ニ左ノ行爲ヲ慎ムベシ

(イ) 妄リニ組合ノ事業及ビ他ノ組合員ニ對スル流言浮説ヲ爲サザルコト

(ロ) 温泉ノ効能ヲ可否セザルコト

(ハ) 他ノ組合員ノ營業狀態ヲ批議セザルコト

(ニ) 沿道ノ旅館休憩所車夫馬丁案内人其他ノモノヲ利用シ客ヲ誘引セザルコト

(ホ) 客引ヲ出サザルコト

(ヘ) 自己ノ利益ヲ計ル爲メ(ニ)ニ記載ノ者ニ金品ヲ贈與シ若クハ贈與スルコトヲ約シ又ハ酒食ヲ供セザルコト

第四十五條 組合員ハ他ノ組合員ノ利益ヲ計ル爲メ金品ノ贈與ヲ受ケ若クハ之ヲ受クル事ヲ約シ又ハ酒食ノ饗應ヲ受ケザルベシ

第四十六條 宿泊人ノ出迎ヲ爲ス場合ハ其氏名住所ヲ記載シタル書面ヲ提出シ豫メ組合事務所ニ届出ヅベシ

第四十七條 温泉宿營業者ハ各自營業ニ關スル事項ヲ新聞雜誌其他ニ單獨ニテ廣告ヲ爲サズ組合事務所ノ名儀ヲ以テ共同之ヲ爲スベシ

但原案ヲ添ヘ事務所ニ届出テ其承認ヲ受ケタルトキハ此限リニアラズ

第四十八條 組合員ハ他ノ組合員ノ雇人タリシ者ニシテ解雇後貳ケ年ヲ經過セザル内之ヲ雇傭セントスルトキハ前雇主ノ承認ヲ得ベシ

第四十九條 組合員ニシテ温泉旅館ニ出入シ行商ヲ爲ス者ハ左ノ事項ヲ嚴守スベシ

(イ) 午前六時ヨリ午後六時マデヲ營業時間トシ客ノ需メニアラザレバ室内ニ入ラザルコト

(ロ) 客ニ對シ強賣ヲ爲サザルコト

(ハ) 客室ニ出入スル商人ハ清潔ナル衣類ヲ着用シ見苦シキ風體ヲ爲サザルコト

(ニ) 客室ノ内外ヲ問ハズ猥褻ニ涉ル言語ヲ爲サザルコト

(ホ) 旅館ノ承諾ヲ受ケズシテ館内ニ入ラザルコト

第五十條 組合員ハ火災豫防及ビ衛生ニ關シ左ノ事項ヲ嚴守スベシ

(イ) 火防方法ハ本縣令其ノ示達ニ依ルコト

(ロ) 飲料水ハ極メテ清淨ニシ汚水等ノ浸透セザル構造ヲ爲スコト

(ハ) 圓廁ハ清潔ニ掃除シ時々消毒藥ヲ撒布シ流場下水溝渠等ハ怠リナク浚渫シ排水ヲ便ナラシムルコト

(ニ) 塵芥箱ハ必ズ覆蓋アルモノヲ備ヘ置クコト

(ホ) 塵芥ハ指定以外ノ場所ニ抛ケ棄テザルコト

(ヘ) 糞尿溜牛馬厩舎養豚小屋等惡臭ヲ發散スベキモノハ組合事務所ノ承認ヲ受ケタル場所ニアラザレバ設置セザルコト

但從來ヨリ設置シアルモノモ組合事務所ヨリ移轉又ハ撤去ノ請求アリタルトキハ速カニ之ニ應ズルコト

(ト) 糞尿ノ運搬ハ日ノ出ヨリ午後十時マテハ爲サザルコト

又運搬スル時ハ必ズ覆蓋アル容器ヲ使用スルコト

但拾貳月壹日ヨリ翌年參月末日マデハ本項ノ限リニアラズ

(チ) 共同浴場ノ附近及ビ之ニ通行スル路傍ノ田畑等ニ施肥スル糞便ハ曝露シテ之ヲ爲サザルコト

但事情已ムテ得ザル場合ハ組合事務所ノ指揮ヲ受ケ適當ナル方法ヲ用ユルコト

(リ) 其他公私衛生上必要ト認メ組合事務所ノ指揮有タル時ハ之ヲ遵守スルコト

第五十一條 組合ハ存續期間ノ滿了又ハ總會ノ決議ニ因リテ解散ス

第五十二條 各組合員ハ已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ組合ノ解散ヲ請求スコトヲ得ベシ

第五十三條 組合ガ解散シタルトキハ總會ニ於テ清算人ヲ選任スベシ

第五十四條 清算人ノ職務及ビ權限ニ付テハ民法ノ規定ニ依ルベシ

第五十五條 總會ニ於テ決議シタル各組合員ノ出資ハ組合事務所ヨリ通知アリタルトキハ其指定ノ期間内ニ相違ナク事務所ニ納付スベシ

第五十六條 組合員ハ他ノ組合員ノ組合規約ニ違反シ又ハ宿泊人員ヲ詐リタルモノアル時ハ組合事務所ニ報告スベシ

第五十七條 組合規約ニ違反シ又ハ宿泊人ヲ詐リタル組合員ニ對シテハ一應組合事務所ヨリ誠告ヲ爲スベシ

右ノ誠告ニ應セザルトキハ理事會ニ於テ調査ノ上決議ヲ爲シ金五拾圓以内ノ範圍内ニ於テ違約金ヲ徵收スベシ

尙ホ其ノ情狀ニ依リ新聞紙ニ廣告シ又ハ適當ノ場所ニ掲示スル事アルベシ

第五十八條 前條ノ違約處分ヲ爲シタルトキハ違約金額及ビ其事由ヲ違反者ニ通知シタル上違約金ヲ徵收スベシ

第五十九條 違反者ヨリ徵收シタル違約金ハ組合ノ雜收入ト爲スベシ

第六十條 組合規約違反ガ組合員ノ家族雇人又ハ寄留者ノ

行爲ニ係ルトキハ組合員又ハ家主其責ニ任ズベシ
 第六十一條 組合員ガ本規約ノ債務ヲ履行セザルトキハ直チ
 ニ強制執行ヲ受クベシ前條ノ強制執行ヲ爲スモ尙不都合
 ノ行爲アルモノハ理事會ニ於テ決議シ所轄警察署長ノ承

認ヲ受ケタル上一定ノ期間源泉ノ使用ヲ停止スルコトヲ
 得ベシ
 第六十二條 本組合規約ハ所轄警察署長ノ認可ヲ受ケタリ
 第六十三條 本組合規約ハ昭和九年四月一日ヨリ施行ス

昭和十年度鹽原温泉組合歳入歳出豫算書

歳入之部

科 目	豫本年 算年度 額	豫前年 算年度 額	比 増	減 額	說 明
第一款 經常費	2,120.00	2,121.00	九四	1.00	
第一項 組合員出資額	3,120.00	3,121.00		1.00	
第一目 旅館業者出資額	1,120.00	1,121.00			
第二目 雜業者出資額	2,000.00	2,000.00			
第三目 旅館宿泊者數賦	1,000.00	1,000.00		1.00	旅館ニテ宿泊者ヨリ湯錢トシテ收入ノモノ若クハ旅館ニテ負擔ナスモノ
第二項 寄附金	450.00	450.00			
第一目 寄附金受入見込	450.00	450.00	100.00		交通業者其ノ他ヨリ受入見込額
第三項 補助金	550.00	550.00			
第一目 鹽原町補助金	550.00	550.00			

歳出之部

科 目	豫本年 算年度 額	豫前年 算年度 額	比 増	減 額	說 明
第一款 經常費	2,120.00	2,121.00	九四	1.00	
第一項 報 酬	1,120.00	1,120.00			
第一目 組合長報酬	300.00	300.00			
第二目 副組合長報酬	1,000.00	1,000.00			
第三目 主務會計報酬	1,000.00	1,000.00			
第四目 常務理事報酬	500.00	500.00			常務理事五人分
第二項 俸 給	1,100.00	1,100.00			
第一目 事務員俸給	1,000.00	1,000.00			事務員二人分月額一人四五、〇〇ノ割
第二目 臨時雇俸給	100.00	100.00			鹽原及西那須野出張所臨時雇給
第四項 過年度收入	100.00	100.00			鹽原温泉組合前年度未納金
第一目 過年度收入	100.00	100.00			
第五項 雜 收 入	110.00	110.00			
第一目 雜 收 入	110.00	110.00			
第二目 宿泊人届出用紙費	20.00	20.00			用紙ヲ組合ニテ買入シ之ヲ實費ニテ旅館ニ配付シタル其代金

第三項	事務囑託費	1000	1000				役場吏員囑託費
第三項	會議費	710	910			1910	
第一目	理事出席手當	380	500		80		理事十一名六回分
第二目	會議諸費	1000	400			3000	
第四項	視察費	10000	5000		5000		
第一目	視察費	10000	5000		5000		
第五項	雜給	10000	32000			7000	
第一目	事務員旅費	10000	11000			1000	
第二目	交際費	15000	11000			5000	
第三目	年末賞與	5000	5000				事務員二人分
第四目	使丁手當	500	500				
第六項	雜費	11000	10000			1000	
第一目	雜費	3000	5000			1000	
第二目	宿泊人届用紙費	8000	5000				
第七項	事務所費	11000	11000				
第一目	事務所費	11000	11000				電話維持費、通信費、消耗品費其他兩事務所分
第八項	土木費	3100	3000			700	
第一目	土木費	1000	1000			1000	遊覽通路(瀧道)修繕費

第二目	名所古蹟保存費	1100	1000		1100		三島氏記念碑境内手入費其ノ他
第九項	廣告費	150000	150000				
第一目	廣告費	150000	150000				春、夏、秋、冬宣傳費
第十項	納稅費	30000	10000		10000		
第一目	納稅費	30000	10000		10000		鑛泉地借入料(大藏省) 同上河川敷地占用料(栃木縣)
第二項	償還費	15000	10000			5000	
第一目	償還費	15000	10000		10000		木村靖四百圓及下野産業銀行(箆根村)讓渡)參百圓負債
第二目	利子	5000	2000			1000	同上利子ノ内
第十三項	スキー場費	10000	10000				
第一目	スキー場費	10000	10000				
第十三項	過年度支出	10000	10000				
第一目	過年度支出費	10000	10000				

歲入之部
 一金四千參百四拾圓也

歲出之部

一金四千參百四拾圓也

歲入歲出過不足ナシ

昭和九年鬼怒川温泉組合收支決算書

收入之部

種目	金額	摘要
九年度割當額	三、三〇五 ^四 六二	
九年度未納金	一一四四二	甲組一〇四、四二 乙組一〇、〇〇
差引金高殘	三、一九一 ^{二〇}	
八年度未納金	一六五 ^{三六}	
八年度分収入金	九五 ^{一一}	
差引金高殘	七〇 ^{二五}	九年度末、八年度未納金
計	三、二八六 ^{三一}	

要

支出之部

種目	金額	摘要
電話維持費	四九〇 ^五	
會議費	二一四 ^{三五}	
借家料	一八〇 ^{〇〇}	
雜費	六二三 ^{六九}	
スケルト工事費其ノ他	三二九 ^{九五}	
視察費	二二二 ^{五〇}	
旅費	一八四 ^〇	
書記手當	三二一 ^{〇〇}	
計	二、五六六 ^{〇七}	
通信用信費	二二 ^一	
印刷費	八六〇 ^二	
廣告費	五一八 ^{九〇}	

要

鬼怒川温泉旅館組合財産

種目	金額	摘要
収入金	參千貳百八拾六圓參拾壹錢也	
前年度繰越金	壹百〇九圓五拾六錢也	
合計金	參千參百九拾五圓八拾七錢	
支出金	貳千五百六拾六圓〇七錢也	
差引殘金	八百貳拾九圓八拾錢也	
計	二、五六六 ^{〇七}	
電話維持費	四九〇 ^五	
會議費	二一四 ^{三五}	
借家料	一八〇 ^{〇〇}	
雜費	六二三 ^{六九}	
スケルト工事費其ノ他	三二九 ^{九五}	
視察費	二二二 ^{五〇}	
旅費	一八四 ^〇	
書記手當	三二一 ^{〇〇}	
計	二、五六六 ^{〇七}	

要

六九七^{二九}

受入月日

九年度現在高

計	金 九百〇四圓八拾九錢也	二〇〇〇〇	昭和九年九月	一柳閣加入金
		七六〇		九年度利子公債分

外二四分利付帝國公債百圓券貳枚

鬼怒川溫泉旅館組合臨時費收支決算書

種目	金額	摘要
早橋寄附割當	四〇二・三三	
關西視察割當	二七〇・〇四	
東京市電割當	四〇〇・〇〇	
讀賣新聞	五〇〇・〇〇	割付不足組合ヨリ一五圓支出
讀賣トイキ	三〇〇・〇〇	
淺草祭ボンボリ	三〇〇・〇〇	
時事新報割當	三〇〇・〇〇	
三越展覽會割當	三〇〇・〇〇	
秋季パンフレット	二四〇・八〇	
東武省線廣告料割當	二〇二・六九	

合計	金	三、三三八・八五
未納	金	四六七・六八
差引	殘金	二、五七一・一七

收入金 貳千五百七拾壹圓拾七錢也
 支拂金 貳千四百參拾參圓八拾錢也
 差引殘金 壹百參拾七圓參拾七錢也

昭和十年度鬼怒川溫泉旅館組合歲出歲入豫算書

歲入之部

種目	金額	摘要
甲組合員疊數割當	一、三七六・〇〇	疊數ノ總數ニ對シ四分ノ割
甲組合員宿泊人員割當	二、〇六四・〇〇	宿泊人員ニ對シ六分ノ割
乙組合員	四〇〇・〇〇	乙組合員一人五圓トシテ八人分
丙組合員	二〇〇・〇〇	丙組合員一人貳圓トシテ十人分
九年度繰越金	八二九・八〇	
合計	金	四、三二九・八〇

歳出之部

種目	金額	摘要
會議費	二〇〇〇	總會及役員會
廣告費	五〇〇〇	新聞雜誌其ノ他廣告費
印刷物	三〇〇〇	組合パンフレット其ノ他
通信費	五〇〇	通信用切手、ハガキ及送料
電話料	五〇〇	二十九番(部長派出所)維持費
旅費	三〇〇〇	宣傳其ノ他旅費
事務員手當	四二〇〇	
スケートリング設備費	一、五〇〇〇	
豫備費	七四八〇	
雜費	五〇〇〇	
視察費	三〇〇〇	年二回視察ノ見込
借家料	一八〇〇〇	
計	四、三二九八〇	

新潟縣溫泉協會々則

第一章 目的

- 第一條 本會ハ新潟縣溫泉協會ト稱ス
- 第二條 本會ハ溫泉(冷鉱泉ヲ含ム以下同シ)地相互ノ連絡圓滿ヲ期シ溫泉ニ關スル必要ナル事項ヲ調査研究シ溫泉ノ保護並溫泉地ノ發展ヲ圖ルヲ目的トス
- 第三條 本會ハ前項ノ目的ヲ達成スル爲左ノ事業ヲ行フ
 - 一、溫泉ニ關スル一般調査
 - 二、縣内溫泉地ノ紹介宣傳
 - 三、溫泉地ニ於ケル衛生設備ノ充實
 - 四、溫泉地ニ於ケル名勝史蹟ノ保護調査及紹介
 - 五、溫泉地ニ於ケル行樂及遊覽施設ノ充實
 - 六、溫泉場經營方法ノ研究
 - 七、其ノ他本會ノ目的ヲ達成スルニ必要ナル事項
- 第四條 本會ハ事務所ヲ新潟縣警察部衛生課内ニ置ク
- 第五條 本會ハ各溫泉地ニ支部ヲ置ク

第二章 會員

- 第六條 會員ノ種類ヲ分チテ名譽會員及正會員トス
 - 一、正會員ハ溫泉所有者、溫泉場經營者、溫泉旅館經營者及溫泉地關係者

第三章 役員

- 第七條 溫泉地關係者ノ入退會ハ理事會ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス
- 第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 一、名譽會長
 - 一、副會長
 - 一、理事 五名
- 第九條 名譽會長ハ知事ヲ推薦シ會長ニハ警察部長、副會長ノ内一名ハ衛生課長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十條 副會長一名及理事ハ評議員ノ互選トス
- 第十一條 選舉ニ依リ選出セラレタル役員ノ任期ハ滿二ケ年トス但再選スルコトヲ得
- 第十二條 會長ハ任期終了シタルトキト雖後任者ノ就任ニ至ル迄其ノ職務ヲ行フモノトス
- 第十三條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ行フモノトス

務ヲ代理ス

第十四條 理事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ掌理シ其ノ實行ノ任ニ當ル
第十五條 本會ノ役員ハ名譽職トス
前項ノ役員及顧問、囑託會務ノ爲出張スルトキハ旅費ヲ給スルコトヲ得

第四章 評議員

第十六條 評議員ハ各支部ヨリ選出シ其ノ定員ハ會長之ヲ定ム
第十七條 評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二ケ年トス但シ再選スルコトヲ得

第五章 會議

第十八條 本會ノ會議ハ總會及理事會トシ會長之ヲ召集ス
第十九條 總會ハ評議員ヲ以テ組織シ毎年一回之ヲ開ク但シ必要アリト認メタルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得
總會ニ於テハ會務報告及必要事項ヲ議定ス
第二十條 理事會ハ會長、副會長、理事ヲ以テ組織シ會務ヲ掌理ス
顧問ハ理事會ニ出席シテ意見ヲ述ブルコトヲ得

第二十一條 總會及理事會ニ於ケル議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章 經費及會費

第二十二條 本會ノ經費ハ會費、寄附金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第二十三條 本會ノ會費ハ總會ノ決議ニ依リ各支部ノ分擔額ヲ定ム

前項ノ會費ハ四月、十月ノ二期ニ分納スルモノトス

第二十四條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十五條 本會ノ歳入歳出豫算ハ總會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二十六條 本會ノ歳入歳出決算ハ會計年度終了後總會ノ承認ヲ經ルモノトス

第七章 支部

第二十七條 支部ハ其ノ温泉地方ノ名ニ依リ新潟縣温泉協會某支部ト稱ス

第二十八條 支部ハ其ノ名稱、所在地、支部規約、會員、役員、顧問及評議員ノ氏名ヲ會長ニ通牒スベキモノトス異動ヲ生ジタルトキ亦同ジ

第二十九條 支部ハ本會ト常ニ密接ナル連絡ヲ保チ時々其ノ狀況ヲ報告スベシ

第八章 雜則

第三十條 本則ハ總會ノ議決ヲ經ルニアラザレバ之ヲ改正スルコトヲ得ズ

新潟縣温泉協會役員名簿

名譽會長	新 潟 縣 知 事	關 屋 延 之 助
會 長	新 潟 縣 警 察 部 長	土 肥 米 之
副 會 長	新 潟 縣 衛 生 課 長	池 田 信 吾
理 事	瀨 波 温 泉	佐 藤 泰 八 藏
同	月 岡 温 泉	八 子 正 一
同	村 杉、出 湯 温 泉	諸 橋 米 吉
同	湯 澤 (上 越) 温 泉	荒 木 義 雄
同	赤 倉 温 泉	高 橋 半 左 衛 門
同	瀨 波 温 泉	村 越 義 次
評 議 員	同	八 子 正 一
同	鷹 之 巢 温 泉	前 澤 定 太 郎
同	高 瀨 温 泉	鹽 入 洋 平
同	湯 澤 (岩 船) 温 泉	渡 邊 才 次
同	赤 谷 温 泉	高 橋 小 太 郎
同		高 橋 松 之 助

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

藤 湯 新 高 榮 よし 赤 松 新 菅 あけ み 角 青 桃 熊 浪 廣
本 濁 橋 の 松 葉 松 名 け ぼ よ 木 の 堂 花 瀬
屋 館 館 館 館 屋 館 館 館 館 屋 屋 屋 家 屋 屋 屋

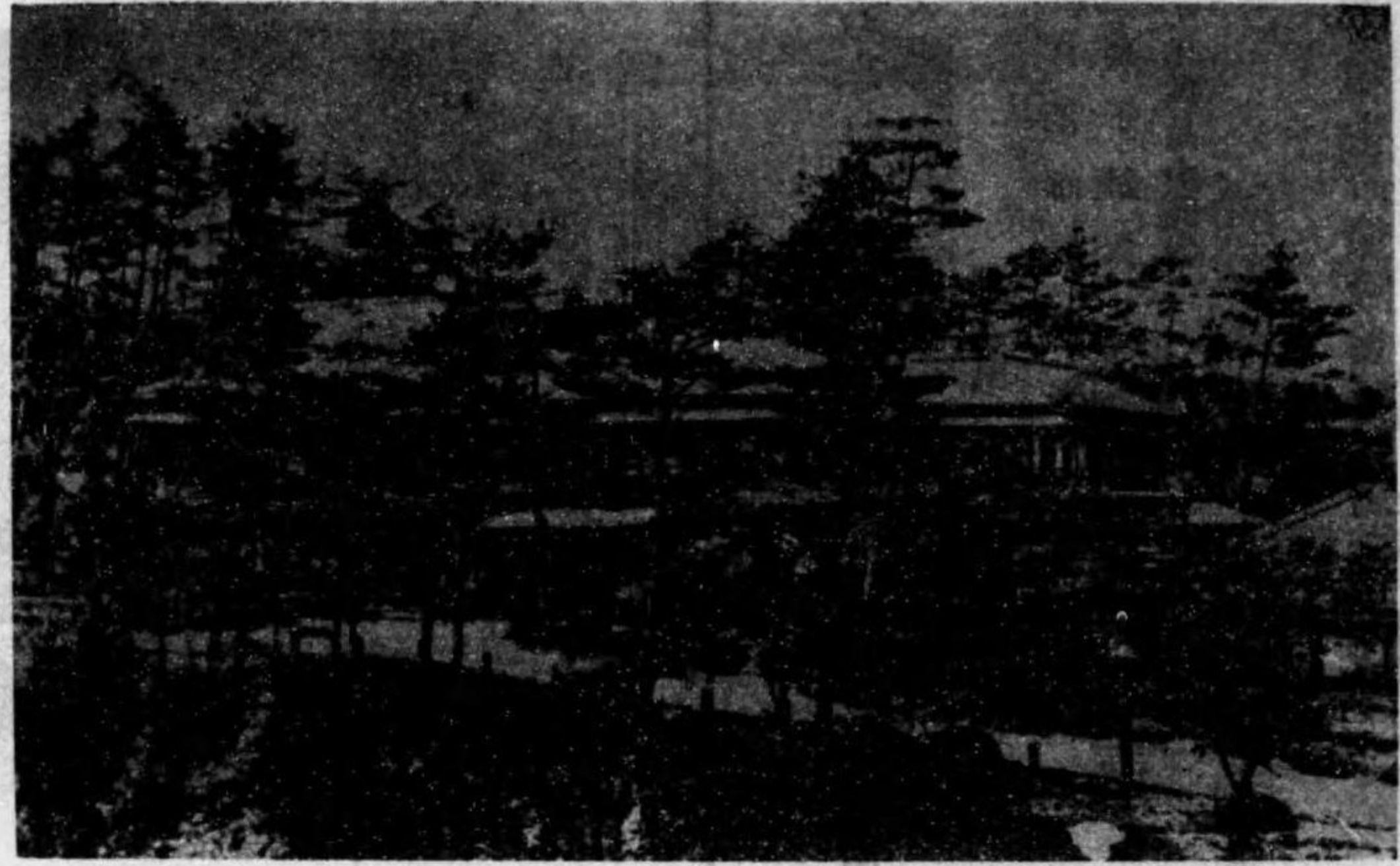
小 伊 岡 小 和 上 赤 小 中 諸 樋 乙 横 青 渡 白 浪 廣
泉 藤 崎 竹 田 野 松 谷 野 橋 口 川 山 木 邊 井 花 川
シ 太 利 タ 富 七 松 野 ナ 米 庄 ヨ 芳 小 定 藤 五 廣
ゲ 三 作 ツ 藏 郎 志 ツ ツ 吉 作 イ 助 郎 郎 郎 郎 吉

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

廣 朝 月 和 赤 高 桂 仲 酒 か 米 高 金 忍
川 日 岡 泉 谷 砂 子 屋 屋 屋 屋 屋 橋 澤 び
屋 館 館 屋 テル 屋 屋 屋 屋 屋 館 屋 屋

廣 二 今 星 高 津 須 津 三 須 堀 高 齋 河
川 瓶 井 ス 橋 野 貝 野 品 貝 堀 橋 藤 内
縫 カ 慶 ス 松 野 野 野 太 貝 龜 小 藤 重
吉 ノ 作 ミ 之 武 イ 藏 衛 藏 吉 郎 治 吉



天然の熱湯、鹽類含有の硫黄泉、無色透明
諸病に効多きリヤウマチ、神経痛は必ず全快す

鐵道省御指定旅館
第二師團御指定旅館

月岡ホテル 月岡館

月岡温泉神効湯々元

唯一の内湯

◇茶代廢止◇

御宿泊、御自炊共御隨意に願います
羽越線天王新田驛より平坦縣道一里
新潟驛より一時間、乗合自動車及貨切の便有り

中頸城郡金谷村大字向橋	同	同	同	同	同	同	同	同	同
橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋	橋
旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)	旅館(浴場)
向橋館	大日屋商店	常盤屋商店	明治館	樺太館	針村屋	中村屋	朝日屋	吉田	藤卷
川住長次郎	加藤信一	須賀時藏	藤卷丑五郎	内記甚作	尾島熊太郎	藤卷直治	吉田勘太郎	吉田勘太郎	藤卷直治



御宿泊 御隨意
御自炊
月岡温泉
松葉館
電信電話ノ便アリ

館

御宿泊 御隨意
御自炊
北蒲原郡月岡温泉
旅館 高橋館
同自動車部
電信電話ノ便アリ

館

新潟縣月岡温泉
旅館 湯本

館

御宿泊、御自炊御隨意
△浴場際▽ 羽越線天王新田驛下車
乗合ノ便有
電信電話ノ便アリ

新潟縣月岡温泉

旅館 青木屋

御宿泊、御自炊御隨意
△浴場際▽ 羽越線天王新田驛下車
乗合ノ便有
電信電話ノ便アリ

お忘れなくゼヒお土産物は當店へお出下さい

温泉土産發賣元

洋酒 雜貨
菓子 雜貨
化粧品 小間物

分新喜久屋

新潟縣北蒲原郡月岡温泉

昭和生命保險會社本田代理店

越後月岡温泉場

旅館 村上屋

御宿泊、御自炊御隨意
△浴場際▽ 羽越線天王新田驛下車
乗合ノ便有
電信電話ノ便アリ

新潟縣北蒲原郡月岡温泉
旅館 廣瀬

御宿泊、御自炊御隨意
羽越線天王新田驛ヨリ乗合十分
新温泉ヨリ一丁

館

新潟縣月岡温泉
旅館 熊堂

御宿泊、御自炊御隨意
羽越線天王新田驛下車
驛ヨリ乗合自動車ノ便有リ
新温泉ヨリ一丁

屋

新潟縣月岡温泉

浴場前
旅館 浪花屋

御宿泊、御自炊御隨意
煙草販賣
新温泉ヨリ一丁

御宿泊、御自炊御隨意
羽越線天王新田驛下車
新温泉ヨリ一丁

新潟縣月岡温泉

浴場前ノ旅館
かどや
横山ナヲエ

四季の仙郷……
天下の名湯……
出湯温泉

旅館

大石屋
大王屋

羽越線水原驛より
自動車にて三十分

閑雅幽邃の別天地に
御静養と保健に

旅館 (イロハ順)

出湯温泉 角屋
五頭山麓 湯温 荒木屋
泉清 水屋
へ 石水亭

鐵道省
陸軍省
海軍省

御指定旅館
山 湖
ジャパン、ツーリスト、ビュローロ指定

萩野屋旅館

新潟縣瀨波温泉
電話 村上百〇六番
羽越線村上驛下車

陸軍省、鐵道省、遞信省

御指定旅館
山 湖
ジャパン、ツーリスト、ビュローロ

三二島屋

電話 村上 一六六番

常噴九十尺天下ノ奇觀
村上驛ヨリ自動車ニテ五分間
海水浴ノ便アリ

羽越線村上驛下車

新潟縣瀨波温泉

御料理
御旅館

養眞亭

電話 村上 百〇七番

家族風呂有

瀨波温泉

鐵道
指定

大和屋旅館

羽越線村上驛
電話 村上 一一〇番